

社会福祉専門教育科目(専門基礎領域科目)

科目名	社会福祉概論			担当教員																			
対象学年	W1年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	W31001																		
概要	[キーワード:社会福祉・ソーシャルワーク・社会福祉実践・社会福祉の法と制度] 社会福祉の歴史・法制度・実践を柱としつつ、社会福祉を学ぶ上で最低限必要と考えられる事項を提示し、今後の勉学や将来の仕事の基礎づくりを目指したい。																						
到達目標	時代と共に変化してきている社会福祉だからこそ、その基礎はしっかりおさえられなければなるまい。本講においては、奇をてらうことなく、必要不可欠な知識の確実な定着をはかる。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 社会福祉を学ぶにあたって</td> <td>10. 社会福祉の法と制度⑤</td> </tr> <tr> <td>2. 社会福祉の歴史①</td> <td>11. 社会福祉の分野と実践①</td> </tr> <tr> <td>3. 社会福祉の歴史②</td> <td>12. 社会福祉の分野と実践②</td> </tr> <tr> <td>4. 社会福祉の歴史③</td> <td>13. 社会福祉の分野と実践③</td> </tr> <tr> <td>5. 社会福祉の歴史④</td> <td>14. 社会福祉の分野と実践④</td> </tr> <tr> <td>6. 社会福祉の法と制度①</td> <td>15. 社会福祉の分野と実践⑤</td> </tr> <tr> <td>7. 社会福祉の法と制度②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 社会福祉の法と制度③</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 社会福祉の法と制度④</td> <td></td> </tr> </table>					1. 社会福祉を学ぶにあたって	10. 社会福祉の法と制度⑤	2. 社会福祉の歴史①	11. 社会福祉の分野と実践①	3. 社会福祉の歴史②	12. 社会福祉の分野と実践②	4. 社会福祉の歴史③	13. 社会福祉の分野と実践③	5. 社会福祉の歴史④	14. 社会福祉の分野と実践④	6. 社会福祉の法と制度①	15. 社会福祉の分野と実践⑤	7. 社会福祉の法と制度②		8. 社会福祉の法と制度③		9. 社会福祉の法と制度④	
1. 社会福祉を学ぶにあたって	10. 社会福祉の法と制度⑤																						
2. 社会福祉の歴史①	11. 社会福祉の分野と実践①																						
3. 社会福祉の歴史②	12. 社会福祉の分野と実践②																						
4. 社会福祉の歴史③	13. 社会福祉の分野と実践③																						
5. 社会福祉の歴史④	14. 社会福祉の分野と実践④																						
6. 社会福祉の法と制度①	15. 社会福祉の分野と実践⑤																						
7. 社会福祉の法と制度②																							
8. 社会福祉の法と制度③																							
9. 社会福祉の法と制度④																							
評価方法	試験のみ																						
教材・教科書	『社会福祉小六法 2013』(ミネルヴァ書房) 『社会福祉用語辞典』(中央法規出版)																						
留意点	受講生には、地味なことでも着実に続けていく努力と忍耐を求めたい。																						

社会福祉専門教育科目(専門基礎領域科目)

科目名	キリスト教社会福祉論			担当教員	柘植秀通																		
対象学年	W1年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	W31002																		
概要	[キーワード:愛、共感、責任] 社会福祉の中には本来、思想性が強く必要とされます。それは、人間をどう見るか、人間の幸福とはいかにあるべきものか、さらに、そのような人間にいかに向き合っていくかといった宗教性を持った課題です。これを、弘前学院が掲げるキリスト教主義の視点から考え、特にキリスト教と社会福祉の本質的結びつきについて考える。 特に、福祉実践の基本となる「愛」とは何か。それを、現実はどう対応させていけばいいか、ということを考えていくことがこの教科の課題であり、特に聖書にもとづいて福祉をどう考えていくかを学ぶ。																						
到達目標	聖書にもとづく愛にたつ実践とは何かを学び、現実の実践の中でその愛をあらわすことができるようになる。ということが最終目標ですが、この授業においてはその基礎として、まず聖書に示されたキリストの愛について知り、実践にいかすにはどうすればいいかを考える者となることが目標です。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 社会福祉の歴史とキリスト教—1</td> <td>10. 人間の限界性と社会福祉—2</td> </tr> <tr> <td>2. 社会福祉の歴史とキリスト教—2</td> <td>11. 召命について—1</td> </tr> <tr> <td>3. 社会福祉の歴史とキリスト教—3</td> <td>12. 召命について—2</td> </tr> <tr> <td>4. 聖書に示された愛と、ボランティアズム—1</td> <td>13. 実践者としてのキリスト者—1</td> </tr> <tr> <td>5. 聖書に示された愛と、ボランティアズム—2</td> <td>14. 実践者としてのキリスト者—2</td> </tr> <tr> <td>6. 聖書に示された愛と、ボランティアズム—3</td> <td>15. 実践者としてのキリスト者—3</td> </tr> <tr> <td>7. 人間の価値について—1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 人間の価値について—2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 人間の限界性と社会福祉—1</td> <td></td> </tr> </table>					1. 社会福祉の歴史とキリスト教—1	10. 人間の限界性と社会福祉—2	2. 社会福祉の歴史とキリスト教—2	11. 召命について—1	3. 社会福祉の歴史とキリスト教—3	12. 召命について—2	4. 聖書に示された愛と、ボランティアズム—1	13. 実践者としてのキリスト者—1	5. 聖書に示された愛と、ボランティアズム—2	14. 実践者としてのキリスト者—2	6. 聖書に示された愛と、ボランティアズム—3	15. 実践者としてのキリスト者—3	7. 人間の価値について—1		8. 人間の価値について—2		9. 人間の限界性と社会福祉—1	
1. 社会福祉の歴史とキリスト教—1	10. 人間の限界性と社会福祉—2																						
2. 社会福祉の歴史とキリスト教—2	11. 召命について—1																						
3. 社会福祉の歴史とキリスト教—3	12. 召命について—2																						
4. 聖書に示された愛と、ボランティアズム—1	13. 実践者としてのキリスト者—1																						
5. 聖書に示された愛と、ボランティアズム—2	14. 実践者としてのキリスト者—2																						
6. 聖書に示された愛と、ボランティアズム—3	15. 実践者としてのキリスト者—3																						
7. 人間の価値について—1																							
8. 人間の価値について—2																							
9. 人間の限界性と社会福祉—1																							
評価方法	出席・参加点50点 レポート50点によって行う。																						
教材・教科書	聖書(新共同訳)																						
留意点																							

社会福祉専門教育科目(専門基礎領域科目)

科目名	社会福祉原論 A			担当教員	松本郁代																		
対象学年	W3年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	W31003																		
概要	[キーワード: 社会福祉学・社会福祉政策] 社会福祉と社会福祉学の違いを確認し、現在の社会福祉政策を学ぶ																						
到達目標	社会福祉政策および社会福祉の制度を理解すること																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 社会福祉学とは何か</td> <td>10. 欧米の社会福祉の歴史③</td> </tr> <tr> <td>2. ソーシャルワークとは何か</td> <td>11. アメリカの社会福祉</td> </tr> <tr> <td>3. 現代社会と生活、貧困・相対的剥奪</td> <td>12. イギリスの社会福祉</td> </tr> <tr> <td>4. 社会的排除と差別</td> <td>13. 中国・韓国の社会福祉</td> </tr> <tr> <td>5. 社会福祉の思想と原理</td> <td>14. 福祉国家の国際比較</td> </tr> <tr> <td>6. 日本の社会福祉の歴史①</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 日本の社会福祉の歴史②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 欧米の社会福祉の歴史①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 欧米の社会福祉の歴史②</td> <td></td> </tr> </table>					1. 社会福祉学とは何か	10. 欧米の社会福祉の歴史③	2. ソーシャルワークとは何か	11. アメリカの社会福祉	3. 現代社会と生活、貧困・相対的剥奪	12. イギリスの社会福祉	4. 社会的排除と差別	13. 中国・韓国の社会福祉	5. 社会福祉の思想と原理	14. 福祉国家の国際比較	6. 日本の社会福祉の歴史①	15. まとめ	7. 日本の社会福祉の歴史②		8. 欧米の社会福祉の歴史①		9. 欧米の社会福祉の歴史②	
1. 社会福祉学とは何か	10. 欧米の社会福祉の歴史③																						
2. ソーシャルワークとは何か	11. アメリカの社会福祉																						
3. 現代社会と生活、貧困・相対的剥奪	12. イギリスの社会福祉																						
4. 社会的排除と差別	13. 中国・韓国の社会福祉																						
5. 社会福祉の思想と原理	14. 福祉国家の国際比較																						
6. 日本の社会福祉の歴史①	15. まとめ																						
7. 日本の社会福祉の歴史②																							
8. 欧米の社会福祉の歴史①																							
9. 欧米の社会福祉の歴史②																							
評価方法	試験のみで評価																						
教材・教科書	中央法規出版編(2012)『社会福祉用語辞典 6訂』中央法規出版 大橋謙策(2012)『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック①現代社会と福祉』ミネルヴァ書房 井村圭壮・藤原正範 編(2007)『日本社会福祉史』勁草書房 ミネルヴァ書房編集委員会編集部(2013)『社会福祉小六法 2013』ミネルヴァ書房																						
留意点	遅刻・私語厳禁。課題提出の指示に従うこと																						

社会福祉専門教育科目(専門基礎領域科目)

科目名	社会福祉原論 B			担当教員	松本郁代																		
対象学年	W3年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	W31004																		
概要	[キーワード: 社会事業理論] 社会福祉理論と社会事業の理論のつながりを確認すること																						
到達目標	戦前の社会事業理論が、どのように現在の社会福祉政策や理論につながっているのか、その歴史的系譜を理解すること																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 社会福祉政策の新しい動向</td> <td>10. 社会事業理論④竹内愛二</td> </tr> <tr> <td>2. 福祉ニーズの把握</td> <td>11. 社会事業理論⑤大河内一男・風早十二</td> </tr> <tr> <td>3. 社会福祉政策の策定過程</td> <td>12. 社会福祉理論①孝橋正一・岡村重夫</td> </tr> <tr> <td>4. 社会福祉制度</td> <td>13. 社会福祉理論②新政策論</td> </tr> <tr> <td>5. 福祉サービスの供給とその利用</td> <td>14. 社会福祉理論の展望</td> </tr> <tr> <td>6. 社会福祉政策とその関連政策</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 社会事業理論①三好豊太郎</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 社会事業理論②小澤 一</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 社会事業理論③福山政一</td> <td></td> </tr> </table>					1. 社会福祉政策の新しい動向	10. 社会事業理論④竹内愛二	2. 福祉ニーズの把握	11. 社会事業理論⑤大河内一男・風早十二	3. 社会福祉政策の策定過程	12. 社会福祉理論①孝橋正一・岡村重夫	4. 社会福祉制度	13. 社会福祉理論②新政策論	5. 福祉サービスの供給とその利用	14. 社会福祉理論の展望	6. 社会福祉政策とその関連政策	15. まとめ	7. 社会事業理論①三好豊太郎		8. 社会事業理論②小澤 一		9. 社会事業理論③福山政一	
1. 社会福祉政策の新しい動向	10. 社会事業理論④竹内愛二																						
2. 福祉ニーズの把握	11. 社会事業理論⑤大河内一男・風早十二																						
3. 社会福祉政策の策定過程	12. 社会福祉理論①孝橋正一・岡村重夫																						
4. 社会福祉制度	13. 社会福祉理論②新政策論																						
5. 福祉サービスの供給とその利用	14. 社会福祉理論の展望																						
6. 社会福祉政策とその関連政策	15. まとめ																						
7. 社会事業理論①三好豊太郎																							
8. 社会事業理論②小澤 一																							
9. 社会事業理論③福山政一																							
評価方法	社会福祉原論 A と同様																						
教材・教科書	社会福祉原論 A と同様																						
留意点	社会福祉原論 A と同様																						

社会福祉専門教育科目(専門基礎領域科目)

科目名	ソーシャルワーク総論 A		担当教員	小川 幸裕																
対象学年	W1年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード W31005																
概要	[キーワード:社会福祉士、相談援助、権利擁護、専門職] 社会福祉士の役割(総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む)と意義や、相談援助の概念と範囲、理念について学ぶ。また、相談援助における権利擁護の意義と範囲についても学ぶ。																			
到達目標	社会福祉士における相談援助の意義や理念を理解する。 相談援助の概念と範囲、理念について学ぶ。																			
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. クライエントの尊厳と自己決定</td> </tr> <tr> <td>2. 社会福祉士の意義と役割</td> <td>10. ノーマライゼーションと社会的包摂</td> </tr> <tr> <td>3. 現代社会と地域生活</td> <td>11. 専門職倫理の概念</td> </tr> <tr> <td>4. 相談援助の定義と構成要素</td> <td>12. 倫理綱領の意義</td> </tr> <tr> <td>5. ソーシャルワークの構成要素</td> <td>13. 倫理綱領の内容</td> </tr> <tr> <td>6. ソーシャルワーカーとは</td> <td>14. ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ</td> </tr> <tr> <td>7. ソーシャルワーカーと価値</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. ソーシャルワーク実践と権利擁護</td> <td></td> </tr> </table>				1. オリエンテーション	9. クライエントの尊厳と自己決定	2. 社会福祉士の意義と役割	10. ノーマライゼーションと社会的包摂	3. 現代社会と地域生活	11. 専門職倫理の概念	4. 相談援助の定義と構成要素	12. 倫理綱領の意義	5. ソーシャルワークの構成要素	13. 倫理綱領の内容	6. ソーシャルワーカーとは	14. ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ	7. ソーシャルワーカーと価値	15. まとめ	8. ソーシャルワーク実践と権利擁護	
1. オリエンテーション	9. クライエントの尊厳と自己決定																			
2. 社会福祉士の意義と役割	10. ノーマライゼーションと社会的包摂																			
3. 現代社会と地域生活	11. 専門職倫理の概念																			
4. 相談援助の定義と構成要素	12. 倫理綱領の意義																			
5. ソーシャルワークの構成要素	13. 倫理綱領の内容																			
6. ソーシャルワーカーとは	14. ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ																			
7. ソーシャルワーカーと価値	15. まとめ																			
8. ソーシャルワーク実践と権利擁護																				
評価方法	試験 10 割で評価する。																			
教材・教科書	ミネルヴァ書房編集部編、『社会福祉小六法(平成 25 年度版)』, ミネルヴァ書房 中央法規出版編集部編. 2012, 『社会福祉用語辞典』, 中央法規出版																			
留意点																				

社会福祉専門教育科目(専門基礎領域科目)

科目名	ソーシャルワーク総論 B		担当教員	小川 幸裕																
対象学年	W1年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード W31006																
概要	[キーワード:ソーシャルワーク、歴史、専門職] ソーシャルワークに関する歴史的展開を踏まえ、相談援助にかかる専門職の概念と範囲について理解する。また、総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について理解する。																			
到達目標	相談援助における専門職における概念や専門職倫理とその必要性を理解する。																			
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1.オリエンテーション</td> <td>9. 専門職の範囲</td> </tr> <tr> <td>2.ソーシャルワークの前史</td> <td>10. 権利擁護</td> </tr> <tr> <td>3.ソーシャルワークの確立期</td> <td>11. 新しいニーズへの対応</td> </tr> <tr> <td>4.ソーシャルワークの発展期</td> <td>12. 総合的包括的な相談援助</td> </tr> <tr> <td>5.ソーシャルワークの展開期</td> <td>13. ジェネラリストの視点に基づく連携①</td> </tr> <tr> <td>6.ソーシャルワークの統合とジェネラリストソーシャルワーク</td> <td>14. ジェネラリストの視点に基づく連携②</td> </tr> <tr> <td>7.総合的かつ包括的な相談援助の全体像</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8.相談援助にかかる専門職の概念</td> <td></td> </tr> </table>				1.オリエンテーション	9. 専門職の範囲	2.ソーシャルワークの前史	10. 権利擁護	3.ソーシャルワークの確立期	11. 新しいニーズへの対応	4.ソーシャルワークの発展期	12. 総合的包括的な相談援助	5.ソーシャルワークの展開期	13. ジェネラリストの視点に基づく連携①	6.ソーシャルワークの統合とジェネラリストソーシャルワーク	14. ジェネラリストの視点に基づく連携②	7.総合的かつ包括的な相談援助の全体像	15. まとめ	8.相談援助にかかる専門職の概念	
1.オリエンテーション	9. 専門職の範囲																			
2.ソーシャルワークの前史	10. 権利擁護																			
3.ソーシャルワークの確立期	11. 新しいニーズへの対応																			
4.ソーシャルワークの発展期	12. 総合的包括的な相談援助																			
5.ソーシャルワークの展開期	13. ジェネラリストの視点に基づく連携①																			
6.ソーシャルワークの統合とジェネラリストソーシャルワーク	14. ジェネラリストの視点に基づく連携②																			
7.総合的かつ包括的な相談援助の全体像	15. まとめ																			
8.相談援助にかかる専門職の概念																				
評価方法	試験 10 割で評価する。																			
教材・教科書																				
留意点																				

社会福祉専門教育科目(専門基礎領域科目)

科目名	介護概論			担当教員	工藤千賀子																
対象学年	W2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	W31007																
概要	[キーワード: 生活者、介護、介護過程] 社会福祉士として、介護の本質とパートナーである介護福祉士の役割について学習する。																				
到達目標	1. 介護の対象としての高齢者とその家族について理解する。 2. 介護の概念と役割について理解する。																				
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1.社会福祉と介護</td> <td>9.介護実践の接遇</td> </tr> <tr> <td>2.介護の定義</td> <td>10.介護実践の倫理</td> </tr> <tr> <td>3.介護を必要とする人間の理解</td> <td>11.介護と安全</td> </tr> <tr> <td>4.高齢者の特徴①</td> <td>12.介護の専門性と技術</td> </tr> <tr> <td>5.高齢者の特徴②</td> <td>13.関連職種との連携</td> </tr> <tr> <td>6.家族と家族構造</td> <td>14.介護予防</td> </tr> <tr> <td>7.介護の場</td> <td>15.まとめ</td> </tr> <tr> <td>8.介護と介護過程</td> <td></td> </tr> </table>					1.社会福祉と介護	9.介護実践の接遇	2.介護の定義	10.介護実践の倫理	3.介護を必要とする人間の理解	11.介護と安全	4.高齢者の特徴①	12.介護の専門性と技術	5.高齢者の特徴②	13.関連職種との連携	6.家族と家族構造	14.介護予防	7.介護の場	15.まとめ	8.介護と介護過程	
1.社会福祉と介護	9.介護実践の接遇																				
2.介護の定義	10.介護実践の倫理																				
3.介護を必要とする人間の理解	11.介護と安全																				
4.高齢者の特徴①	12.介護の専門性と技術																				
5.高齢者の特徴②	13.関連職種との連携																				
6.家族と家族構造	14.介護予防																				
7.介護の場	15.まとめ																				
8.介護と介護過程																					
評価方法	2/3以上の出席者について、出席状況(15点)、筆記試験(85点)で評価する。																				
教材・教科書	社会福祉士養成講座編集委員会 編集 新・社会福祉士養成講座 13 高齢者に対する支援と介護保険制度 -高齢者福祉編、中央法規出版																				
留意点	毎回授業終了時に「ミニレポート」を記載し、提出をもって出席とします。																				

社会福祉専門教育科目(専門基礎領域科目)

科目名	介護実技			担当教員	工藤千賀子・渡部菜穂子																
対象学年	W2年	単位数・開講学期	1単位・後期	科目コード	W31008																
概要	[キーワード: 生活支援技術、安全、安楽、自立] 社会福祉を基盤とした介護を実践するために必要な専門的知識を学習し、生活支援技術を習得する。																				
到達目標	1. 介護技術に関連する基礎的知識と実践方法を理解する。 2. 生活支援技術を実践し、習得する。																				
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1.援助関係を築く基本とコミュニケーション</td> <td>9. 排泄の介護</td> </tr> <tr> <td>2.一般状態の観察</td> <td>10.身体の清潔の介護</td> </tr> <tr> <td>3.環境と安全</td> <td>11.衣類に関する介護</td> </tr> <tr> <td>4.住環境の整備</td> <td>12.認知症高齢者の介護</td> </tr> <tr> <td>5.睡眠と休息の介護</td> <td>13.緊急時の介護</td> </tr> <tr> <td>6.運動と移動の介護</td> <td>14.終末期の介護</td> </tr> <tr> <td>7.食事の介護</td> <td>15.まとめ</td> </tr> <tr> <td>8.口腔の清潔の介護</td> <td></td> </tr> </table>					1.援助関係を築く基本とコミュニケーション	9. 排泄の介護	2.一般状態の観察	10.身体の清潔の介護	3.環境と安全	11.衣類に関する介護	4.住環境の整備	12.認知症高齢者の介護	5.睡眠と休息の介護	13.緊急時の介護	6.運動と移動の介護	14.終末期の介護	7.食事の介護	15.まとめ	8.口腔の清潔の介護	
1.援助関係を築く基本とコミュニケーション	9. 排泄の介護																				
2.一般状態の観察	10.身体の清潔の介護																				
3.環境と安全	11.衣類に関する介護																				
4.住環境の整備	12.認知症高齢者の介護																				
5.睡眠と休息の介護	13.緊急時の介護																				
6.運動と移動の介護	14.終末期の介護																				
7.食事の介護	15.まとめ																				
8.口腔の清潔の介護																					
評価方法	2/3以上の出席者について、出席状況(15点)、筆記試験(85点)で評価する。																				
教材・教科書	社会福祉士養成講座編集委員会 編集 新・社会福祉士養成講座 13 高齢者に対する支援と介護保険制度 -高齢者福祉編、中央法規出版																				
留意点	毎回「ミニレポート」を記載し、提出をもって出席とします。 実技の際は身だしなみを指示します。																				

社会福祉専門教育科目(専門基礎領域科目)

科目名	社会福祉発達史 A			担当教員	松本郁代																
対象学年	W1年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	W31009																
概要	[キーワード:日本における社会福祉の歴史、慈善事業から社会事業へ] 日本の社会福祉の歴史を学び、その全体像を把握することが、この講義の概要である。もともと、なぜ社会福祉の取り組みが登場してきたのか、それはいつ頃からなのか、現在の日本の社会福祉の到達点は、どこにあるのか、また、問題点はないのかなど、現在の社会福祉の状況を把握するために、先人の取り組みやその限界性・考え方などを学ぶ。																				
到達目標	1. 社会福祉の歴史を学ぶことによって、現在の日本の社会福祉の状況や到達点について、科学的に認識し、社会や時代の流れの中で、社会福祉実践の見通しをもてるようになること。 2. 日本の社会福祉を学ぶ中で、先人の努力を謙虚に学び、さらに社会福祉の発展に寄与するためには、どのようにしたらよいかを考察すること。																				
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1.講義計画、社会福祉の歴史の全体像</td> <td>9.感化救済事業</td> </tr> <tr> <td>2.前近代における社会福祉の歴史</td> <td>10.救済と慈善</td> </tr> <tr> <td>3.恤救規則</td> <td>11.救貧法制構想</td> </tr> <tr> <td>4.特別救護立法</td> <td>12.慈善事業の発展</td> </tr> <tr> <td>5.救済事業</td> <td>13.児童保護事業の展開</td> </tr> <tr> <td>6.慈善事業</td> <td>14.養老事業の形成</td> </tr> <tr> <td>7.児童保護事業</td> <td>15.まとめ</td> </tr> <tr> <td>8.熊本バンド等</td> <td></td> </tr> </table>					1.講義計画、社会福祉の歴史の全体像	9.感化救済事業	2.前近代における社会福祉の歴史	10.救済と慈善	3.恤救規則	11.救貧法制構想	4.特別救護立法	12.慈善事業の発展	5.救済事業	13.児童保護事業の展開	6.慈善事業	14.養老事業の形成	7.児童保護事業	15.まとめ	8.熊本バンド等	
1.講義計画、社会福祉の歴史の全体像	9.感化救済事業																				
2.前近代における社会福祉の歴史	10.救済と慈善																				
3.恤救規則	11.救貧法制構想																				
4.特別救護立法	12.慈善事業の発展																				
5.救済事業	13.児童保護事業の展開																				
6.慈善事業	14.養老事業の形成																				
7.児童保護事業	15.まとめ																				
8.熊本バンド等																					
評価方法	試験のみ																				
教材・教科書	池田敬正(1994)『日本における社会福祉のあゆみ』法律文化社 室田保夫編著(2006)『人物で読む近代日本社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房																				
留意点	遅刻・私語厳禁。課題提出の指示に従うこと。																				

社会福祉専門教育科目(専門基礎領域科目)

科目名	社会福祉発達史 B			担当教員	松本郁代																
対象学年	W1年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	W31010																
概要	社会福祉発達史 A と同様																				
到達目標	社会福祉発達史 A と同様																				
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 慈善事業の社会化と組織化</td> <td>9. 社会事業⑧児童保護の進展、医療保護とセツルメント</td> </tr> <tr> <td>2. 社会事業①社会調査と社会問題論</td> <td>10. 社会事業⑨救護法の成立</td> </tr> <tr> <td>3. 社会事業②社会連帯論</td> <td>11. 戦時厚生事業①</td> </tr> <tr> <td>4. 社会事業③社会事業理論の展開</td> <td>12. 戦時厚生事業②</td> </tr> <tr> <td>5. 社会事業④救済事業調査会</td> <td>13. 戦後日本の社会福祉①</td> </tr> <tr> <td>6. 社会事業⑤社会事業行政</td> <td>14. 戦後日本の社会福祉②</td> </tr> <tr> <td>7. 社会事業⑥方面委員・社会事業の助成機関</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 社会事業⑦経済保護の形成</td> <td></td> </tr> </table>					1. 慈善事業の社会化と組織化	9. 社会事業⑧児童保護の進展、医療保護とセツルメント	2. 社会事業①社会調査と社会問題論	10. 社会事業⑨救護法の成立	3. 社会事業②社会連帯論	11. 戦時厚生事業①	4. 社会事業③社会事業理論の展開	12. 戦時厚生事業②	5. 社会事業④救済事業調査会	13. 戦後日本の社会福祉①	6. 社会事業⑤社会事業行政	14. 戦後日本の社会福祉②	7. 社会事業⑥方面委員・社会事業の助成機関	15. まとめ	8. 社会事業⑦経済保護の形成	
1. 慈善事業の社会化と組織化	9. 社会事業⑧児童保護の進展、医療保護とセツルメント																				
2. 社会事業①社会調査と社会問題論	10. 社会事業⑨救護法の成立																				
3. 社会事業②社会連帯論	11. 戦時厚生事業①																				
4. 社会事業③社会事業理論の展開	12. 戦時厚生事業②																				
5. 社会事業④救済事業調査会	13. 戦後日本の社会福祉①																				
6. 社会事業⑤社会事業行政	14. 戦後日本の社会福祉②																				
7. 社会事業⑥方面委員・社会事業の助成機関	15. まとめ																				
8. 社会事業⑦経済保護の形成																					
評価方法	社会福祉発達史 A と同様																				
教材・教科書	社会福祉発達史 A と同様																				
留意点	社会福祉発達史 A と同様																				

社会福祉専門教育科目(専門基礎領域科目)

科目名	社会保障論 A		担当教員	高橋 和 幸																
対象学年	W2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード W31011																
概要	[キーワード: 日本の社会保障の歴史 年金制度 医療制度 介護保険制度] 本講義では、社会保障の理念、歴史、構造、財源などを全般的に解説する。学習範囲は広いが、図解参考書も用いながら解説するので、社会保障 A と B を一体的に捉え、興味を持って学んで欲しい。																			
到達目標	社会保障 A の到達点は5つあり、① 現代社会における社会保障制度の課題(少子高齢化と社会保障制度の関係を含む)について理解する。② 社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。③ 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。④ 社会保障制度の体系と概要について理解する。⑤ 年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解することである。																			
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 社会保障の概念と理念</td> <td>9. 年金保険制度の内容Ⅲ 共済年金</td> </tr> <tr> <td>2. 日本の社会保障の歴史的展開</td> <td>10. 年金制度のふりかえり(確認テスト)</td> </tr> <tr> <td>3. 公的保険制度と民間保険制度</td> <td>11. 健康保険制度の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>4. 日本の社会保障制度の体系</td> <td>12. 医療保険制度の具体的内容</td> </tr> <tr> <td>5. 年金保険制度の概要</td> <td>13. 介護保険制度の概要</td> </tr> <tr> <td>6. 年金保険制度の内容Ⅰ 基礎年金</td> <td>14. 介護保険制度の近年の動向</td> </tr> <tr> <td>7. 年金保険制度の内容Ⅱ 厚生年金①</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 年金保険制度の内容Ⅱ 厚生年金②</td> <td></td> </tr> </table>				1. 社会保障の概念と理念	9. 年金保険制度の内容Ⅲ 共済年金	2. 日本の社会保障の歴史的展開	10. 年金制度のふりかえり(確認テスト)	3. 公的保険制度と民間保険制度	11. 健康保険制度の基礎知識	4. 日本の社会保障制度の体系	12. 医療保険制度の具体的内容	5. 年金保険制度の概要	13. 介護保険制度の概要	6. 年金保険制度の内容Ⅰ 基礎年金	14. 介護保険制度の近年の動向	7. 年金保険制度の内容Ⅱ 厚生年金①	15. まとめ	8. 年金保険制度の内容Ⅱ 厚生年金②	
1. 社会保障の概念と理念	9. 年金保険制度の内容Ⅲ 共済年金																			
2. 日本の社会保障の歴史的展開	10. 年金制度のふりかえり(確認テスト)																			
3. 公的保険制度と民間保険制度	11. 健康保険制度の基礎知識																			
4. 日本の社会保障制度の体系	12. 医療保険制度の具体的内容																			
5. 年金保険制度の概要	13. 介護保険制度の概要																			
6. 年金保険制度の内容Ⅰ 基礎年金	14. 介護保険制度の近年の動向																			
7. 年金保険制度の内容Ⅱ 厚生年金①	15. まとめ																			
8. 年金保険制度の内容Ⅱ 厚生年金②																				
評価方法	出席点 20 点、確認テストやレポート評価点 30 点、試験 50 点																			
教材・教科書	(教科書)社会福祉士養成講座編集委員会編『社会保障』(第3版)中央法規発行 (参考書)見て覚える国試ナビ 2013 年版 中央法規 2012 年発行																			
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてください。																			

社会福祉専門教育科目(専門基礎領域科目)

科目名	社会保障論 B		担当教員	高橋 和 幸																
対象学年	W2年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード W31012																
概要	[キーワード: 労災保険 雇用保険 社会手当 社会保障と税の一体改革] 社会保障論 A では社会保障の理念と機能、主な歴史、社会保障財源、社会保険について学習した。引き続き社会保障論 B では、社会福祉制度の沿革と社会保障が当面課題、諸外国の社会保障制度との比較の視点から講義したい。																			
到達目標	社会保障 B の到達点は5つあり、① 現代社会における社会保障制度の課題(少子高齢化と社会保障制度の関係を含む)について理解する。② 社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。③ 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。④ 社会保障制度の体系と概要について理解する。⑤ 年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解することである。																			
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 労働者災害補償保険の概要</td> <td>9. 企業年金の概要</td> </tr> <tr> <td>2. 雇用保険の概要</td> <td>10. 社会保障が当面する課題</td> </tr> <tr> <td>3. 社会福祉制度Ⅰ 沿革と生活保護制度</td> <td>11. 欧州の社会保障制度</td> </tr> <tr> <td>4. 社会福祉制度Ⅱ 児童・母子・寡婦福祉</td> <td>12. アメリカの社会保障制度等</td> </tr> <tr> <td>5. 社会福祉制度Ⅲ 高齢者、障害者の福祉</td> <td>13. 社会保障・税一体改革と年金制度改革</td> </tr> <tr> <td>6. 社会福祉制度Ⅳ 社会手当</td> <td>14. 国民医療費の伸びと、高齢者の医療制度</td> </tr> <tr> <td>7. 社会福祉制度について確認テスト</td> <td>について考える</td> </tr> <tr> <td>8. 民間保険の概要</td> <td>15. まとめ</td> </tr> </table>				1. 労働者災害補償保険の概要	9. 企業年金の概要	2. 雇用保険の概要	10. 社会保障が当面する課題	3. 社会福祉制度Ⅰ 沿革と生活保護制度	11. 欧州の社会保障制度	4. 社会福祉制度Ⅱ 児童・母子・寡婦福祉	12. アメリカの社会保障制度等	5. 社会福祉制度Ⅲ 高齢者、障害者の福祉	13. 社会保障・税一体改革と年金制度改革	6. 社会福祉制度Ⅳ 社会手当	14. 国民医療費の伸びと、高齢者の医療制度	7. 社会福祉制度について確認テスト	について考える	8. 民間保険の概要	15. まとめ
1. 労働者災害補償保険の概要	9. 企業年金の概要																			
2. 雇用保険の概要	10. 社会保障が当面する課題																			
3. 社会福祉制度Ⅰ 沿革と生活保護制度	11. 欧州の社会保障制度																			
4. 社会福祉制度Ⅱ 児童・母子・寡婦福祉	12. アメリカの社会保障制度等																			
5. 社会福祉制度Ⅲ 高齢者、障害者の福祉	13. 社会保障・税一体改革と年金制度改革																			
6. 社会福祉制度Ⅳ 社会手当	14. 国民医療費の伸びと、高齢者の医療制度																			
7. 社会福祉制度について確認テスト	について考える																			
8. 民間保険の概要	15. まとめ																			
評価方法	出席点 20 点、確認テストやレポート評価点 30 点、試験 50 点																			
教材・教科書	(教科書)社会福祉士養成講座編集委員会編『社会保障』(第3版)中央法規発行 (参考書)見て覚える国試ナビ 2013 年版 中央法規 2012 年発行																			
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてください。																			

社会福祉専門教育科目(専門基礎領域科目)

科目名	精神医学A		担当教員	和田 一丸																
対象学年	W3年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード W31013																
概要	[キーワード: 精神症状 精神科治療] 精神医学について、特に精神症状、診断、治療、社会との関係を中心に総論的に講義を行う。																			
到達目標	精神的・心理的・社会的な存在としての人間を理解するとともに、精神症状および精神障害者についての理解を深めることを目標とする。																			
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 精神医学序論</td> <td>9. 精神科治療学1</td> </tr> <tr> <td>2. ライフサイクル</td> <td>10. 精神科治療学2</td> </tr> <tr> <td>3. 精神症状学1</td> <td>11. 精神科治療学3</td> </tr> <tr> <td>4. 精神症状学2</td> <td>12. 精神科救急</td> </tr> <tr> <td>5. 精神症状学3</td> <td>13. 社会と精神医学1</td> </tr> <tr> <td>6. 精神症状学4</td> <td>14. 社会と精神医学2</td> </tr> <tr> <td>7. 精神科診断学1</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 精神科診断学2</td> <td></td> </tr> </table>				1. 精神医学序論	9. 精神科治療学1	2. ライフサイクル	10. 精神科治療学2	3. 精神症状学1	11. 精神科治療学3	4. 精神症状学2	12. 精神科救急	5. 精神症状学3	13. 社会と精神医学1	6. 精神症状学4	14. 社会と精神医学2	7. 精神科診断学1	15. まとめ	8. 精神科診断学2	
1. 精神医学序論	9. 精神科治療学1																			
2. ライフサイクル	10. 精神科治療学2																			
3. 精神症状学1	11. 精神科治療学3																			
4. 精神症状学2	12. 精神科救急																			
5. 精神症状学3	13. 社会と精神医学1																			
6. 精神症状学4	14. 社会と精神医学2																			
7. 精神科診断学1	15. まとめ																			
8. 精神科診断学2																				
評価方法	試験 60 点、出席点 40 点																			
教材・教科書	NEW精神医学 改訂第2版 編集 上島国利・丹羽真一 南江堂																			
留意点	欠席が多い場合には試験の受験を認めない。																			

社会福祉専門教育科目(専門基礎領域科目)

科目名	精神医学B		担当教員	和田 一丸																
対象学年	W3年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード W31014																
概要	[キーワード: 精神疾患] 臨床精神医学における各疾患について、その成因、症状、診断、治療を中心に講義を行う。																			
到達目標	統合失調症や気分障害などの精神医学領域における様々な疾患および障害について、その臨床的特徴、診断および治療法を中心に理解を深めることを目標とする。																			
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 統合失調症1</td> <td>9. 性に関連した障害・パーソナリティ障害</td> </tr> <tr> <td>2. 統合失調症2</td> <td>10. 精神遅滞・心理的発達障害</td> </tr> <tr> <td>3. 統合失調症3</td> <td>11. アルコールによる精神・行動の障害</td> </tr> <tr> <td>4. 気分障害1</td> <td>12. 様々な精神作用物質による精神障害</td> </tr> <tr> <td>5. 気分障害2</td> <td>13. 認知症</td> </tr> <tr> <td>6. 神経症性障害1</td> <td>14. てんかん</td> </tr> <tr> <td>7. 神経症性障害2</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 摂食障害・睡眠障害</td> <td></td> </tr> </table>				1. 統合失調症1	9. 性に関連した障害・パーソナリティ障害	2. 統合失調症2	10. 精神遅滞・心理的発達障害	3. 統合失調症3	11. アルコールによる精神・行動の障害	4. 気分障害1	12. 様々な精神作用物質による精神障害	5. 気分障害2	13. 認知症	6. 神経症性障害1	14. てんかん	7. 神経症性障害2	15. まとめ	8. 摂食障害・睡眠障害	
1. 統合失調症1	9. 性に関連した障害・パーソナリティ障害																			
2. 統合失調症2	10. 精神遅滞・心理的発達障害																			
3. 統合失調症3	11. アルコールによる精神・行動の障害																			
4. 気分障害1	12. 様々な精神作用物質による精神障害																			
5. 気分障害2	13. 認知症																			
6. 神経症性障害1	14. てんかん																			
7. 神経症性障害2	15. まとめ																			
8. 摂食障害・睡眠障害																				
評価方法	試験 60 点、出席点 40 点																			
教材・教科書	NEW精神医学 改訂第2版 編集 上島国利・丹羽真一 南江堂																			
留意点	欠席が多い場合には試験の受験を認めない。																			

社会福祉専門教育科目(専門基礎領域科目)

科目名	精神保健学A		担当教員	吉岡利忠・葛西久志																		
対象学年	W2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード W31015																		
概要	[キーワード: 社会環境、精神保健福祉士、地域精神保健] 精神面での保健を体系的に捉え、対応策や予防策を考える。社会環境の変化と強い関連性をもっていることを正しく理解する。																					
到達目標	精神保健福祉士を目指す人々に限らず、精神保健の基本的な視点を理解し、自らのメンタルヘル스에役立てられるよう知識、援助の技術を理解する。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション(精神保健とは)</td> <td>10. ひきこもりをめぐる精神保健</td> </tr> <tr> <td>2. 精神保健の概要</td> <td>11. 介護をめぐる精神保健</td> </tr> <tr> <td>3. 精神保健の歴史</td> <td>12. 高齢者の精神保健</td> </tr> <tr> <td>4. 精神保健の課題</td> <td>13. 家族問題の相談機関</td> </tr> <tr> <td>5. 社会構造の変化と新しい健康観</td> <td>14. 精神保健の専門職種</td> </tr> <tr> <td>6. 生活習慣と精神の健康</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 精神保健と予防の概念</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 現代日本の家族の特徴</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 結婚生活と精神保健</td> <td></td> </tr> </table>				1. オリエンテーション(精神保健とは)	10. ひきこもりをめぐる精神保健	2. 精神保健の概要	11. 介護をめぐる精神保健	3. 精神保健の歴史	12. 高齢者の精神保健	4. 精神保健の課題	13. 家族問題の相談機関	5. 社会構造の変化と新しい健康観	14. 精神保健の専門職種	6. 生活習慣と精神の健康	15. まとめ	7. 精神保健と予防の概念		8. 現代日本の家族の特徴		9. 結婚生活と精神保健	
1. オリエンテーション(精神保健とは)	10. ひきこもりをめぐる精神保健																					
2. 精神保健の概要	11. 介護をめぐる精神保健																					
3. 精神保健の歴史	12. 高齢者の精神保健																					
4. 精神保健の課題	13. 家族問題の相談機関																					
5. 社会構造の変化と新しい健康観	14. 精神保健の専門職種																					
6. 生活習慣と精神の健康	15. まとめ																					
7. 精神保健と予防の概念																						
8. 現代日本の家族の特徴																						
9. 結婚生活と精神保健																						
評価方法	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。試験(100点)で評価する。																					
教材・教科書	新・精神保健福祉士養成講座第3巻 精神保健福祉相談援助の基盤 中央法規出版																					
留意点	第1章・第2章(吉岡利忠)、第3章・第4章(葛西久志)																					

社会福祉専門教育科目(専門基礎領域科目)

科目名	精神保健学B		担当教員	葛西久志・吉岡利忠																		
対象学年	W2年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード W31016																		
概要	[キーワード: ライフサイクル、薬物依存、認知症] 精神保健の新たな広がりを学ぶ。ひきこもり対策、災害時の精神保健、犯罪被害者の心の傷、性同一性障害対象者へのサポート等の新しい課題を学ぶ。																					
到達目標	精神保健福祉士を目指す人々に限らず、精神保健の基本的な視点を理解し、自らのメンタルヘル스에役立てられるよう知識、援助の技術を理解する。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 現代日本の学校教育の課題</td> <td>10. ターミナルケア等と精神保健</td> </tr> <tr> <td>2. 教員の精神保健 他</td> <td>11. 精神保健に関する調査と資源開発</td> </tr> <tr> <td>3. 現代日本の労働環境</td> <td>12. 地域精神保健と関係法規</td> </tr> <tr> <td>4. うつ病と過労自殺 他</td> <td>13. 精神保健に関する人材育成</td> </tr> <tr> <td>5. 発達障害者に対する対策</td> <td>14. 世界の精神保健</td> </tr> <tr> <td>6. アルコール問題等への対策</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 災害時の精神保健に対する対策</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 災害被害者の精神保健</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. ニート、ホームレス等の精神保健</td> <td></td> </tr> </table>				1. 現代日本の学校教育の課題	10. ターミナルケア等と精神保健	2. 教員の精神保健 他	11. 精神保健に関する調査と資源開発	3. 現代日本の労働環境	12. 地域精神保健と関係法規	4. うつ病と過労自殺 他	13. 精神保健に関する人材育成	5. 発達障害者に対する対策	14. 世界の精神保健	6. アルコール問題等への対策	15. まとめ	7. 災害時の精神保健に対する対策		8. 災害被害者の精神保健		9. ニート、ホームレス等の精神保健	
1. 現代日本の学校教育の課題	10. ターミナルケア等と精神保健																					
2. 教員の精神保健 他	11. 精神保健に関する調査と資源開発																					
3. 現代日本の労働環境	12. 地域精神保健と関係法規																					
4. うつ病と過労自殺 他	13. 精神保健に関する人材育成																					
5. 発達障害者に対する対策	14. 世界の精神保健																					
6. アルコール問題等への対策	15. まとめ																					
7. 災害時の精神保健に対する対策																						
8. 災害被害者の精神保健																						
9. ニート、ホームレス等の精神保健																						
評価方法	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。試験(100点)で評価する。																					
教材・教科書	新・精神保健福祉士養成講座第3巻 精神保健福祉相談援助の基盤 中央法規出版																					
留意点	第5・6・7章(葛西久志)、第8・9・10章(吉岡利忠)																					



社会福祉専門教育科目(専門基礎領域科目)

科目名	精神保健福祉援助技術総論【2012年度以降入学生】		担当教員	葛西久志																		
対象学年	W2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード W31019																		
概要	[キーワード:相談支援、専門職、権利擁護] 福祉専門職の基本理念をはじめ、精神障害者への処遇と特性、精神保健福祉士の役割、相談援助の定義・理念・形成過程・体系・権利擁護、精神保健福祉士と他専門職の概念と範囲、精神保健福祉士も含む多職種連携などである。また精神科病院等の機能・役割も理解する。																					
到達目標	精神障害者を中心とした社会福祉援助活動の目的、価値等具体的事例に基づいて理解すること。社会福祉援助活動及び精神保健福祉援助活動における専門的援助技術の体系について理解する。精神保健福祉士と専門的援助活動技術について理解する。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1.福祉専門職の基本視点</td> <td>10.精神保健福祉援助活動の目的・価値・原則</td> </tr> <tr> <td>2.精神障害者の現況</td> <td>11.精神保健福祉士の役割と意義</td> </tr> <tr> <td>3.精神障害者への処遇(過去・現在・未来)</td> <td>12.精神科病院などの各種関係機関における個別支援</td> </tr> <tr> <td>4.精神障害者の特性</td> <td>13.精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割</td> </tr> <tr> <td>5.家族・専門職の対応</td> <td>14.精神保健福祉士の倫理と権利擁護</td> </tr> <tr> <td>6.医療機関の中での視点</td> <td>15.精神保健福祉活動における多職種連携の意義と内容</td> </tr> <tr> <td>7.福祉専門職および精神保健福祉士の役割</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8.精神保健福祉援助活動の意義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9.海外の精神医療</td> <td></td> </tr> </table>				1.福祉専門職の基本視点	10.精神保健福祉援助活動の目的・価値・原則	2.精神障害者の現況	11.精神保健福祉士の役割と意義	3.精神障害者への処遇(過去・現在・未来)	12.精神科病院などの各種関係機関における個別支援	4.精神障害者の特性	13.精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割	5.家族・専門職の対応	14.精神保健福祉士の倫理と権利擁護	6.医療機関の中での視点	15.精神保健福祉活動における多職種連携の意義と内容	7.福祉専門職および精神保健福祉士の役割		8.精神保健福祉援助活動の意義		9.海外の精神医療	
1.福祉専門職の基本視点	10.精神保健福祉援助活動の目的・価値・原則																					
2.精神障害者の現況	11.精神保健福祉士の役割と意義																					
3.精神障害者への処遇(過去・現在・未来)	12.精神科病院などの各種関係機関における個別支援																					
4.精神障害者の特性	13.精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割																					
5.家族・専門職の対応	14.精神保健福祉士の倫理と権利擁護																					
6.医療機関の中での視点	15.精神保健福祉活動における多職種連携の意義と内容																					
7.福祉専門職および精神保健福祉士の役割																						
8.精神保健福祉援助活動の意義																						
9.海外の精神医療																						
評価方法	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。試験(100点)で評価する。																					
教材・教科書	新・精神保健福祉士養成講座第3巻 精神保健福祉相談援助の基盤 中央法規出版																					
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。																					

社会福祉専門教育科目(専門基礎領域科目)

科目名	精神保健福祉援助技術総論A		担当教員	葛西久志																		
対象学年	W2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード W31017																		
概要	[キーワード:相談支援、専門職、権利擁護] 福祉専門職の基本理念をはじめ、精神障害者への処遇と特性、精神保健福祉士の役割、相談援助の定義・理念・形成過程・体系・権利擁護、精神保健福祉士と他専門職の概念と範囲、精神保健福祉士も含む多職種連携などである。また精神科病院等の機能・役割も理解する。																					
到達目標	精神障害者を中心とした社会福祉援助活動の目的、価値等具体的事例に基づいて理解すること。社会福祉援助活動及び精神保健福祉援助活動における専門的援助技術の体系について理解する。精神保健福祉士と専門的援助活動技術について理解する。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1.福祉専門職の基本視点</td> <td>10.精神保健福祉援助活動の目的・価値・原則</td> </tr> <tr> <td>2.精神障害者の現況</td> <td>11.精神保健福祉士の役割と意義</td> </tr> <tr> <td>3.精神障害者への処遇(過去・現在・未来)</td> <td>12.精神科病院などの各種関係機関における個別支援</td> </tr> <tr> <td>4.精神障害者の特性</td> <td>13.精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割</td> </tr> <tr> <td>5.家族・専門職の対応</td> <td>14.精神保健福祉士の倫理と権利擁護</td> </tr> <tr> <td>6.医療機関の中での視点</td> <td>15.精神保健福祉活動における多職種連携の意義と内容</td> </tr> <tr> <td>7.福祉専門職および精神保健福祉士の役割</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8.精神保健福祉援助活動の意義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9.海外の精神医療</td> <td></td> </tr> </table>				1.福祉専門職の基本視点	10.精神保健福祉援助活動の目的・価値・原則	2.精神障害者の現況	11.精神保健福祉士の役割と意義	3.精神障害者への処遇(過去・現在・未来)	12.精神科病院などの各種関係機関における個別支援	4.精神障害者の特性	13.精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割	5.家族・専門職の対応	14.精神保健福祉士の倫理と権利擁護	6.医療機関の中での視点	15.精神保健福祉活動における多職種連携の意義と内容	7.福祉専門職および精神保健福祉士の役割		8.精神保健福祉援助活動の意義		9.海外の精神医療	
1.福祉専門職の基本視点	10.精神保健福祉援助活動の目的・価値・原則																					
2.精神障害者の現況	11.精神保健福祉士の役割と意義																					
3.精神障害者への処遇(過去・現在・未来)	12.精神科病院などの各種関係機関における個別支援																					
4.精神障害者の特性	13.精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割																					
5.家族・専門職の対応	14.精神保健福祉士の倫理と権利擁護																					
6.医療機関の中での視点	15.精神保健福祉活動における多職種連携の意義と内容																					
7.福祉専門職および精神保健福祉士の役割																						
8.精神保健福祉援助活動の意義																						
9.海外の精神医療																						
評価方法	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。試験(100点)で評価する。																					
教材・教科書	新・精神保健福祉士養成講座第3巻 精神保健福祉相談援助の基盤 中央法規出版																					
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。																					

社会福祉専門教育科目(専門基礎領域科目)

科目名	精神保健福祉援助技術総論B		担当教員	葛西久志																		
対象学年	W2年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード W31018																		
概要	[キーワード: ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク] 伝統的な三分法であるケースワーク、グループワーク、コミュニティワークと関連援助技術などの役割・意義そして原則や展開過程を中心とした内容である。																					
到達目標	精神障害者を中心とした社会福祉援助活動の目的、価値等具体的事例に基づいて理解すること。社会福祉援助活動及び精神保健福祉援助活動における専門的援助技術の体系について理解する。精神保健福祉士と専門的援助活動技術について理解する。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1.精神保健福祉援助技術の定義、概念</td> <td>10.ライフサイクルに伴う専門的援助活動②</td> </tr> <tr> <td>2.ケースワークの内容と機能</td> <td>11.ライフサイクルに伴う専門的援助活動③</td> </tr> <tr> <td>3.グループワークの内容と機能</td> <td>12.地域生活支援における専門的援助活動</td> </tr> <tr> <td>4.コミュニティワークの内容と機能</td> <td>13.就労支援における専門的援助活動</td> </tr> <tr> <td>5.ソーシャルワーク・リサーチ、アドミニストレーション</td> <td>14.関連領域における専門的援助活動</td> </tr> <tr> <td>6.ソーシャル・アクション、プランニング</td> <td>15.まとめ</td> </tr> <tr> <td>7.関連援助技術(ケアマネジメント)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8.関連援助技術(カウンセリングなど)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9.ライフサイクルに伴う専門的援助活動①</td> <td></td> </tr> </table>				1.精神保健福祉援助技術の定義、概念	10.ライフサイクルに伴う専門的援助活動②	2.ケースワークの内容と機能	11.ライフサイクルに伴う専門的援助活動③	3.グループワークの内容と機能	12.地域生活支援における専門的援助活動	4.コミュニティワークの内容と機能	13.就労支援における専門的援助活動	5.ソーシャルワーク・リサーチ、アドミニストレーション	14.関連領域における専門的援助活動	6.ソーシャル・アクション、プランニング	15.まとめ	7.関連援助技術(ケアマネジメント)		8.関連援助技術(カウンセリングなど)		9.ライフサイクルに伴う専門的援助活動①	
1.精神保健福祉援助技術の定義、概念	10.ライフサイクルに伴う専門的援助活動②																					
2.ケースワークの内容と機能	11.ライフサイクルに伴う専門的援助活動③																					
3.グループワークの内容と機能	12.地域生活支援における専門的援助活動																					
4.コミュニティワークの内容と機能	13.就労支援における専門的援助活動																					
5.ソーシャルワーク・リサーチ、アドミニストレーション	14.関連領域における専門的援助活動																					
6.ソーシャル・アクション、プランニング	15.まとめ																					
7.関連援助技術(ケアマネジメント)																						
8.関連援助技術(カウンセリングなど)																						
9.ライフサイクルに伴う専門的援助活動①																						
評価方法	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。試験(100点)で評価する。																					
教材・教科書	新・精神保健福祉士養成講座第3巻 精神保健福祉相談援助の基盤 中央法規出版																					
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。																					

社会福祉学支援科目(実践領域科目)

科目名	ソーシャルワーク論ⅠA			担当教員	小川 幸裕																
対象学年	W2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	W32001																
概要	[キーワード:ソーシャルワーク、相談援助、面接] ソーシャルワークの構造や機能について学ぶ。またソーシャルワークにおけるシステム理論を学ぶとともに、相談援助の意義や技術についても理解を深める。																				
到達目標	ソーシャルワークの構造と理論について理解する。 相談援助における援助関係や面接や記録の目的・技術について理解する。																				
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 援助関係の質と自己覚知</td> </tr> <tr> <td>2. ソーシャルワークを構成する要素</td> <td>10. 相談援助における面接の目的</td> </tr> <tr> <td>3. ソーシャルワークの職場</td> <td>11. 面接における技術とコミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>4. ソーシャルワークの機能</td> <td>12. 記録の意義とその活用目的</td> </tr> <tr> <td>5. 実践における人と環境</td> <td>13. 記録の技術の実際</td> </tr> <tr> <td>6. システム理論によるソーシャルワーク論</td> <td>14. 相談援助のための交渉の技術</td> </tr> <tr> <td>7. 援助関係の意義</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 援助構造と援助関係</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 援助関係の質と自己覚知	2. ソーシャルワークを構成する要素	10. 相談援助における面接の目的	3. ソーシャルワークの職場	11. 面接における技術とコミュニケーション	4. ソーシャルワークの機能	12. 記録の意義とその活用目的	5. 実践における人と環境	13. 記録の技術の実際	6. システム理論によるソーシャルワーク論	14. 相談援助のための交渉の技術	7. 援助関係の意義	15. まとめ	8. 援助構造と援助関係	
1. オリエンテーション	9. 援助関係の質と自己覚知																				
2. ソーシャルワークを構成する要素	10. 相談援助における面接の目的																				
3. ソーシャルワークの職場	11. 面接における技術とコミュニケーション																				
4. ソーシャルワークの機能	12. 記録の意義とその活用目的																				
5. 実践における人と環境	13. 記録の技術の実際																				
6. システム理論によるソーシャルワーク論	14. 相談援助のための交渉の技術																				
7. 援助関係の意義	15. まとめ																				
8. 援助構造と援助関係																					
評価方法	試験 10割で評価する。																				
教材・教科書	社会福祉士養成講座編集委員会、『相談援助の理論と方法Ⅰ』, 中央法規出版 社会福祉士養成講座編集委員会、『相談援助の理論と方法Ⅱ』, 中央法規出版																				
留意点																					

社会福祉学支援科目(実践領域科目)

科目名	ソーシャルワーク論ⅠB			担当教員	小川 幸裕																		
対象学年	W2年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	W32002																		
概要	[キーワード:実践モデル、アプローチ、スーパービジョン、事例研究] 相談援助における多様な実践モデルやアプローチについて学ぶ。また、具体的な事例を通してモデルやアプローチ、スーパービジョンなどの理解を深める。																						
到達目標	相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。 相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1.オリエンテーション</td> <td>10.スーパービジョン</td> </tr> <tr> <td>2.実践モデルとその意味</td> <td>11.スーパービジョン</td> </tr> <tr> <td>3.治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル</td> <td>12.ケースカンファレンスの技術</td> </tr> <tr> <td>4. 様々な実践モデルとアプローチ</td> <td>13.事例研究・事例分析</td> </tr> <tr> <td>5. 様々な実践モデルとアプローチ</td> <td>14.事例研究・事例分析</td> </tr> <tr> <td>6. 様々な実践モデルとアプローチ</td> <td>15.まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 様々な実践モデルとアプローチ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 様々な実践モデルとアプローチ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 様々な実践モデルとアプローチ</td> <td></td> </tr> </table>					1.オリエンテーション	10.スーパービジョン	2.実践モデルとその意味	11.スーパービジョン	3.治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル	12.ケースカンファレンスの技術	4. 様々な実践モデルとアプローチ	13.事例研究・事例分析	5. 様々な実践モデルとアプローチ	14.事例研究・事例分析	6. 様々な実践モデルとアプローチ	15.まとめ	7. 様々な実践モデルとアプローチ		8. 様々な実践モデルとアプローチ		9. 様々な実践モデルとアプローチ	
1.オリエンテーション	10.スーパービジョン																						
2.実践モデルとその意味	11.スーパービジョン																						
3.治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル	12.ケースカンファレンスの技術																						
4. 様々な実践モデルとアプローチ	13.事例研究・事例分析																						
5. 様々な実践モデルとアプローチ	14.事例研究・事例分析																						
6. 様々な実践モデルとアプローチ	15.まとめ																						
7. 様々な実践モデルとアプローチ																							
8. 様々な実践モデルとアプローチ																							
9. 様々な実践モデルとアプローチ																							
評価方法	試験 10割で評価する。																						
教材・教科書																							
留意点																							

社会福祉学支援科目(実践領域科目)

科目名	ソーシャルワーク論ⅡA			担当教員	柘植秀通																
対象学年	W3年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	W32003																
概要	[キーワード: 相談援助の実際] 相談援助家庭の概略を理解し、その過程について細かく考察する。また、後期への橋渡しとして、実践的な援助の方法である、ケースマネジメントとグループ援助を学ぶ。																				
到達目標	相談援助の流れを理解し、その細かい過程について、一つ一つの意味内容を知る。																				
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. モニタリング・効果測定等の技術</td> </tr> <tr> <td>2. 人と環境の相互作用(環境システム)</td> <td>10. ケースマネジメントについて1</td> </tr> <tr> <td>3. 相談援助の展開過程1(概略)</td> <td>11. ケースマネジメントについて2</td> </tr> <tr> <td>4. 相談援助の展開過程2(インテーク～アセスメント)</td> <td>12. グループによる援助1</td> </tr> <tr> <td>5. 相談援助の展開過程3(プランニング～支援の実施)</td> <td>13. グループによる援助2</td> </tr> <tr> <td>6. 相談援助の展開過程4(モニタリング～終結)</td> <td>14. グループによる援助3</td> </tr> <tr> <td>7. アセスメントの技術について</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 支援の実施(介入)の技術について</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. モニタリング・効果測定等の技術	2. 人と環境の相互作用(環境システム)	10. ケースマネジメントについて1	3. 相談援助の展開過程1(概略)	11. ケースマネジメントについて2	4. 相談援助の展開過程2(インテーク～アセスメント)	12. グループによる援助1	5. 相談援助の展開過程3(プランニング～支援の実施)	13. グループによる援助2	6. 相談援助の展開過程4(モニタリング～終結)	14. グループによる援助3	7. アセスメントの技術について	15. まとめ	8. 支援の実施(介入)の技術について	
1. オリエンテーション	9. モニタリング・効果測定等の技術																				
2. 人と環境の相互作用(環境システム)	10. ケースマネジメントについて1																				
3. 相談援助の展開過程1(概略)	11. ケースマネジメントについて2																				
4. 相談援助の展開過程2(インテーク～アセスメント)	12. グループによる援助1																				
5. 相談援助の展開過程3(プランニング～支援の実施)	13. グループによる援助2																				
6. 相談援助の展開過程4(モニタリング～終結)	14. グループによる援助3																				
7. アセスメントの技術について	15. まとめ																				
8. 支援の実施(介入)の技術について																					
評価方法	出席 50%とレポート 50%による																				
教材・教科書	新・社会福祉士養成講座 7 巻「相談援助の理論と方法Ⅰ」中央法規																				
留意点																					

社会福祉学支援科目(実践領域科目)

科目名	ソーシャルワーク論ⅡB			担当教員	柘植秀通																
対象学年	W3年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	W32004																
概要	[キーワード: 社会への働きかけ、連携] 機関内にいるクライアントとのみ関わる、ミクロの対応でなく、機関外のクライアントやその他の専門家との関係を構築し、よりよい援助のあり方について学ぶ。																				
到達目標	機関外に目を向け、メゾからマクロへの対応について考えられるようになる。																				
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 社会資源の活用2</td> </tr> <tr> <td>2. アウトリーチについて1</td> <td>10. 交渉の技術 1</td> </tr> <tr> <td>3. アウトリーチについて2</td> <td>11. 交渉の技術2</td> </tr> <tr> <td>4. コーディネーションについて1</td> <td>12. スーパービジョンについて</td> </tr> <tr> <td>5. コーディネーションについて2</td> <td>13. ひやりハットについて</td> </tr> <tr> <td>6. ネットワーキングについて1</td> <td>14. 個人情報の保護について</td> </tr> <tr> <td>7. ネットワーキングについて2</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 社会資源の活用1</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 社会資源の活用2	2. アウトリーチについて1	10. 交渉の技術 1	3. アウトリーチについて2	11. 交渉の技術2	4. コーディネーションについて1	12. スーパービジョンについて	5. コーディネーションについて2	13. ひやりハットについて	6. ネットワーキングについて1	14. 個人情報の保護について	7. ネットワーキングについて2	15. まとめ	8. 社会資源の活用1	
1. オリエンテーション	9. 社会資源の活用2																				
2. アウトリーチについて1	10. 交渉の技術 1																				
3. アウトリーチについて2	11. 交渉の技術2																				
4. コーディネーションについて1	12. スーパービジョンについて																				
5. コーディネーションについて2	13. ひやりハットについて																				
6. ネットワーキングについて1	14. 個人情報の保護について																				
7. ネットワーキングについて2	15. まとめ																				
8. 社会資源の活用1																					
評価方法	出席 50%とレポート 50%による																				
教材・教科書	新・社会福祉士養成講座 7 巻「相談援助の理論と方法Ⅰ」中央法規 新・社会福祉士養成講座 8 巻「相談援助の理論と方法Ⅱ」中央法規																				
留意点																					

社会福祉学支援科目(実践領域科目)

科目名	社会福祉調査法			担当教員	松本悦子																		
対象学年	W3年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	W32005																		
概要	[キーワード: 量的調査、質的調査] 社会調査法は、さまざまな社会現象や問題について研究するための方法論です。本講義ではこの方法を身に付けることを目標とし、社会調査に感ずる基礎知識、分析方法等を学びます。																						
到達目標	1. 適切な調査、不適切な調査について理解する。 2. 自分自身で疑問を発見し、問いを立てる能力を身につける。 3. 具体的な調査の企画・実施・まとめができるようになる。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>10. データの整理・分析②</td> </tr> <tr> <td>2. 社会調査とは何か</td> <td>11. 事例研究と質的調査①(聴き取り調査)</td> </tr> <tr> <td>3. 調査実施の方法論</td> <td>12. 事例研究と質的調査②(参与観察法)</td> </tr> <tr> <td>4. 統計的研究と事例研究</td> <td>13. 事例研究と質的調査③(ドキュメント分析)</td> </tr> <tr> <td>5. 調査票調査の方法</td> <td>14. 報告書のまとめ方と調査倫理</td> </tr> <tr> <td>6. 調査票を作る①(質問文について)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 調査票を作る②(調査票の構成について)</td> <td>* 順番は必要に応じて入れ替わることがあります。</td> </tr> <tr> <td>8. サンプルングの考え方と方法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. データの整理・分析①</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	10. データの整理・分析②	2. 社会調査とは何か	11. 事例研究と質的調査①(聴き取り調査)	3. 調査実施の方法論	12. 事例研究と質的調査②(参与観察法)	4. 統計的研究と事例研究	13. 事例研究と質的調査③(ドキュメント分析)	5. 調査票調査の方法	14. 報告書のまとめ方と調査倫理	6. 調査票を作る①(質問文について)	15. まとめ	7. 調査票を作る②(調査票の構成について)	* 順番は必要に応じて入れ替わることがあります。	8. サンプルングの考え方と方法		9. データの整理・分析①	
1. ガイダンス	10. データの整理・分析②																						
2. 社会調査とは何か	11. 事例研究と質的調査①(聴き取り調査)																						
3. 調査実施の方法論	12. 事例研究と質的調査②(参与観察法)																						
4. 統計的研究と事例研究	13. 事例研究と質的調査③(ドキュメント分析)																						
5. 調査票調査の方法	14. 報告書のまとめ方と調査倫理																						
6. 調査票を作る①(質問文について)	15. まとめ																						
7. 調査票を作る②(調査票の構成について)	* 順番は必要に応じて入れ替わることがあります。																						
8. サンプルングの考え方と方法																							
9. データの整理・分析①																							
評価方法	出席点30点、試験70点																						
教材・教科書	『社会調査の基礎(第2版)』中央法規出版(2010年)																						
留意点	出席を重視します。自主的かつ積極的に取り組んでください。																						

社会福祉学支援科目(実践領域科目)

科目名	医療ソーシャルワーク論			担当教員	
対象学年	W2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	W32006
概要	[キーワード: ]				
到達目標					
授業の内容					
評価方法					
教材・教科書					
留意点					

社会福祉学支援科目(実践領域科目)

科目名	家庭ソーシャルワーク論			担当教員	野口 伐名		
対象学年	W2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	W32007		
概要	[キーワード:家庭におけるソーシャルワークの理論と福祉援助の実際実践] ソーシャルワークの実践は、共通基盤を構成する基本的要素として、価値(援助の価値観、人間観)、知識(援助の基礎理論)、技能(援助課程の進め方)に大別される。それらを踏まえて、家庭ソーシャルワーク論は、現代社会における家庭生活の特質を理解しながら、適切な援助活動を展開するために、特に多問題家族に対応する家族中心アプローチに焦点を当てて具体的な検討を試みる。						
到達目標	家族の今日の問題、児童家庭福祉の視点から、特に夫婦、親子(父子・母子)、兄弟姉妹などの家族関係や家族危機に対応する家庭におけるソーシャルワークの理論と福祉援助の実際・実践について考察し学習する。						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">                     1.子どもにとって家庭とは                      2.子どもにとって家庭とソーシャルワークとは                      3.ソーシャルワークの実践—多問題家族に対応する家族中心アプローチ                      4.家族とは何か                      5.家族とは何か—家族に形態と機能                      6.家族とは何か—現代日本における家族機能と機能ストレス                      7.家族とは何か—現代家族と機能ストレス                      8.今日における家族関係                      9.家庭のソーシャルワークの展開 1—家族援助の課程と方法 1                 </td> <td style="vertical-align: top;">                     10.家庭のソーシャルワークの展開 1—家族援助の課程と方法 2                      11.家庭のソーシャルワークの展開 1—家族援助の課程と方法 3                      12.家庭のソーシャルワークの実際 1—家族援助の実際 1                      13.家庭のソーシャルワークの実際 1—家族援助の実際 2                      14.家庭のソーシャルワークの実践—児童養護施設の実践例                      15.課題のまとめと発表                 </td> </tr> </table>					1.子どもにとって家庭とは 2.子どもにとって家庭とソーシャルワークとは 3.ソーシャルワークの実践—多問題家族に対応する家族中心アプローチ 4.家族とは何か 5.家族とは何か—家族に形態と機能 6.家族とは何か—現代日本における家族機能と機能ストレス 7.家族とは何か—現代家族と機能ストレス 8.今日における家族関係 9.家庭のソーシャルワークの展開 1—家族援助の課程と方法 1	10.家庭のソーシャルワークの展開 1—家族援助の課程と方法 2 11.家庭のソーシャルワークの展開 1—家族援助の課程と方法 3 12.家庭のソーシャルワークの実際 1—家族援助の実際 1 13.家庭のソーシャルワークの実際 1—家族援助の実際 2 14.家庭のソーシャルワークの実践—児童養護施設の実践例 15.課題のまとめと発表
1.子どもにとって家庭とは 2.子どもにとって家庭とソーシャルワークとは 3.ソーシャルワークの実践—多問題家族に対応する家族中心アプローチ 4.家族とは何か 5.家族とは何か—家族に形態と機能 6.家族とは何か—現代日本における家族機能と機能ストレス 7.家族とは何か—現代家族と機能ストレス 8.今日における家族関係 9.家庭のソーシャルワークの展開 1—家族援助の課程と方法 1	10.家庭のソーシャルワークの展開 1—家族援助の課程と方法 2 11.家庭のソーシャルワークの展開 1—家族援助の課程と方法 3 12.家庭のソーシャルワークの実際 1—家族援助の実際 1 13.家庭のソーシャルワークの実際 1—家族援助の実際 2 14.家庭のソーシャルワークの実践—児童養護施設の実践例 15.課題のまとめと発表						
評価方法	試験・レポート(70点)、出席状況(30点)						
教材・教科書	毎時間、授業の内容のレジメを配布する。						
留意点	いつでも、子どもや家庭の問題、そして児童福祉施設の世界に興味や関心をもっていることが大切である。						

社会福祉学支援科目(実践領域科目)

科目名	施設ソーシャルワーク論			担当教員	
対象学年	W2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	W32008
概要	[キーワード: ]				
到達目標					
授業の内容					
評価方法					
教材・教科書					
留意点					

社会福祉学支援科目(実践領域科目)

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅰ		対象学年	W1年
担当教員	科目コード		単位・開講学期	
小川 幸裕	W32011		2単位・後期	
高橋 和幸				
概要	<p>[キーワード: 自己覚知・コミュニケーション・面接技術]</p> <p>相談援助の知識と技術に係わる他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を通して涵養する。</p>			
到達目標	<p>相談援助における自己覚知、コミュニケーション、面接技法の必要性を正しく理解し、人間理解を深めること。</p>			
授業の内容	<p>1. オリエンテーション(演習授業の進め方の説明、グループワークの心構えなど)</p> <p>2. 「自己紹介・他者紹介」からコミュニケーションを学ぶ</p> <p>3. 「アイスブレイキング」</p> <p>4. 「自己理解」 ・私を知る ー私は誰</p> <p>5. 「自己開示」 ・自己開示のワーク、共感の意味と共感の深さについて</p> <p>6. 「コミュニケーションⅠ」 ・言語的コミュニケーション、話す、きく</p> <p>7. 「コミュニケーションⅡ」 ・非言語的コミュニケーションの特徴と重要性</p> <p>8. 「感じる」 ・感情表出の様々な形を知る</p> <p>9. 「ソーシャルワークの価値と倫理」</p>	<p>10. 「面接技術」 ・話を促すスキル/話の内容を繰り返すスキル、面接場面での記録</p> <p>11. 「ソーシャルワークの視点」 ・権利擁護と社会正義</p> <p>12. 「多様な専門的理解と他者理解の実践」 ・専門家それぞれの事なった視点についての理解</p> <p>13. 「心の理解1」 ・Who 誰が問題か /What 何が問題か</p> <p>14. 「心の理解2」 ・なぜ問題が起きたか /How いかに関わるか</p> <p>15. まとめ ・学習成果の振り返り</p>		
評価方法	<p>第1回オリエンテーションと第15回まとめを除き、第2回から第14回の演習授業において、達成度をみるため毎回ふりかえりシートを記入してもらおう。ふりかえりシート5点×13回(65点)と定期試験に代えるレポート(35点)との総合評価とする。</p> <p>3分の2以上欠席した学生は評価の対象としない。</p>			
教材・教科書	<p>日本福祉士養成校協会監修『社会福祉士相談援助演習』中央法規</p>			
留意点	<p>演習では積極的発言による参加、共同作業が求められる。参加意欲や学習姿勢に問題がある場合は、減点となる。能動的学習姿勢での参加を求める。</p>			

社会福祉学支援科目(実践領域科目)

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ		対象学年	W2年																														
担当教員	科目コード		単位数・開講学期																															
高橋和幸	W32016		4単位・通年																															
柘植秀通																																		
概要	ソーシャルワークの実際を、ロールプレイなどを交えて実体験し、実際の技術を習得する。																																	
到達目標	面接の基礎を体験し、一応の面接が可能となるようになる。後期は、実際の事例について、RPを通して疑似体験を行い、前期の基礎を応用に結びつける。																																	
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1.オリエンテーション</td> <td>16.オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>2.自分の”こころ”を理解する</td> <td>17.認知症への援助演習</td> </tr> <tr> <td>3.他者の気持ちを理解する</td> <td>18.虐待（高齢者）とその家族への援助演習</td> </tr> <tr> <td>4.自己の気持ちを理解する</td> <td>19.虐待（児童）とその家族への援助演習</td> </tr> <tr> <td>5.他者の行動を理解する1</td> <td>20.知的障害者とその家族への援助演習</td> </tr> <tr> <td>6.他者の行動を理解する2</td> <td>21.身体障害者とその家族への援助演習</td> </tr> <tr> <td>7.自己の行動を理解する。</td> <td>22.精神障害者とその家族への援助演習</td> </tr> <tr> <td>8.面接の特性</td> <td>23.発達障害者への援助演習</td> </tr> <tr> <td>9.面接の基盤</td> <td>24.就労支援(障害者)への援助演習</td> </tr> <tr> <td>10.面接における基本的応答技法</td> <td>25.児童養護施設の児童への援助演習</td> </tr> <tr> <td>11.面接の展開</td> <td>26.いじめに対する援助演習</td> </tr> <tr> <td>12.非言語コミュニケーション</td> <td>27.家庭内暴力に関する援助演習</td> </tr> <tr> <td>13.ミクロからマクロ・レベル実践に焦点を当てた相談援助演習①</td> <td>28.社会的排除に関する援助演習</td> </tr> <tr> <td>14.ミクロからマクロ・レベル実践に焦点を当てた相談援助演習②</td> <td>29.まとめ、小総括</td> </tr> <tr> <td>15.振り返り</td> <td>30.振り返り</td> </tr> </table>				1.オリエンテーション	16.オリエンテーション	2.自分の”こころ”を理解する	17.認知症への援助演習	3.他者の気持ちを理解する	18.虐待（高齢者）とその家族への援助演習	4.自己の気持ちを理解する	19.虐待（児童）とその家族への援助演習	5.他者の行動を理解する1	20.知的障害者とその家族への援助演習	6.他者の行動を理解する2	21.身体障害者とその家族への援助演習	7.自己の行動を理解する。	22.精神障害者とその家族への援助演習	8.面接の特性	23.発達障害者への援助演習	9.面接の基盤	24.就労支援(障害者)への援助演習	10.面接における基本的応答技法	25.児童養護施設の児童への援助演習	11.面接の展開	26.いじめに対する援助演習	12.非言語コミュニケーション	27.家庭内暴力に関する援助演習	13.ミクロからマクロ・レベル実践に焦点を当てた相談援助演習①	28.社会的排除に関する援助演習	14.ミクロからマクロ・レベル実践に焦点を当てた相談援助演習②	29.まとめ、小総括	15.振り返り	30.振り返り
1.オリエンテーション	16.オリエンテーション																																	
2.自分の”こころ”を理解する	17.認知症への援助演習																																	
3.他者の気持ちを理解する	18.虐待（高齢者）とその家族への援助演習																																	
4.自己の気持ちを理解する	19.虐待（児童）とその家族への援助演習																																	
5.他者の行動を理解する1	20.知的障害者とその家族への援助演習																																	
6.他者の行動を理解する2	21.身体障害者とその家族への援助演習																																	
7.自己の行動を理解する。	22.精神障害者とその家族への援助演習																																	
8.面接の特性	23.発達障害者への援助演習																																	
9.面接の基盤	24.就労支援(障害者)への援助演習																																	
10.面接における基本的応答技法	25.児童養護施設の児童への援助演習																																	
11.面接の展開	26.いじめに対する援助演習																																	
12.非言語コミュニケーション	27.家庭内暴力に関する援助演習																																	
13.ミクロからマクロ・レベル実践に焦点を当てた相談援助演習①	28.社会的排除に関する援助演習																																	
14.ミクロからマクロ・レベル実践に焦点を当てた相談援助演習②	29.まとめ、小総括																																	
15.振り返り	30.振り返り																																	
評価方法	<p>第1回・16回オリエンテーションと第15回・30回振り返りを除き、全26回の演習授業において、予習のための予習シートと達成度を見るための振り返りシートに記入してもらう。予習シート50点 振り返りシート50点との総合評価とする。</p> <p>出席2/3に満たざる者は、評価の対象とはしない。</p>																																	
教材・教科書	日本福祉士養成校協会『社会福祉相談援助演習』中央法規																																	
留意点	演習では積極的発言による参加、共同作業が求められる。参加意欲や学習姿勢に問題がある場合は、減点となる。能動的学習姿勢での参加を求める。																																	



社会福祉学支援科目(実践領域科目)

科 目 名	ソーシャルワーク演習Ⅲ		対 象 学 年	W3 年
担 当 教 員	科 目 コ ー ド		単位数・開講学期	
小 川 幸 裕	W32022		4 単 位 ・ 通 年	
高 橋 和 幸				
柘 植 秀 通				
概 要	ソーシャルワーカーの実際を、ロールプレイなどを交えて実体験し、実際の技術を習得する。			
到達目標	ソーシャルワーカーの卵として、どのような場面でも、一応対応することが可能であり、ある程度の実践的目処が立つようにする。			
授業の内容	1.オリエンテーション 2.医学モデルに関する相談援助演習 3.生活モデルに関する相談援助演習 4.ストレングスモデルに関する相談援助演習 5.心理社会的アプローチに関する相談援助演習 6.機能的アプローチに関する相談援助演習 7.問題解決アプローチに関する相談援助演習 8.危機介入アプローチに関する相談援助演習 9.行動変容アプローチに関する相談援助演習 10.エンパワメントアプローチに関する相談援助演習① 11.エンパワメントアプローチに関する相談援助演習② 12.ナラティブアプローチに関する相談援助演習① 13.ナラティブアプローチに関する相談援助演習② 14.解決志向アプローチに関する相談援助演習 15.まとめ	16. オリエンテーション 17. 多問題家族に関する相談援助演習① 18. 多問題家族に関する相談援助演習② 19. 多問題家族に関する相談援助演習③ 20. 多問題家族に関する相談援助演習④ 21. 多問題家族に関する相談援助演習⑤ 22. 多問題家族に関する相談援助演習⑥ 23. 多問題家族に関する相談援助演習⑦ 24. 多問題家族に関する相談援助演習⑧ 25. 多問題家族に関する相談援助演習⑨ 26. 多問題家族に関する相談援助演習⑩ 27. 多問題家族に関する相談援助演習⑪ 28. 多問題家族に関する相談援助演習⑫ 29. 多問題家族に関する相談援助演習⑬ 30.まとめ		
評価方法	予習シート 5 割、振り返りシート 5 割 3 分の 2 以上欠席した学生は評価の対象としない。			
教材・教科書				
留意点	演習では積極的発言による参加、共同作業が求められる。参加意欲や学習姿勢に問題がある場合は、減点となる。能動的学習姿勢での参加を求める。			

社会福祉学支援科目(実践領域科目)

科目名	精神保健福祉援助技術各論A		担当教員	葛西久志																
対象学年	W3年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード W32026																
概要	[キーワード: ケースワーク、グループワーク、家族支援、地域移行支援] 精神保健福祉援助技術各論Aは、精神医療の特性(精神科病院の特性など)と精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。精神障害者を対象とした相談援助技術の展開について理解する。精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について理解する。																			
到達目標	精神保健福祉援助技術各論Aは、相談援助活動の展開(医療施設、社会復帰施設、地域社会を含む)、家族調整・支援の実際を理解、地域移行の対象及び支援体制を理解する。																			
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. ケースワークの理論の流れ</td> <td>9. グループワークの原則、他</td> </tr> <tr> <td>2. 生活支援の援助技術</td> <td>10. 相談援助活動の検討</td> </tr> <tr> <td>3. ICFの課題分析</td> <td>11. 家族調整・支援の実際と事例分析</td> </tr> <tr> <td>4. ケースワークの展開過程</td> <td>12. 海外における家族支援</td> </tr> <tr> <td>5. 個別支援の実際(精神科病院など)</td> <td>13. 地域移行の対象および支援体制</td> </tr> <tr> <td>6. グループワークの源流とは、</td> <td>14. 精神保健福祉士の役割と多職種との連携</td> </tr> <tr> <td>7. グループワークの定義とは、</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. グループワークの構成要素</td> <td></td> </tr> </table>				1. ケースワークの理論の流れ	9. グループワークの原則、他	2. 生活支援の援助技術	10. 相談援助活動の検討	3. ICFの課題分析	11. 家族調整・支援の実際と事例分析	4. ケースワークの展開過程	12. 海外における家族支援	5. 個別支援の実際(精神科病院など)	13. 地域移行の対象および支援体制	6. グループワークの源流とは、	14. 精神保健福祉士の役割と多職種との連携	7. グループワークの定義とは、	15. まとめ	8. グループワークの構成要素	
1. ケースワークの理論の流れ	9. グループワークの原則、他																			
2. 生活支援の援助技術	10. 相談援助活動の検討																			
3. ICFの課題分析	11. 家族調整・支援の実際と事例分析																			
4. ケースワークの展開過程	12. 海外における家族支援																			
5. 個別支援の実際(精神科病院など)	13. 地域移行の対象および支援体制																			
6. グループワークの源流とは、	14. 精神保健福祉士の役割と多職種との連携																			
7. グループワークの定義とは、	15. まとめ																			
8. グループワークの構成要素																				
評価方法	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。試験(100点)で評価する。																			
教材・教科書	新・精神保健福祉士養成講座第4巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 中央法規出版																			
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための必須科目である。																			

社会福祉学支援科目(実践領域科目)

科目名	精神保健福祉援助技術各論B		担当教員	葛西久志																
対象学年	W3年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード W32027																
概要	[キーワード: ケアマネジメント、チームアプローチ、セルフヘルプグループ、他] 精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方について理解する。地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用及びケアマネジメント、コミュニティワーク(地域相談援助に係る組織、団体、関係機関等との連携)について理解する。地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的支援の意義と展開を理解する。																			
到達目標	精神保健福祉援助技術各論Bは、地域移行にかかる組織や機関を理解する。精神障害者のケアマネジメントの原則・意義・方法・展開過程等の理解と、チームアプローチ、セルフヘルプグループ、精神保健福祉ボランティアについて理解する。																			
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. ケアマネジメントの原則</td> <td>9. セルフヘルプグループ</td> </tr> <tr> <td>2. ケアマネジメントの意義と方法</td> <td>10. 地域移行にかかる組織や機関</td> </tr> <tr> <td>3. ケアマネジメントの展開過程</td> <td>11. 地域移行を推進する事業の展開</td> </tr> <tr> <td>4. ケアマネジメントのモデル</td> <td>12. セルフヘルプグループ</td> </tr> <tr> <td>5. ACTの理解</td> <td>13. 精神保健福祉ボランティア</td> </tr> <tr> <td>6. ケアマネジメントの実際</td> <td>14. 地域ネットワーク</td> </tr> <tr> <td>7. チームアプローチの意義</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. チームアプローチの内容</td> <td></td> </tr> </table>				1. ケアマネジメントの原則	9. セルフヘルプグループ	2. ケアマネジメントの意義と方法	10. 地域移行にかかる組織や機関	3. ケアマネジメントの展開過程	11. 地域移行を推進する事業の展開	4. ケアマネジメントのモデル	12. セルフヘルプグループ	5. ACTの理解	13. 精神保健福祉ボランティア	6. ケアマネジメントの実際	14. 地域ネットワーク	7. チームアプローチの意義	15. まとめ	8. チームアプローチの内容	
1. ケアマネジメントの原則	9. セルフヘルプグループ																			
2. ケアマネジメントの意義と方法	10. 地域移行にかかる組織や機関																			
3. ケアマネジメントの展開過程	11. 地域移行を推進する事業の展開																			
4. ケアマネジメントのモデル	12. セルフヘルプグループ																			
5. ACTの理解	13. 精神保健福祉ボランティア																			
6. ケアマネジメントの実際	14. 地域ネットワーク																			
7. チームアプローチの意義	15. まとめ																			
8. チームアプローチの内容																				
評価方法	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。試験(100点)で評価する。																			
教材・教科書	新・精神保健福祉士養成講座第4巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 中央法規出版																			
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための必須科目である。																			

社会福祉学支援科目(実践領域科目)

科目名	精神保健福祉援助演習			担当教員	葛西久志
対象学年	W3年	単位数・開講学期	4単位・通年	科目コード	W32028
概要	<p>[キーワード:自己・他者理解、専門的援助技術、ケーススタディ]</p> <p>基本的には、学生自身が中心に学習していけるよう、グループワークを主体的に活用し、ロールプレイを行い、その後ディスカッションするといった構成で進める。(教員はスーパーバイザーという役割を担う)また専門的援助技術(直接援助、間接援助、関連業務など)をより分かりやすくイメージするために副教材としてビデオ学習なども活用する。</p>				
到達目標	<p>精神保健福祉士として精神保健福祉援助技術に必要な基礎的技法の知識や技術の習得とする。対人援助をはじめ、より具体的な事例を通して、ロールプレイし学生間同士でディスカッションしながら、課題を整理し理解する。また、面接技法、記録の仕方(フェイスシートの作成、ジェノグラム、エコマップなど)について事例を活用しながら理解する。</p>				
授業の内容	<p>1.ガイダンス 2.自己覚知「自分を知る」 3.自己開示「ジョハリの窓」 4.コミュニケーションとは何か 5.コミュニケーションの技法① 6.コミュニケーションの技法② 7.コミュニケーションと技法③ 8.面接技法① 9.面接技法② 10.面接技法③ 11.記録①(ジェノグラム、エコマップ) 12.記録②(フェイスシート作成) 13.ロールプレイ(基礎事例:距離感) 14.ロールプレイ(基礎事例:受診援助) 15.まとめ</p>		<p>16. 事例検討(医療に結びつける援助) 17. 事例検討(ストレングス視点) 18. 事例検討(危機介入) 19. 事例検討(アウトリーチ) 20. 事例検討(アデクション) 21. 事例検討(認知症高齢者虐待) 22. 事例検討(デイケア) 23. 事例検討(精神障害者の権利擁護) 24. 事例検討(PSW のかかわり) 25. 事例検討(地域支援) 26. 事例検討(バウンダリー) 27. 事例検討(施設コンフリクト) 28. 事例検討(精神保健福祉ボランティア) 29. 事例検討(自殺防止対策) 30. まとめ</p>		
評価方法	<p>出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。試験(100点)で評価する。</p>				
教材・教科書	<p>オリジナル資料を配布する。</p>				
留意点	<p>この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための必須科目である。</p>				

社会福祉専門教育科目(分野領域科目)

科目名	児童福祉論 A		担当教員	高橋和幸		
対象学年	W2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード W33001		
概要	[キーワード: 児童の権利 児童・家庭福祉制度 児童虐待 DV 苦情解決と権利擁護] 我が国の児童福祉は子どもは保護者に育てられるという愛護理念から、子どもも自分の意思で発達や成長していく人格を尊重し、そのことを社会が支えたり、保護者が支えたりすべきだという理念へ変化している。そのため、このような認識に立った施策が推進されるようになった。歴史的背景を踏まえながら諸施策を解説していきたい。					
到達目標	社会福祉士として必要な児童家庭を取り巻く諸問題、関連する社会福祉制度、機関、施設や専門職の役割についての知識を蓄積すること。					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">                     1. 現代社会と子ども家庭①～児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢～                      2. 現代社会と子ども家庭②～児童・家庭における福祉需要(ひとり親家庭、児童虐待及び家庭内暴力等～                      3. 児童の定義と権利～子どものための福祉の原理、子ども家庭福祉の理念～                      4. 児童の定義と権利～子どもと権利保障～                      5. 児童・家庭福祉制度の発展過程                      6. 子ども家庭福祉の法体系～児童福祉法～                      7. 子ども家庭福祉の法体系～児童虐待防止法、D.V法～                 </td> <td style="vertical-align: top;">                     8. 子ども家庭福祉の法体系～母子及び寡婦福祉法～                      9. 子ども家庭福祉の法体系～母子保健法～                      10. 子ども家庭福祉の実施体制                      11. 子ども家庭福祉の専門職                      12. 苦情解決と権利擁護                      13. 母子保健の実施体制                      14. 障害・難病のある子どもと家族への支援                      15. まとめ                 </td> </tr> </table>				1. 現代社会と子ども家庭①～児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢～ 2. 現代社会と子ども家庭②～児童・家庭における福祉需要(ひとり親家庭、児童虐待及び家庭内暴力等～ 3. 児童の定義と権利～子どものための福祉の原理、子ども家庭福祉の理念～ 4. 児童の定義と権利～子どもと権利保障～ 5. 児童・家庭福祉制度の発展過程 6. 子ども家庭福祉の法体系～児童福祉法～ 7. 子ども家庭福祉の法体系～児童虐待防止法、D.V法～	8. 子ども家庭福祉の法体系～母子及び寡婦福祉法～ 9. 子ども家庭福祉の法体系～母子保健法～ 10. 子ども家庭福祉の実施体制 11. 子ども家庭福祉の専門職 12. 苦情解決と権利擁護 13. 母子保健の実施体制 14. 障害・難病のある子どもと家族への支援 15. まとめ
1. 現代社会と子ども家庭①～児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢～ 2. 現代社会と子ども家庭②～児童・家庭における福祉需要(ひとり親家庭、児童虐待及び家庭内暴力等～ 3. 児童の定義と権利～子どものための福祉の原理、子ども家庭福祉の理念～ 4. 児童の定義と権利～子どもと権利保障～ 5. 児童・家庭福祉制度の発展過程 6. 子ども家庭福祉の法体系～児童福祉法～ 7. 子ども家庭福祉の法体系～児童虐待防止法、D.V法～	8. 子ども家庭福祉の法体系～母子及び寡婦福祉法～ 9. 子ども家庭福祉の法体系～母子保健法～ 10. 子ども家庭福祉の実施体制 11. 子ども家庭福祉の専門職 12. 苦情解決と権利擁護 13. 母子保健の実施体制 14. 障害・難病のある子どもと家族への支援 15. まとめ					
評価方法	出席点 20 点、確認テストやレポート評価点 30 点、試験 50 点					
教材・教科書	(教科書)社会福祉士養成講座『児童・家庭福祉制度』(第3版) 中央法規 2012年発行					
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてください。					

社会福祉専門教育科目(分野領域科目)

科目名	児童福祉論 B		担当教員	高橋和幸		
対象学年	W2年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード W33002		
概要	[キーワード: 少子化対策 社会手当 児童の社会的養護 子ども家庭相談] 児童福祉論 A にて児童の定義や権利、児童家庭福祉制度の法体系について学習した。本講では児童の育成環境を良くするための様々な施策が実施されているので、その具体的内容に入っていきたい。また、様々な少子化対策が行われていることも注目したい。					
到達目標	児童福祉論 A に同じ。					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">                     1. 次世代育成支援対策推進法と少子化社会対策基本法                      2. 子育て支援の実施体制                      3. 各種手当の解説                      4. 保育、保育所、認定子ども園について                      5. 地域における子育て支援及び青少年育成                      6. ひとり親家庭の福祉                      7. 非行児童・情緒障害児への支援、売春防止法について                      8. 児童の社会的養護サービス                 </td> <td style="vertical-align: top;">                     9. 児童相談所の役割と実際①～児童虐待～                      10. 児童相談所の役割と実際②～ひとり親家庭から寄せられる相談対応ケース他～                      11. 児童・家庭福祉制度における多職種連携                      12. 子ども家庭への相談援助活動時におけるネットワーキングの実際                      13. 施設ケアと子ども家庭福祉援助活動                      14. 事例検討～複数の問題を抱える家庭環境で育つ子どもへの援助～                      15. まとめ                 </td> </tr> </table>				1. 次世代育成支援対策推進法と少子化社会対策基本法 2. 子育て支援の実施体制 3. 各種手当の解説 4. 保育、保育所、認定子ども園について 5. 地域における子育て支援及び青少年育成 6. ひとり親家庭の福祉 7. 非行児童・情緒障害児への支援、売春防止法について 8. 児童の社会的養護サービス	9. 児童相談所の役割と実際①～児童虐待～ 10. 児童相談所の役割と実際②～ひとり親家庭から寄せられる相談対応ケース他～ 11. 児童・家庭福祉制度における多職種連携 12. 子ども家庭への相談援助活動時におけるネットワーキングの実際 13. 施設ケアと子ども家庭福祉援助活動 14. 事例検討～複数の問題を抱える家庭環境で育つ子どもへの援助～ 15. まとめ
1. 次世代育成支援対策推進法と少子化社会対策基本法 2. 子育て支援の実施体制 3. 各種手当の解説 4. 保育、保育所、認定子ども園について 5. 地域における子育て支援及び青少年育成 6. ひとり親家庭の福祉 7. 非行児童・情緒障害児への支援、売春防止法について 8. 児童の社会的養護サービス	9. 児童相談所の役割と実際①～児童虐待～ 10. 児童相談所の役割と実際②～ひとり親家庭から寄せられる相談対応ケース他～ 11. 児童・家庭福祉制度における多職種連携 12. 子ども家庭への相談援助活動時におけるネットワーキングの実際 13. 施設ケアと子ども家庭福祉援助活動 14. 事例検討～複数の問題を抱える家庭環境で育つ子どもへの援助～ 15. まとめ					
評価方法	出席点 20 点、確認テストやレポート評価点 30 点、試験 50 点					
教材・教科書	(教科書)社会福祉士養成講座『児童・家庭福祉制度』(第3版) 中央法規 2012年発行					
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてください。					

社会福祉専門教育科目(分野領域科目)

科目名	障害者福祉論A			担当教員	八木橋・松本・葛西・立花																
対象学年	W2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	W33003																
概要	[キーワード] 障害者、障害者自立支援法、障害者総合支援法等について、障害特性、生活実態とこれを取りまく社会情勢、福祉(地域移行や就労の実態を含む)などから理解する。また障害福祉の史的展開を踏まえ現在の障害児者をめぐる動向について理解する。																				
到達目標	障害理解と障害者福祉について基本的理解を深める。																				
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1.オリエンテーション</td> <td>9.障害者の理解⑦重複障害者</td> </tr> <tr> <td>2.障害者福祉の理念</td> <td>10.障害者の理解⑧発達障害者</td> </tr> <tr> <td>3.障害者の理解①知的障害者</td> <td>11.障害者の理解⑨精神障害者</td> </tr> <tr> <td>4.障害者の理解②知的障害者</td> <td>12.障害者の理解⑩精神障害者</td> </tr> <tr> <td>5.障害者の理解③肢体不自由者</td> <td>13.障害者福祉の史的展開</td> </tr> <tr> <td>6.障害者の理解④視覚障害者</td> <td>14.障害者福祉の史的展開</td> </tr> <tr> <td>7.障害者の理解⑤聴覚・言語障害者</td> <td>15.まとめ</td> </tr> <tr> <td>8.障害者の理解⑥内部障害者</td> <td></td> </tr> </table>					1.オリエンテーション	9.障害者の理解⑦重複障害者	2.障害者福祉の理念	10.障害者の理解⑧発達障害者	3.障害者の理解①知的障害者	11.障害者の理解⑨精神障害者	4.障害者の理解②知的障害者	12.障害者の理解⑩精神障害者	5.障害者の理解③肢体不自由者	13.障害者福祉の史的展開	6.障害者の理解④視覚障害者	14.障害者福祉の史的展開	7.障害者の理解⑤聴覚・言語障害者	15.まとめ	8.障害者の理解⑥内部障害者	
1.オリエンテーション	9.障害者の理解⑦重複障害者																				
2.障害者福祉の理念	10.障害者の理解⑧発達障害者																				
3.障害者の理解①知的障害者	11.障害者の理解⑨精神障害者																				
4.障害者の理解②知的障害者	12.障害者の理解⑩精神障害者																				
5.障害者の理解③肢体不自由者	13.障害者福祉の史的展開																				
6.障害者の理解④視覚障害者	14.障害者福祉の史的展開																				
7.障害者の理解⑤聴覚・言語障害者	15.まとめ																				
8.障害者の理解⑥内部障害者																					
評価方法	レポート、試験等をとおして総合的に評価する。																				
教材・教科書	日比野清・大熊信成・建部久美子 著 『障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第2版』 弘文堂 2013																				
留意点	障害理解と発達について理解を深める。																				

社会福祉専門教育科目(分野領域科目)

科目名	障害者福祉論B			担当教員																	
対象学年	W2年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	W33004																
概要	[キーワード:障害者、障害者自立支援法、法制度] 障害者自立支援法の概要について理解する。障害者の福祉・介護に係る他の法制度の概要について理解する。また、事例を通じて実践的な理解を深め、障害者を取り巻く問題への対応について理解する。																				
到達目標	障害者福祉について基本的な理解を深める。																				
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1.障害者福祉の法制度①</td> <td>9.事例の検討①</td> </tr> <tr> <td>2.障害者福祉の法制度②</td> <td>10.事例の検討②</td> </tr> <tr> <td>3.障害者福祉の法制度③</td> <td>11.事例の検討③</td> </tr> <tr> <td>4.障害者福祉の法制度④</td> <td>12.事例の検討④</td> </tr> <tr> <td>5.障害者福祉の法制度⑤</td> <td>13.事例の検討⑤</td> </tr> <tr> <td>6.障害者福祉の法制度⑥</td> <td>14.事例の検討⑥</td> </tr> <tr> <td>7.障害者福祉の法制度⑦</td> <td>15.まとめ</td> </tr> <tr> <td>8.障害者福祉の法制度⑧</td> <td></td> </tr> </table>					1.障害者福祉の法制度①	9.事例の検討①	2.障害者福祉の法制度②	10.事例の検討②	3.障害者福祉の法制度③	11.事例の検討③	4.障害者福祉の法制度④	12.事例の検討④	5.障害者福祉の法制度⑤	13.事例の検討⑤	6.障害者福祉の法制度⑥	14.事例の検討⑥	7.障害者福祉の法制度⑦	15.まとめ	8.障害者福祉の法制度⑧	
1.障害者福祉の法制度①	9.事例の検討①																				
2.障害者福祉の法制度②	10.事例の検討②																				
3.障害者福祉の法制度③	11.事例の検討③																				
4.障害者福祉の法制度④	12.事例の検討④																				
5.障害者福祉の法制度⑤	13.事例の検討⑤																				
6.障害者福祉の法制度⑥	14.事例の検討⑥																				
7.障害者福祉の法制度⑦	15.まとめ																				
8.障害者福祉の法制度⑧																					
評価方法	試験・レポート。																				
教材・教科書	日比野清・大熊信成・建部久美子 著 『障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第2版』 弘文堂 2013																				
留意点																					

社会福祉専門教育科目(分野領域科目)

科目名	老人福祉論A			担当教員																			
対象学年	W2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	W33005																		
概要	[キーワード:超高齢社会、老いる、地域で生きる、生きがい] 高齢者の生活実態やニーズに対する社会的支援策を理解し、援助に関する基本的視点を養う。																						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者を正しく理解する。</li> <li>・高齢者福祉の発展過程を学びながら高齢者の現状と課題を理解する。</li> </ul>																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 高齢者の社会的理解</td> <td>10. 高齢者保健福祉の法体系</td> </tr> <tr> <td>2. 高齢者の身体的理解</td> <td>11. 老人福祉法</td> </tr> <tr> <td>3. 高齢者の精神的理解</td> <td>12. 高齢者の医療の確保に関する法律</td> </tr> <tr> <td>4. 高齢者の総合的理解</td> <td>13. 高齢者虐待防止法</td> </tr> <tr> <td>5. 少子高齢社会と社会的問題</td> <td>14. 権利擁護と成年後見制度</td> </tr> <tr> <td>6. 高齢者を取り巻く諸問題</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 高齢者福祉の起源と生成</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 高齢者福祉の発展(昭和)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 高齢者福祉の発展(平成)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 高齢者の社会的理解	10. 高齢者保健福祉の法体系	2. 高齢者の身体的理解	11. 老人福祉法	3. 高齢者の精神的理解	12. 高齢者の医療の確保に関する法律	4. 高齢者の総合的理解	13. 高齢者虐待防止法	5. 少子高齢社会と社会的問題	14. 権利擁護と成年後見制度	6. 高齢者を取り巻く諸問題	15. まとめ	7. 高齢者福祉の起源と生成		8. 高齢者福祉の発展(昭和)		9. 高齢者福祉の発展(平成)	
1. 高齢者の社会的理解	10. 高齢者保健福祉の法体系																						
2. 高齢者の身体的理解	11. 老人福祉法																						
3. 高齢者の精神的理解	12. 高齢者の医療の確保に関する法律																						
4. 高齢者の総合的理解	13. 高齢者虐待防止法																						
5. 少子高齢社会と社会的問題	14. 権利擁護と成年後見制度																						
6. 高齢者を取り巻く諸問題	15. まとめ																						
7. 高齢者福祉の起源と生成																							
8. 高齢者福祉の発展(昭和)																							
9. 高齢者福祉の発展(平成)																							
評価方法	出席 20 点、レポート 20 点、試験 60 点																						
教材・教科書	社会福祉士養成講座編集委員会『高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規出版																						
留意点																							

社会福祉専門教育科目(分野領域科目)

科目名	老人福祉論B			担当教員																			
対象学年	W2年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	W33006																		
概要	[キーワード:超高齢社会、老いる、地域で生きる、生きがい] 高齢者の生活実態やニーズに対する社会的支援策を理解し、援助に関する基本的視点を養う。																						
到達目標	老人福祉論Aで学んだ高齢者への相談支援に用いられる方法を踏まえ、介護保険制度の利用の実際を把握することが到達目標となる。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 介護保険制度の全体像</td> <td>10. 地域支援事業</td> </tr> <tr> <td>2. 介護保険の目的と理念</td> <td>11. 地域包括支援センターの役割</td> </tr> <tr> <td>3. 保険財政</td> <td>12. 同センターの実践事例</td> </tr> <tr> <td>4. 介護保険のこれまでの法改正と現在</td> <td>13. チームアプローチ</td> </tr> <tr> <td>5. 申請から認定、サービス利用開始の流れ</td> <td>14. 様々な生活課題を抱えた高齢者世帯への支援の実際</td> </tr> <tr> <td>6. 給付の種類</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>7. 介護報酬</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 介護保険サービスの体系</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 介護支援専門員の役割</td> <td></td> </tr> </table>					1. 介護保険制度の全体像	10. 地域支援事業	2. 介護保険の目的と理念	11. 地域包括支援センターの役割	3. 保険財政	12. 同センターの実践事例	4. 介護保険のこれまでの法改正と現在	13. チームアプローチ	5. 申請から認定、サービス利用開始の流れ	14. 様々な生活課題を抱えた高齢者世帯への支援の実際	6. 給付の種類	15. まとめと試験	7. 介護報酬		8. 介護保険サービスの体系		9. 介護支援専門員の役割	
1. 介護保険制度の全体像	10. 地域支援事業																						
2. 介護保険の目的と理念	11. 地域包括支援センターの役割																						
3. 保険財政	12. 同センターの実践事例																						
4. 介護保険のこれまでの法改正と現在	13. チームアプローチ																						
5. 申請から認定、サービス利用開始の流れ	14. 様々な生活課題を抱えた高齢者世帯への支援の実際																						
6. 給付の種類	15. まとめと試験																						
7. 介護報酬																							
8. 介護保険サービスの体系																							
9. 介護支援専門員の役割																							
評価方法	努力点(出席点、小テスト)20%+定期試験80%との総合評価																						
教材・教科書	社会福祉士養成講座編集委員会『高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規出版																						
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてください。																						

社会福祉専門教育科目(分野領域科目)

科目名	公的扶助論A			担当教員	大野拓哉																
対象学年	W3年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	W33007																
概要	[キーワード: 貧困、福祉国家、公的扶助、生活保護] 本講では、貧困の定義、公的扶助の歴史、生活保護の基本原理等を概説する。																				
到達目標	「貧困」を過去の、しかも、自分とは関係のない事柄とは考えず、現代の、そして、自分にも関わり得る問題という意識をもてるようになることを目指す。																				
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 問題の所在</td> <td>9. 保護の種類・範囲・方法</td> </tr> <tr> <td>2. 貧困の見方・定義</td> <td>10. 生活保護基準の考え方</td> </tr> <tr> <td>3. 公的扶助の歴史①</td> <td>11. 生活保護基準の内容</td> </tr> <tr> <td>4. 公的扶助の歴史②</td> <td>12. 保護の要否判定と程度の決定</td> </tr> <tr> <td>5. 諸外国の公的扶助制度</td> <td>13. 保護の実施機関と実施責任</td> </tr> <tr> <td>6. わが国の公的扶助の歴史</td> <td>14. 保護施設</td> </tr> <tr> <td>7. 生活保護の基本原理</td> <td>15. まとめと振り返り</td> </tr> <tr> <td>8. 生活保護の実施原則</td> <td></td> </tr> </table>					1. 問題の所在	9. 保護の種類・範囲・方法	2. 貧困の見方・定義	10. 生活保護基準の考え方	3. 公的扶助の歴史①	11. 生活保護基準の内容	4. 公的扶助の歴史②	12. 保護の要否判定と程度の決定	5. 諸外国の公的扶助制度	13. 保護の実施機関と実施責任	6. わが国の公的扶助の歴史	14. 保護施設	7. 生活保護の基本原理	15. まとめと振り返り	8. 生活保護の実施原則	
1. 問題の所在	9. 保護の種類・範囲・方法																				
2. 貧困の見方・定義	10. 生活保護基準の考え方																				
3. 公的扶助の歴史①	11. 生活保護基準の内容																				
4. 公的扶助の歴史②	12. 保護の要否判定と程度の決定																				
5. 諸外国の公的扶助制度	13. 保護の実施機関と実施責任																				
6. わが国の公的扶助の歴史	14. 保護施設																				
7. 生活保護の基本原理	15. まとめと振り返り																				
8. 生活保護の実施原則																					
評価方法	試験のみを評価の対象とする。																				
教材・教科書	宇山勝儀・船水浩行編著『公的扶助論』光生館																				
留意点	法律等の条文をその場で参照できるように準備しておくこと。																				

社会福祉専門教育科目(分野領域科目)

科目名	公的扶助論B			担当教員	大野拓哉																
対象学年	W3年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	W33008																
概要	[キーワード: 貧困、公的扶助、正貨保護] 本講は、公的扶助論Aをうけて、生活保護の実施や貧困に関する現代的課題に言及する。																				
到達目標	「貧困」を過去の、しかも、自分とは関係のない事柄とは考えず、現代の、そして、自分にも関わり得る問題という意識をもてるようになることを目指す。																				
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 生活保護の実施体制①</td> <td>9. 現代的諸問題①</td> </tr> <tr> <td>2. 生活保護の実施体制②</td> <td>10. 現代的諸問題②</td> </tr> <tr> <td>3. 被保護者の権利と義務</td> <td>11. 現代的諸問題③</td> </tr> <tr> <td>4. 不服申立てと行政訴訟</td> <td>12. 現代的諸問題④</td> </tr> <tr> <td>5. 保護の費用と財政</td> <td>13. 保護の実施機関と実施責任</td> </tr> <tr> <td>6. 被保護者層の動向と課題</td> <td>14. 保護施設</td> </tr> <tr> <td>7. 生活保護における援助活動①</td> <td>15. まとめと振り返り</td> </tr> <tr> <td>8. 生活保護における援助活動②</td> <td></td> </tr> </table>					1. 生活保護の実施体制①	9. 現代的諸問題①	2. 生活保護の実施体制②	10. 現代的諸問題②	3. 被保護者の権利と義務	11. 現代的諸問題③	4. 不服申立てと行政訴訟	12. 現代的諸問題④	5. 保護の費用と財政	13. 保護の実施機関と実施責任	6. 被保護者層の動向と課題	14. 保護施設	7. 生活保護における援助活動①	15. まとめと振り返り	8. 生活保護における援助活動②	
1. 生活保護の実施体制①	9. 現代的諸問題①																				
2. 生活保護の実施体制②	10. 現代的諸問題②																				
3. 被保護者の権利と義務	11. 現代的諸問題③																				
4. 不服申立てと行政訴訟	12. 現代的諸問題④																				
5. 保護の費用と財政	13. 保護の実施機関と実施責任																				
6. 被保護者層の動向と課題	14. 保護施設																				
7. 生活保護における援助活動①	15. まとめと振り返り																				
8. 生活保護における援助活動②																					
評価方法	試験のみを評価の対象とする。																				
教材・教科書	宇山勝儀・船水浩行編著『公的扶助論』光生館																				
留意点	法律等の条文をその場で参照できるように準備しておくこと。																				

社会福祉専門教育科目(分野領域科目)

科目名	地域福祉論A			担当教員	成田 全弘・工藤 清満		
対象学年	W2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	W33009		
概要	[キーワード:] 地域福祉の理論、推進方法、課題等について、実践現場の具体的な事例と照らし合わせながら地域福祉の全体像を理解する。						
到達目標	地域福祉の全体像を広く理解し、地域社会への関心や福祉活動への積極的参加のための動機づけをする。						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">                     1. 新しい社会福祉システム①                      2. 新しい社会福祉システム②                      3. 地域福祉の基本的な考え方①                      4. 地域福祉の基本的な考え方②                      5. 地域福祉の主体と福祉教育                      6. 行政組織と民間組織の役割と実際①                      7. 行政組織と民間組織の役割と実際②                      8. 行政組織と民間組織の役割と実際③                      9. 住民の参加と方法                 </td> <td style="vertical-align: top;">                     10. 地域における社会資源の活用・調整・開発①                      11. 地域における社会資源の活用・調整・開発②                      12. 地域における福祉サービスの評価方法と実際①                      13. 地域における福祉サービスの評価方法と実際②                      14. 日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方                      15. グループワーク・まとめ                 </td> </tr> </table>					1. 新しい社会福祉システム① 2. 新しい社会福祉システム② 3. 地域福祉の基本的な考え方① 4. 地域福祉の基本的な考え方② 5. 地域福祉の主体と福祉教育 6. 行政組織と民間組織の役割と実際① 7. 行政組織と民間組織の役割と実際② 8. 行政組織と民間組織の役割と実際③ 9. 住民の参加と方法	10. 地域における社会資源の活用・調整・開発① 11. 地域における社会資源の活用・調整・開発② 12. 地域における福祉サービスの評価方法と実際① 13. 地域における福祉サービスの評価方法と実際② 14. 日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方 15. グループワーク・まとめ
1. 新しい社会福祉システム① 2. 新しい社会福祉システム② 3. 地域福祉の基本的な考え方① 4. 地域福祉の基本的な考え方② 5. 地域福祉の主体と福祉教育 6. 行政組織と民間組織の役割と実際① 7. 行政組織と民間組織の役割と実際② 8. 行政組織と民間組織の役割と実際③ 9. 住民の参加と方法	10. 地域における社会資源の活用・調整・開発① 11. 地域における社会資源の活用・調整・開発② 12. 地域における福祉サービスの評価方法と実際① 13. 地域における福祉サービスの評価方法と実際② 14. 日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方 15. グループワーク・まとめ						
評価方法	出席50点・レポート50点で満点とし、2項目の合計が60点以上のものに単位を与える。						
教材・教科書	新・社会福祉士養成講座⑨「地域福祉の理論と方法」(中央法規出版)						
留意点	講義順序が変更になる場合があります。						

社会福祉専門教育科目(分野領域科目)

科目名	地域福祉論B			担当教員	成田 全弘・工藤 清満		
対象学年	W2年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	W33010		
概要	[キーワード:] 社会福祉法の理念を踏まえ、地域福祉実践の方法としてのコミュニティソーシャルワークの考え方について、地域社会における自立生活支援の視点から具体的な事例を含めて講義します。						
到達目標	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">                     1. コミュニティソーシャルワークの考え方について理解する。                      2. 地域社会や関係機関・多職種との連携について理解する。                      3. コミュニティソーシャルワーカーの役割について理解する。                 </td> <td></td> </tr> </table>					1. コミュニティソーシャルワークの考え方について理解する。 2. 地域社会や関係機関・多職種との連携について理解する。 3. コミュニティソーシャルワーカーの役割について理解する。	
1. コミュニティソーシャルワークの考え方について理解する。 2. 地域社会や関係機関・多職種との連携について理解する。 3. コミュニティソーシャルワーカーの役割について理解する。							
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">                     1. 地域福祉とコミュニティソーシャルワーク                      2. コミュニティソーシャルワークの考え方                      3. コミュニティソーシャルワークの概念・特徴                      4. コミュニティソーシャルワークの機能                      5. コミュニティソーシャルワーク展開とシステム                      6. コミュニティソーシャルワークの展開過程                      7. コミュニティソーシャルワークと専門職の役割                      8. 専門多職種のチームアプローチ・専門職と住民の関係                 </td> <td style="vertical-align: top;">                     9. ソーシャルサポートネットワークの考え方                      10. ソーシャルサポートネットワークの形成                      11. コミュニティソーシャルワーク実践事例                      12. コミュニティソーシャルワークの課題と展望                      13. 地域における福祉ニーズの把握方法と実際                      14. 地域トータルケアシステムの必要性と考え方                      15. 地域トータルケアシステムの事例・まとめ                 </td> </tr> </table>					1. 地域福祉とコミュニティソーシャルワーク 2. コミュニティソーシャルワークの考え方 3. コミュニティソーシャルワークの概念・特徴 4. コミュニティソーシャルワークの機能 5. コミュニティソーシャルワーク展開とシステム 6. コミュニティソーシャルワークの展開過程 7. コミュニティソーシャルワークと専門職の役割 8. 専門多職種のチームアプローチ・専門職と住民の関係	9. ソーシャルサポートネットワークの考え方 10. ソーシャルサポートネットワークの形成 11. コミュニティソーシャルワーク実践事例 12. コミュニティソーシャルワークの課題と展望 13. 地域における福祉ニーズの把握方法と実際 14. 地域トータルケアシステムの必要性と考え方 15. 地域トータルケアシステムの事例・まとめ
1. 地域福祉とコミュニティソーシャルワーク 2. コミュニティソーシャルワークの考え方 3. コミュニティソーシャルワークの概念・特徴 4. コミュニティソーシャルワークの機能 5. コミュニティソーシャルワーク展開とシステム 6. コミュニティソーシャルワークの展開過程 7. コミュニティソーシャルワークと専門職の役割 8. 専門多職種のチームアプローチ・専門職と住民の関係	9. ソーシャルサポートネットワークの考え方 10. ソーシャルサポートネットワークの形成 11. コミュニティソーシャルワーク実践事例 12. コミュニティソーシャルワークの課題と展望 13. 地域における福祉ニーズの把握方法と実際 14. 地域トータルケアシステムの必要性と考え方 15. 地域トータルケアシステムの事例・まとめ						
評価方法	出席50点・レポート50点で満点とし、2項目の合計が60点以上のものに単位を与える。						
教材・教科書	新・社会福祉士養成講座⑨「地域福祉の理論と方法」(中央法規出版)						
留意点	講義順序が変更になる場合があります。						



社会福祉専門教育科目(分野領域科目)

科目名	社会福祉行政論		担当教員	西 東 克 介								
対象学年	W4年	単位数・開講学期	1単位・後期	科目コード W33011								
概要	[キーワード:福祉国家、官僚制、ストリートレベルの官僚制、専門性] 社会福祉行政、これに関わる行政組織・民間組織、専門職を分析し、問題点を考察していく。											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉行政を国家論および官僚制論から、見ていくことができるようにする。</li> <li>・スペシャリスト・エキスパート・「専門職」・専門職の関係を理解し、自らの指針に磨きをかける。</li> </ul>											
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 福祉国家・行政国家・「大きな政府」の違いと共通性</td> <td>5. 社会福祉事業と事業者に対する指揮監督</td> </tr> <tr> <td>2. 日本の福祉行財政の歴史的展開と今後</td> <td>6. 社会福祉の費用と財源</td> </tr> <tr> <td>3. 社会福祉行政と地方公共団体</td> <td>7. スペシャリスト・エキスパート・「専門職」・専門職</td> </tr> <tr> <td>4. 介護保険制度と行政</td> <td>8. まとめ</td> </tr> </table>				1. 福祉国家・行政国家・「大きな政府」の違いと共通性	5. 社会福祉事業と事業者に対する指揮監督	2. 日本の福祉行財政の歴史的展開と今後	6. 社会福祉の費用と財源	3. 社会福祉行政と地方公共団体	7. スペシャリスト・エキスパート・「専門職」・専門職	4. 介護保険制度と行政	8. まとめ
1. 福祉国家・行政国家・「大きな政府」の違いと共通性	5. 社会福祉事業と事業者に対する指揮監督											
2. 日本の福祉行財政の歴史的展開と今後	6. 社会福祉の費用と財源											
3. 社会福祉行政と地方公共団体	7. スペシャリスト・エキスパート・「専門職」・専門職											
4. 介護保険制度と行政	8. まとめ											
評価方法	出席と試験。出席を前提に、試験の成績結果で評価。											
教材・教科書	池村正道・責任編集『福祉行財政と福祉計画』、弘文堂、平成25年。(社会福祉士シリーズ10)											
留意点	できれば、この科目の理論的背景を理解するために、西東の「行政学(行政学A・行政学B)」を履修して欲しい。											

社会福祉専門教育科目(分野領域科目)

科目名	福祉計画論		担当教員	西 東 克 介								
対象学年	W4年	単位数・開講学期	1単位・後期	科目コード W33012								
概要	[キーワード: 官僚制、計画、説明責任、評価、監査] 官僚制の下で計画が精緻化されていくことの意義と機能を示し、計画の長所と短所を考える。											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・官僚制と計画の関係を理解して、福祉計画について分析できるようにする。</li> <li>・行政責任論を理解して、福祉計画の評価について分析できるようにする。</li> </ul>											
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 計画とは何か(国家、地域、組織、個人の各レベルで考える)</td> <td>5. 福祉計画の策定過程とその方法</td> </tr> <tr> <td>2. 行政計画と福祉計画</td> <td>6. 福祉計画の評価方法</td> </tr> <tr> <td>3. 福祉計画の主体は誰か</td> <td>7. まとめ</td> </tr> <tr> <td>4. 具体的な福祉計画(地域福祉計画等)</td> <td></td> </tr> </table>				1. 計画とは何か(国家、地域、組織、個人の各レベルで考える)	5. 福祉計画の策定過程とその方法	2. 行政計画と福祉計画	6. 福祉計画の評価方法	3. 福祉計画の主体は誰か	7. まとめ	4. 具体的な福祉計画(地域福祉計画等)	
1. 計画とは何か(国家、地域、組織、個人の各レベルで考える)	5. 福祉計画の策定過程とその方法											
2. 行政計画と福祉計画	6. 福祉計画の評価方法											
3. 福祉計画の主体は誰か	7. まとめ											
4. 具体的な福祉計画(地域福祉計画等)												
評価方法	出席と試験。出席を前提に、試験の成績結果で評価。											
教材・教科書	池村正道・責任編集『福祉行財政と福祉計画』、弘文堂、平成25年。(社会福祉士シリーズ10)											
留意点	できれば、この科目の理論的背景を理解するために、西東の「行政学(行政学A・行政学B)」を履修して欲しい。											

社会福祉専門教育科目(分野領域科目)

科目名	保健医療論		担当教員			
対象学年	W3年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード W33013		
概要	<p>[キーワード:MSW,医療施設,医療保険制度,公費負担医療制度,多職種連携]</p> <p>保健医療サービスが注目されるようになった背景(歴史的経緯)を踏まえながら、同サービスの基本的な構造を把握し、併せてMSWの役割と可能性について理解を深める。また、MSWと多職種との連携・協働についても実践事例を通じて把握する。</p>					
到達目標	<p>社会福祉士として求められる保健医療福祉制度知識とMSWの役割の理解を深められることを目標とする。</p>					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割</li> <li>2.医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み</li> <li>3.保健医療サービス専門職の概要と基本姿勢</li> <li>4.保健医療サービスにおける各専門職の視点と役割の実際</li> <li>5.医療連携・チーム医療の推進と社会福祉士・精神保健福祉士</li> <li>6.MSWとしての「ミクロのソーシャルワーク」と、「ミクロからメゾへのソーシャルワーク」</li> </ol> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>7.MSWとしての「メゾからマクロへのソーシャルワーク」</li> <li>8.医療法による医療施設の機能・類型と、保健医療政策による医療施設の機能・類型</li> <li>9.診療報酬における医療施設の機能・類型</li> <li>10.介護保険法における施設等の機能・類型、在宅支援のシステム</li> <li>11.医療保険制度と診療報酬制度</li> <li>12.公費負担医療制度</li> <li>13.保健医療の専門職との連携方法</li> <li>14.地域の保健医療ネットワーク構築の実際</li> <li>15.まとめと試験</li> </ol> </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> <li>1.保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割</li> <li>2.医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み</li> <li>3.保健医療サービス専門職の概要と基本姿勢</li> <li>4.保健医療サービスにおける各専門職の視点と役割の実際</li> <li>5.医療連携・チーム医療の推進と社会福祉士・精神保健福祉士</li> <li>6.MSWとしての「ミクロのソーシャルワーク」と、「ミクロからメゾへのソーシャルワーク」</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>7.MSWとしての「メゾからマクロへのソーシャルワーク」</li> <li>8.医療法による医療施設の機能・類型と、保健医療政策による医療施設の機能・類型</li> <li>9.診療報酬における医療施設の機能・類型</li> <li>10.介護保険法における施設等の機能・類型、在宅支援のシステム</li> <li>11.医療保険制度と診療報酬制度</li> <li>12.公費負担医療制度</li> <li>13.保健医療の専門職との連携方法</li> <li>14.地域の保健医療ネットワーク構築の実際</li> <li>15.まとめと試験</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割</li> <li>2.医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み</li> <li>3.保健医療サービス専門職の概要と基本姿勢</li> <li>4.保健医療サービスにおける各専門職の視点と役割の実際</li> <li>5.医療連携・チーム医療の推進と社会福祉士・精神保健福祉士</li> <li>6.MSWとしての「ミクロのソーシャルワーク」と、「ミクロからメゾへのソーシャルワーク」</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>7.MSWとしての「メゾからマクロへのソーシャルワーク」</li> <li>8.医療法による医療施設の機能・類型と、保健医療政策による医療施設の機能・類型</li> <li>9.診療報酬における医療施設の機能・類型</li> <li>10.介護保険法における施設等の機能・類型、在宅支援のシステム</li> <li>11.医療保険制度と診療報酬制度</li> <li>12.公費負担医療制度</li> <li>13.保健医療の専門職との連携方法</li> <li>14.地域の保健医療ネットワーク構築の実際</li> <li>15.まとめと試験</li> </ol>					
評価方法	<p>努力点(出席点、小テスト)20%+定期試験80%との総合評価</p>					
教材・教科書	<p>新・社会福祉士養成講座第17巻「保健医療サービス」第3版,2012.2発行,中央法規</p>					
留意点	<p>定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてください。</p>					

社会福祉専門教育科目(分野領域科目)

科目名	更生保護論			担当教員	平野 潔																
対象学年	W3年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	W33014																
概要	<p>[キーワード： 刑事司法、更生保護、仮釈放、保護観察、更生緊急保護、医療観察制度など]</p> <p>更生保護は、犯罪者や非行少年の立ち直りを支援し、その支援を通じて、犯罪の発生を未然に防ぐ活動を指します。現在では、警察、検察、裁判、矯正の各制度と並んで、刑事政策の重要な一局面を担っています。</p> <p>本講義においては、更生保護制度の沿革、仕組み、他の各制度との違いなどの概要を理解した上で、あるべき犯罪者・非行少年の自立支援のあり方についても考えていきたいと思えます。</p>																				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>更生保護制度の概要、とくにその仕組みや手続きを理解する。</li> <li>更生保護制度の近時の動向を把握する。</li> <li>更生保護制度が抱える問題点を理解した上で、更生保護制度のあるべき姿について自分なりの考えを持つことが出来る。</li> </ul>																				
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1.刑事司法のなかの更生保護</td> <td>8.民間協力者の役割</td> </tr> <tr> <td>2.仮釈放・生活環境調整</td> <td>9.裁判所・検察庁・矯正施設との連携</td> </tr> <tr> <td>3.保護観察制度の概要</td> <td>10.就労支援機関・福祉機関との連携</td> </tr> <tr> <td>4.更生緊急保護・恩赦</td> <td>11.医療観察制度成立の背景</td> </tr> <tr> <td>5.更生保護における犯罪被害者施策・犯罪予防活動</td> <td>12.医療観察制度の仕組み</td> </tr> <tr> <td>6.保護観察官と保護司</td> <td>13.更生保護の近時の動向</td> </tr> <tr> <td>7.更生保護施設における処遇</td> <td>14.更生保護が抱える今後の課題</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15.まとめ</td> </tr> </table>					1.刑事司法のなかの更生保護	8.民間協力者の役割	2.仮釈放・生活環境調整	9.裁判所・検察庁・矯正施設との連携	3.保護観察制度の概要	10.就労支援機関・福祉機関との連携	4.更生緊急保護・恩赦	11.医療観察制度成立の背景	5.更生保護における犯罪被害者施策・犯罪予防活動	12.医療観察制度の仕組み	6.保護観察官と保護司	13.更生保護の近時の動向	7.更生保護施設における処遇	14.更生保護が抱える今後の課題		15.まとめ
1.刑事司法のなかの更生保護	8.民間協力者の役割																				
2.仮釈放・生活環境調整	9.裁判所・検察庁・矯正施設との連携																				
3.保護観察制度の概要	10.就労支援機関・福祉機関との連携																				
4.更生緊急保護・恩赦	11.医療観察制度成立の背景																				
5.更生保護における犯罪被害者施策・犯罪予防活動	12.医療観察制度の仕組み																				
6.保護観察官と保護司	13.更生保護の近時の動向																				
7.更生保護施設における処遇	14.更生保護が抱える今後の課題																				
	15.まとめ																				
評価方法	<p>平常点 30点</p> <p>授業の感想記入、質問等への回答、授業中の受講態度、授業の要約等を総合して平常点とします。ただ授業に出ているだけでは、平常点はつきませんので、注意して下さい。</p> <p>試験 70点</p> <p>授業内容から「論述問題」を中心に出題します。試験に際には、授業中に配付したレジюмеと自筆のノートのみ持ち込みを認めます。採点のポイントは、授業内容を理解した上で、それを相手に伝わるような形で表現できているかという点になります。</p>																				
教材・教科書	<p>とくに指定しません。授業時にレジюмеを配付し、それに従って授業を進めます。</p> <p>参考書等は開講時に紹介します。</p>																				
留意点	<p>毎回の授業終了時にはコメント記入を求められますし、課題が出されます。授業そのものに関しても、ただ授業に来ているだけで居眠りをしたり内職をしたりしている場合には出席とはカウントしません。かなりタスクもリスクも多いので、その覚悟で履修して下さい。</p> <p>本講義に関しては、授業中、ただ座って話を聞いているだけでは意味がありません。つねに何が問題となっているのか、それを解決するためにはどのようにすればいいのか、ということを考えながら授業を受けてください。また、授業中は受講生の皆さんに条文を読んでもらったり、発言を求めたりしますので、そのつもりで緊張感をもって授業に臨んでください。</p>																				

社会福祉専門教育科目(分野領域科目)

科目名	社会福祉経営論		担当教員	保田宗良																
対象学年	W4年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード W33015																
概要	[キーワード: 戦略、ガバナンス、福祉サービス、マネジメント] 福祉サービス全般に対する組織及び経営に関する基礎理論、福祉サービスの現場での具体的な経営、マネジメント、運営の進め方を学習します。現場で必要とされるマーケティング、労務管理、財務管理、情報管理を丁寧に考察します。																			
到達目標	福祉サービスを理解するのに必要な経営学の基礎理論を学習します。社会福祉法人の管理のあり方をシミュレーションし、実践的な講義を展開します。マネジメントはすべての組織で重要であり、福祉及び他のサービス業のビジネスモデルを理解する力量修得を目標にします。																			
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1.福祉サービスの組織と経営</td> <td>9.労務管理、人事管理</td> </tr> <tr> <td>2.福祉サービスの組織と団体(1)</td> <td>10.人材育成</td> </tr> <tr> <td>3.福祉サービスの組織と団体(2)</td> <td>11.財務管理</td> </tr> <tr> <td>4.組織の基礎理論</td> <td>12.会計管理、財務諸表の見方</td> </tr> <tr> <td>5.経営の基礎理論(1)</td> <td>13.情報管理</td> </tr> <tr> <td>6.経営の基礎理論(2)</td> <td>14.福祉サービスの労働環境</td> </tr> <tr> <td>7.組織の経営と実際</td> <td>15.まとめ</td> </tr> <tr> <td>8.サービス管理</td> <td></td> </tr> </table>				1.福祉サービスの組織と経営	9.労務管理、人事管理	2.福祉サービスの組織と団体(1)	10.人材育成	3.福祉サービスの組織と団体(2)	11.財務管理	4.組織の基礎理論	12.会計管理、財務諸表の見方	5.経営の基礎理論(1)	13.情報管理	6.経営の基礎理論(2)	14.福祉サービスの労働環境	7.組織の経営と実際	15.まとめ	8.サービス管理	
1.福祉サービスの組織と経営	9.労務管理、人事管理																			
2.福祉サービスの組織と団体(1)	10.人材育成																			
3.福祉サービスの組織と団体(2)	11.財務管理																			
4.組織の基礎理論	12.会計管理、財務諸表の見方																			
5.経営の基礎理論(1)	13.情報管理																			
6.経営の基礎理論(2)	14.福祉サービスの労働環境																			
7.組織の経営と実際	15.まとめ																			
8.サービス管理																				
評価方法	中間レポート(35点)+学期末試験(35点)+出席点(30点) 中間レポートは、コメントを付けて返却します。																			
教材・教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編集「新・社会福祉士養成講座 11 福祉サービスの組織と経営」中央法規出版、第3版2012年。参考書は必要に応じて紹介します。																			
留意点	良い組織の作り方を意識しましょう。社会福祉法人、医療機関、一般企業の人材育成を考えながら講義を受講してください。																			

社会福祉専門教育科目(分野領域科目)

科目名	精神保健福祉論ⅠA		担当教員	葛西久志																		
対象学年	W3年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード W33016																		
概要	[キーワード: 社会福祉・障害者福祉・精神保健福祉(法)・精神保健福祉士(法)] 精神保健福祉論は社会福祉を基礎とする実践的な学問である。まずは、広く社会福祉の理念と実情を知る。次に、精神障害者の歴史の変遷を通して、どのように処遇をされてきたのかを施策の面から検証していく。																					
到達目標	精神障害者の精神保健福祉施策について理解し、精神保健福祉法・障害者自立支援法等々の関係法規について理解する。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1.障害者福祉の歴史</td> <td>10.新障害者プランと障害者施策統合</td> </tr> <tr> <td>2.障害者福祉の理念と意義</td> <td>11.障害者施策の転換と障害者自立支援法</td> </tr> <tr> <td>3.障害の概念</td> <td>12.新たな障害者サービスと生活支援</td> </tr> <tr> <td>4.精神障害の概念</td> <td>13.自立支援法と精神障害者福祉の展望</td> </tr> <tr> <td>5.精神保健福祉の歴史と理念と変化</td> <td>14.社会復帰施設と障害福祉サービス</td> </tr> <tr> <td>6.精神保健福祉法と精神障害者</td> <td>15.精神障害者の現状</td> </tr> <tr> <td>7.社会福祉基礎構造改革と精神保健福祉</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8.障害者基本法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9.障害者プランの背景と動向</td> <td></td> </tr> </table>				1.障害者福祉の歴史	10.新障害者プランと障害者施策統合	2.障害者福祉の理念と意義	11.障害者施策の転換と障害者自立支援法	3.障害の概念	12.新たな障害者サービスと生活支援	4.精神障害の概念	13.自立支援法と精神障害者福祉の展望	5.精神保健福祉の歴史と理念と変化	14.社会復帰施設と障害福祉サービス	6.精神保健福祉法と精神障害者	15.精神障害者の現状	7.社会福祉基礎構造改革と精神保健福祉		8.障害者基本法		9.障害者プランの背景と動向	
1.障害者福祉の歴史	10.新障害者プランと障害者施策統合																					
2.障害者福祉の理念と意義	11.障害者施策の転換と障害者自立支援法																					
3.障害の概念	12.新たな障害者サービスと生活支援																					
4.精神障害の概念	13.自立支援法と精神障害者福祉の展望																					
5.精神保健福祉の歴史と理念と変化	14.社会復帰施設と障害福祉サービス																					
6.精神保健福祉法と精神障害者	15.精神障害者の現状																					
7.社会福祉基礎構造改革と精神保健福祉																						
8.障害者基本法																						
9.障害者プランの背景と動向																						
評価方法	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。試験(100点)で評価する。																					
教材・教科書	新・精神保健福祉士養成講座第6巻 精神保健福祉に関する制度とサービス 中央法規出版																					
留意点	提出物などの期限厳守																					

社会福祉専門教育科目(分野領域科目)

科目名	精神保健福祉論ⅠB			担当教員	葛西久志																		
対象学年	W3年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	W33017																		
概要	[キーワード: 社会福祉・障害者福祉・精神保健福祉(法)・精神保健福祉士(法)] 精神障害者のノーマライゼーションおよび精神障害者の権利擁護について精神障害者の家族、地域社会をテーマに検証していく。また、精神保健福祉士の歴史的背景などから専門職性・専門職制度などについて課題・問題を探る。																						
到達目標	精神障害者のノーマライゼーションおよび精神障害者の権利擁護についての深い理解を得る。精神保健福祉士資格制度の成立について歴史的背景などから専門職制度などについて理解する。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1.精神障害者と家族の状況</td> <td>10.精神保健福祉士の専門性</td> </tr> <tr> <td>2.精神障害者と地域社会</td> <td>11.相談援助活動</td> </tr> <tr> <td>3.精神障害者のノーマライゼーション</td> <td>12.相談援助活動の事例</td> </tr> <tr> <td>4.国際比較によるわが国の精神障害者</td> <td>13.クライアントの主体性の尊重</td> </tr> <tr> <td>5.精神障害者の権利擁護</td> <td>14.社会的バリア</td> </tr> <tr> <td>6.精神医療における権利擁護</td> <td>15.相談援助活動の指針</td> </tr> <tr> <td>7.地域社会における権利擁護</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8.精神保健福祉士法成立の歴史的背景</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9.精神保健福祉士の対象</td> <td></td> </tr> </table>					1.精神障害者と家族の状況	10.精神保健福祉士の専門性	2.精神障害者と地域社会	11.相談援助活動	3.精神障害者のノーマライゼーション	12.相談援助活動の事例	4.国際比較によるわが国の精神障害者	13.クライアントの主体性の尊重	5.精神障害者の権利擁護	14.社会的バリア	6.精神医療における権利擁護	15.相談援助活動の指針	7.地域社会における権利擁護		8.精神保健福祉士法成立の歴史的背景		9.精神保健福祉士の対象	
1.精神障害者と家族の状況	10.精神保健福祉士の専門性																						
2.精神障害者と地域社会	11.相談援助活動																						
3.精神障害者のノーマライゼーション	12.相談援助活動の事例																						
4.国際比較によるわが国の精神障害者	13.クライアントの主体性の尊重																						
5.精神障害者の権利擁護	14.社会的バリア																						
6.精神医療における権利擁護	15.相談援助活動の指針																						
7.地域社会における権利擁護																							
8.精神保健福祉士法成立の歴史的背景																							
9.精神保健福祉士の対象																							
評価方法	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。試験(100点)で評価する。																						
教材・教科書	新・精神保健福祉士養成講座第6巻 精神保健福祉に関する制度とサービス 中央法規出版																						
留意点	提出物などの期限厳																						

社会福祉専門教育科目(分野領域科目)

科目名	精神保健福祉論Ⅱ			担当教員	葛西久志																		
対象学年	W4年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	W33018																		
概要	[キーワード: 社会福祉・障害者福祉・精神保健福祉(法)・精神保健福祉士(法)] 最近の精神保健福祉施策について理解し、精神保健福祉法・精神保健福祉士法・障害者自立支援法についての動向を探る。また関係法の中でも雇用・就労などの課題問題を探る。																						
到達目標	最近の精神保健福祉施策について理解し、精神保健福祉法・精神保健福祉士法・障害者自立支援法と雇用・就労関係法規についても理解する。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1.精神保健福祉法の意義と変遷</td> <td>10.雇用・就労①</td> </tr> <tr> <td>2.精神保健福祉法</td> <td>11.雇用・就労②</td> </tr> <tr> <td>3.精神保健福祉士法</td> <td>12.所得保障制度</td> </tr> <tr> <td>4.精神保健福祉に関する行政組織</td> <td>13.経済負担の軽減</td> </tr> <tr> <td>5.公費負担制度</td> <td>14.生活環境の改善</td> </tr> <tr> <td>6.精神保健福祉施策の課題</td> <td>15.まとめ</td> </tr> <tr> <td>7.社会復帰施策の現状と課題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8.関連法の概要</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9.医療保険</td> <td></td> </tr> </table>					1.精神保健福祉法の意義と変遷	10.雇用・就労①	2.精神保健福祉法	11.雇用・就労②	3.精神保健福祉士法	12.所得保障制度	4.精神保健福祉に関する行政組織	13.経済負担の軽減	5.公費負担制度	14.生活環境の改善	6.精神保健福祉施策の課題	15.まとめ	7.社会復帰施策の現状と課題		8.関連法の概要		9.医療保険	
1.精神保健福祉法の意義と変遷	10.雇用・就労①																						
2.精神保健福祉法	11.雇用・就労②																						
3.精神保健福祉士法	12.所得保障制度																						
4.精神保健福祉に関する行政組織	13.経済負担の軽減																						
5.公費負担制度	14.生活環境の改善																						
6.精神保健福祉施策の課題	15.まとめ																						
7.社会復帰施策の現状と課題																							
8.関連法の概要																							
9.医療保険																							
評価方法	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。試験(100点)で評価する。																						
教材・教科書	新・精神保健福祉士養成講座第7巻 精神障害者の生活支援システム 中央法規出版																						
留意点	提出物などの期限厳守																						

社会福祉専門教育科目(分野領域科目)

科目名	精神科リハビリテーション学A		担当教員	小山内 隆 生																		
対象学年	W3年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード W33019																		
概要	[キーワード:精神障害の概念、リハビリテーションの概念 ] 精神障害に対するリハビリテーションについての基本的知識を勉強する。																					
到達目標	精神障害とICFの対応を理解できること 精神障害者が抱えている問題について理解できること																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1.オリエンテーション (この講義の学び方)</td> <td>10. 精神保健福祉士の役割</td> </tr> <tr> <td>2. 障害の概念</td> <td>11. リハビリテーションの実際</td> </tr> <tr> <td>3. 精神障害モデル</td> <td>12. ライフサイクルとリハビリテーション</td> </tr> <tr> <td>4. 精神障害者の生活</td> <td>13. リハビリテーション計画</td> </tr> <tr> <td>5. 精神障害者の生活</td> <td>14. リハビリテーションアプローチ</td> </tr> <tr> <td>6. リハビリテーションの概念と歴史</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. リハビリテーションの理念・基本原則</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 精神科リハビリテーションの理念</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 精神科リハビリテーションに関わる専門職</td> <td></td> </tr> </table>				1.オリエンテーション (この講義の学び方)	10. 精神保健福祉士の役割	2. 障害の概念	11. リハビリテーションの実際	3. 精神障害モデル	12. ライフサイクルとリハビリテーション	4. 精神障害者の生活	13. リハビリテーション計画	5. 精神障害者の生活	14. リハビリテーションアプローチ	6. リハビリテーションの概念と歴史	15. まとめ	7. リハビリテーションの理念・基本原則		8. 精神科リハビリテーションの理念		9. 精神科リハビリテーションに関わる専門職	
1.オリエンテーション (この講義の学び方)	10. 精神保健福祉士の役割																					
2. 障害の概念	11. リハビリテーションの実際																					
3. 精神障害モデル	12. ライフサイクルとリハビリテーション																					
4. 精神障害者の生活	13. リハビリテーション計画																					
5. 精神障害者の生活	14. リハビリテーションアプローチ																					
6. リハビリテーションの概念と歴史	15. まとめ																					
7. リハビリテーションの理念・基本原則																						
8. 精神科リハビリテーションの理念																						
9. 精神科リハビリテーションに関わる専門職																						
評価方法	出席点 20 点、レポート・小テスト評価点 30 点、試験 50 点 出席について:遅刻2回で欠席1回とする。30 分以上の遅刻は欠席扱いとする。																					
教材・教科書	精神保健福祉士養成セミナー第 5 巻. へるす出版																					
留意点	教科書に従って授業を進めるので予習復習をよくするように																					

社会福祉専門教育科目(分野領域科目)

科目名	精神科リハビリテーション学B		担当教員	小山内 隆 生																		
対象学年	W3年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード W33020																		
概要	[キーワード:精神障害のリハビリテーションの理念 ] 精神保健福祉士に必要な精神障害者に対するリハビリテーションについての基本的知識を勉強する。																					
到達目標	精神障害に対するリハビリテーション技法を理解する。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1.オリエンテーション (この講義の学び方)</td> <td>10. 精神科退院時指導退院・地域移行支援</td> </tr> <tr> <td>2. リハビリテーションの技法</td> <td>11. 就労支援</td> </tr> <tr> <td>3. 作業療法</td> <td>12. ピアサポート</td> </tr> <tr> <td>4. 行動療法</td> <td>13. リハビリテーションと社会制度</td> </tr> <tr> <td>5. 認知行動療法</td> <td>14. 精神保健福祉施策の諸外国の事情</td> </tr> <tr> <td>6. 家族教育プログラム</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. デイケア、デイナイトケア</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 集団療法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. ケアマネジメント</td> <td></td> </tr> </table>				1.オリエンテーション (この講義の学び方)	10. 精神科退院時指導退院・地域移行支援	2. リハビリテーションの技法	11. 就労支援	3. 作業療法	12. ピアサポート	4. 行動療法	13. リハビリテーションと社会制度	5. 認知行動療法	14. 精神保健福祉施策の諸外国の事情	6. 家族教育プログラム	15. まとめ	7. デイケア、デイナイトケア		8. 集団療法		9. ケアマネジメント	
1.オリエンテーション (この講義の学び方)	10. 精神科退院時指導退院・地域移行支援																					
2. リハビリテーションの技法	11. 就労支援																					
3. 作業療法	12. ピアサポート																					
4. 行動療法	13. リハビリテーションと社会制度																					
5. 認知行動療法	14. 精神保健福祉施策の諸外国の事情																					
6. 家族教育プログラム	15. まとめ																					
7. デイケア、デイナイトケア																						
8. 集団療法																						
9. ケアマネジメント																						
評価方法	出席点 20 点、レポート・小テスト評価点 30 点、試験 50 点 出席について:遅刻2回で欠席1回とする。30 分以上の遅刻は欠席扱いとする。																					
教材・教科書	精神保健福祉士養成セミナー第 5 巻. へるす出版																					
留意点	教科書に従って授業を進めるので予習復習をよくするように																					

社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	社会福祉実習指導Ⅰ		対象学年	W2年
担当教員	科目コード		単位数・開講学期	
柘植秀通	W34101		2単位・通年	
概要	[キーワード: 学び。記録。実習先決定。] まず、実践の場にいる先生方から、現場におけるソーシャルワーカーという観点の講義をいただく。後期は、次年度実習先の決定と、実習へ向かう準備を行う。			
到達目標	現場の状況と、そこにおけるソーシャルワーカーのあり方について、大筋の理解をし、次年度実習へ出られる知的、精神的準備を行う。			
授業の内容	1.オリエンテーション 2.外部講師による講義1 3.外部講師による講義2 4.振り返り 5.外部講師による講義3 6.外部講師による講義4 7.振り返り 8 外部講師による講義1. 9.外部講師による講義1 10.振り返り 11 外部講師による講義1 12.外部講師による講義1 13.振り返り 14.外部講師による講義1 15.夏休みのオリエンテーション	16.オリエンテーション 17.実習先選定に向けて1 18.実習先選定に向けて2 19.実習先選定に向けて3 20.実習先選定に向けて4 21.実習先選定1 22.実習先選定2 23.実習へ向けて1 24.実習へ向けて2 25.実習報告会1 26.実習報告会2 27.実習へ向けて3 28.実習へ向けて4 29.実習へ向けて5 30.振り返り		
評価方法	外部講師の講義に対するレポート30点、出席50点、前期末レポート・報告会レポート20%			
教材・教科書	中央法規「社会福祉士 相談援助実習」			
留意点	出欠・遅刻・早退等は厳しく取っていきます			

社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	社会福祉実習指導Ⅱ		対象学年	W3年
担当教員	科目コード		単位数・開講学期	
松本郁代	W34201		2単位・通年	
葛西久志				
小川幸裕				
高橋和幸				
柘植秀通				
概要	[キーワード:準備。計画。実践。振り返り ] 実習期間を中心として、実習への備えとしての計画・準備から始まり、実習後の振り返りにおいて、学ぶべき内容を深める。			
到達目標	実践の場に出て、自らの不足を理解し、必要な改善を行えるようになる。 利用者個々の尊厳を理解し、その尊厳を尊重する意志を持つようになる。			
授業の内容	1.オリエンテーション 2.実習計画1 3.実習計画2 4.実習計画3 5.実習計画4 6.実習計画5 7.実習計画6 8.実習計画7 9.実習準備1 10.実習準備2 11.実習準備3 12.実習準備4 13.実習準備5 14.実習準備6 15.実習準備7	16.オリエンテーション 17.実習振り返り1 18.実習振り返り2 19.実習振り返り3 20.実習報告準備1 21.実習報告準備2 22.実習報告準備3 23.実習報告準備4 24.実習報告準備5 25.実習報告会1 26.実習報告会2 27.実習総括書最終作成 28.振り返り 29.振り返り 30.振り返り		
評価方法	実習指導者の評価及び実習準備・報告へ向けての様子などを総合的に勘案			
教材・教科書	中央法規「社会福祉士 相談援助実習」			
留意点	実際に実習へ出て行くことを前提に、全ての行動を律するように			



社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	社会福祉調査実習 A			担当教員	藤岡真之																		
対象学年	W4年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	W35001																		
概要	[キーワード:調査テーマの検討、先行研究の検討、実査の企画] 社会福祉調査法の講義で学んだ内容を踏まえて、社会調査を企画する。																						
到達目標	社会調査の全体の流れを理解し、実際に企画をする。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 社会福祉調査とは何か (1)</td> <td>10. 先行研究の検討 (1)</td> </tr> <tr> <td>2. 社会福祉調査とは何か (2)</td> <td>11. 先行研究の検討 (2)</td> </tr> <tr> <td>3. 社会福祉調査とは何か (3)</td> <td>12. 先行研究の検討 (3)</td> </tr> <tr> <td>4. 社会福祉調査とは何か (4)</td> <td>13. 先行研究の検討 (4)</td> </tr> <tr> <td>5. 調査テーマの検討 (1)</td> <td>14. 実査の企画 (1)</td> </tr> <tr> <td>6. 調査テーマの検討 (2)</td> <td>15. 実査の企画 (2)</td> </tr> <tr> <td>7. 調査テーマの検討 (3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 調査テーマの検討 (4)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 調査テーマの検討 (5)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 社会福祉調査とは何か (1)	10. 先行研究の検討 (1)	2. 社会福祉調査とは何か (2)	11. 先行研究の検討 (2)	3. 社会福祉調査とは何か (3)	12. 先行研究の検討 (3)	4. 社会福祉調査とは何か (4)	13. 先行研究の検討 (4)	5. 調査テーマの検討 (1)	14. 実査の企画 (1)	6. 調査テーマの検討 (2)	15. 実査の企画 (2)	7. 調査テーマの検討 (3)		8. 調査テーマの検討 (4)		9. 調査テーマの検討 (5)	
1. 社会福祉調査とは何か (1)	10. 先行研究の検討 (1)																						
2. 社会福祉調査とは何か (2)	11. 先行研究の検討 (2)																						
3. 社会福祉調査とは何か (3)	12. 先行研究の検討 (3)																						
4. 社会福祉調査とは何か (4)	13. 先行研究の検討 (4)																						
5. 調査テーマの検討 (1)	14. 実査の企画 (1)																						
6. 調査テーマの検討 (2)	15. 実査の企画 (2)																						
7. 調査テーマの検討 (3)																							
8. 調査テーマの検討 (4)																							
9. 調査テーマの検討 (5)																							
評価方法	出席、取り組み、課題を総合的に評価する																						
教材・教科書																							
留意点																							

社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	社会福祉調査実習 B			担当教員	藤岡真之																		
対象学年	W4年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	W35002																		
概要	[キーワード:質問票の作成、調査の実施、調査結果の集計・分析] 質問票を作成し、調査を行う。調査結果を集計し、分析を行う。																						
到達目標	自ら質問票を作成し、集計・分析まで行えるようになること。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 質問票の作成 (1)</td> <td>10. 調査結果の集計 (1)</td> </tr> <tr> <td>2. 質問票の作成 (2)</td> <td>11. 調査結果の集計 (2)</td> </tr> <tr> <td>3. 質問票の作成 (3)</td> <td>12. 調査結果の集計 (3)</td> </tr> <tr> <td>4. 質問票の作成 (4)</td> <td>13. 調査結果の分析 (1)</td> </tr> <tr> <td>5. 質問票の作成 (5)</td> <td>14. 調査結果の分析 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 調査の実施 (1)</td> <td>15. 調査結果の分析 (3)</td> </tr> <tr> <td>7. 調査の実施 (2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 調査の実施 (3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 調査の実施 (4)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 質問票の作成 (1)	10. 調査結果の集計 (1)	2. 質問票の作成 (2)	11. 調査結果の集計 (2)	3. 質問票の作成 (3)	12. 調査結果の集計 (3)	4. 質問票の作成 (4)	13. 調査結果の分析 (1)	5. 質問票の作成 (5)	14. 調査結果の分析 (2)	6. 調査の実施 (1)	15. 調査結果の分析 (3)	7. 調査の実施 (2)		8. 調査の実施 (3)		9. 調査の実施 (4)	
1. 質問票の作成 (1)	10. 調査結果の集計 (1)																						
2. 質問票の作成 (2)	11. 調査結果の集計 (2)																						
3. 質問票の作成 (3)	12. 調査結果の集計 (3)																						
4. 質問票の作成 (4)	13. 調査結果の分析 (1)																						
5. 質問票の作成 (5)	14. 調査結果の分析 (2)																						
6. 調査の実施 (1)	15. 調査結果の分析 (3)																						
7. 調査の実施 (2)																							
8. 調査の実施 (3)																							
9. 調査の実施 (4)																							
評価方法	出席、取り組み、課題を総合的に評価する																						
教材・教科書																							
留意点	社会福祉調査実習 A を履修していることが望ましい。																						

社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	精神保健福祉援助実習			担当教員	葛西久志
対象学年	W4年	単位数・開講学期	6単位・通年	科目コード	W35003
概要	<p>[キーワード: 専門性(知識、技術、価値・倫理)、専門職性、専門職制度]</p> <p>精神保健福祉援助実習は精神障害者の理解に始まり、制度理解、社会福祉全般の知識や精神保健福祉援助技術など講義、演習で学んだことを活用する。実習後は、実習計画にあげた課題の成果をふりかえりながら総括し報告書を作成する。公開報告会も実施する。</p>				
到達目標	<p>精神保健福祉の臨床現場における実習を通して、各実習機関(精神科病院、精神科診療所、障害福祉サービス事業など)の役割、機能を把握する。また、最も大切なことは精神障害者への支援・援助を通して、自己覚知を深め、気づきのある実習にすることである。</p>				
授業の内容	<p>1.オリエンテーション</p> <p>2.第Ⅰ期実習先の理解と把握①</p> <p>3.第Ⅰ期実習先の理解と把握②</p> <p>4.第Ⅰ期実習先の理解と把握③</p> <p>5.第Ⅰ期実習先の理解と把握④</p> <p>6.第Ⅰ期実習先の理解と把握⑤</p> <p>7.実習記録のまとめ方①</p> <p>8.実習記録のまとめ方②</p> <p>9.実習記録のまとめ方③</p> <p>10.倫理綱領の理解①</p> <p>11.倫理綱領の理解②</p> <p>12.第Ⅰ期実習の振り返り①</p> <p>13.第Ⅰ期実習の振り返り②</p> <p>14.第Ⅰ期実習の振り返り③</p> <p>15.第Ⅰ期実習のまとめ</p>		<p>16.第Ⅱ期実習に向けて</p> <p>17.第Ⅱ期実習先の理解と把握①</p> <p>18.第Ⅱ期実習先の理解と把握②</p> <p>19.第Ⅱ期実習先の理解と把握③</p> <p>20.第Ⅱ期実習先の理解と把握④</p> <p>21.第Ⅱ期実習先の理解と把握⑤</p> <p>22.第Ⅱ期実習の振り返りと報告書の作成①</p> <p>23.第Ⅱ期実習の振り返りと報告書の作成②</p> <p>24.第Ⅱ期実習の振り返りと報告書の作成③</p> <p>25.第Ⅱ期実習の振り返りと報告書の作成④</p> <p>26.実習報告会①</p> <p>27.実習報告会②</p> <p>28.実習報告会③</p> <p>29.公開実習報告会</p> <p>30.まとめ</p>		
評価方法	<p>実習に関する事前・事後の取り組み状況(態)と、実習機関からの実習評価を参照し、総合的に評価する。</p>				
教材・教科書	<p>本学の「精神保健福祉実習の手引き」とオリジナル資料を配布する予定である。</p>				
留意点	<p>この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための必須科目である。</p>				

社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	専門演習 I			担当教員	大野 拓哉
対象学年	W3年	単位数・開講学期	4単位・通年	科目コード	W44101
概要	<p>[キーワード: 憲法、人権、権利擁護]</p> <p>履修者各自に、一方で、発表者として、憲法、人権、権利擁護などに関するテーマを設定・発表してもらい、他方で、フロアーとして、発表をめぐる討論に積極的に取り組み、以て、共に、深い理解が得られる「場」となることを、本演習は目指す。</p>				
到達目標	<p>テーマそれ自体に関する理解にとどまらず、それをいかに掘り下げ、再構成し、伝えられるかといった方法論をめぐっても、より精通することを目指す。</p>				
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. ガイダンス</li> <li>3. 課題の設定</li> <li>4. 課題の設定</li> <li>5. 発表と討論</li> <li>6. 発表と討論</li> <li>7. 発表と討論</li> <li>8. 発表と討論</li> <li>9. 発表と討論</li> <li>10. 発表と討論</li> <li>11. 発表と討論</li> <li>12. 発表と討論</li> <li>13. 発表と討論</li> <li>14. 発表と討論</li> <li>15. 前期の振り返り</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>16. 発表と討論</li> <li>17. 発表と討論</li> <li>18. 発表と討論</li> <li>19. 発表と討論</li> <li>20. 発表と討論</li> <li>21. 発表と討論</li> <li>22. 発表と討論</li> <li>23. 発表と討論</li> <li>24. 発表と討論</li> <li>25. 発表と討論</li> <li>26. 発表と討論</li> <li>27. 発表と討論</li> <li>28. 発表と討論</li> <li>29. 発表と討論</li> <li>30. 年間の振り返り</li> </ol>		
評価方法	特に試験などは実施しないが、各自の発表と討論への取り組みを評価の対象とする。				
教材・教科書	特に指定しない。				
留意点	特定の事柄に関する強い関心や豊富な知識は必要ない反面、何事についても問題意識の希薄な学生は履修を遠慮するのが得策かもしれない。				

社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	専門演習 I			担当教員	葛西久志
対象学年	W3年	単位数・開講学期	4単位・通年	科目コード	W44102
概要	[キーワード:コミュニケーション力、精神保健福祉問題(自殺、アルコール問題、認知症介護等)] 前期は、精神保健福祉問題(解放出版社)からテーマを取り上げ研究レポート作成し発表する。後期は、自分たちが関心のあるテーマを取り上げ、報告する。				
到達目標	専門演習を通してコミュニケーション力を養い、実践力を身につける。また、様々な問題について自己の考えをまとめ論述し、プレゼンテーションする方法を習得する。				
授業の内容	1.オリエンテーション(自己紹介など) 2.こころの病気が増えているといわれますが 3.精神病にかかると何をするかわからない 4.精神病の原因は何ですか? 5.グループワーク(価値交流学习) 6.精神科治療はどのようになされているのですか 7.電気けいれん療法が行われているのは本当か(映画:カッコウの巣の上で) 8.精神科病院はどんなところですか 9.精神科病院見学(弘前愛成会病院) 10.精神科病院見学の報告 11.グループワーク(体育館利用) 12.障害者総合支援法と障害福祉サービス事業とは 13.事業所見学(つがる野工房) 14.事業所見学の報告 15.まとめ		16.薬は一生のみ続けなければならないのですか 17.精神障害者が地域で普通に暮らしていくためには何が必要ですか(VTR:べてるの家) 18.精神障害者を強制的に入院させることは許されるのですか 19.日本における精神障害者の対応は 20.精神保健福祉法とはどのような法律か 21.精神科病院見学(藤代健生病院) 22.精神科病院見学の報告 23.精神障害者は犯罪を犯しやすいのですか 24.精神障害者はどのような差別を受けていますか 25.精神障害者にとって、どのような福祉施策が必要なのですか? 26.地域で普通に暮らしていくには、具体的に何が必要か 27.マスコミの報道のあり方に問題はないのか 28.障害者自身のソーシャルアクションはしていますか 29.家族はどのような活動をしていますか 30.まとめ		
評価方法	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。				
教材・教科書	山本深雪、他(2005)「知っていますか?精神障害者問題一問一答」解放出版社				
留意点	提出物の期限などを厳守する。施設・病院見学やゼミ合宿なども行う場合もある。				

社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	専門演習 I			担当教員	野口 伐名
対象学年	W3年	単位数・開講学期	4 単位・ 通年	科目コード	W44103
概要	<p>[キーワード: 子どもの福祉を問う ]</p> <p>子どもの福祉に関する論文「子どもの視点から子どもの福祉を問う」(小沼肇氏)と「施設における子育て」(潮谷義子氏)を手がかりに、今、子どもの福祉に求められているものは何か、具体的に考察を試みようとするものである。</p>				
到達目標	<p>子どもの視点にたつて子どもや子どもを巡る問題について検討を加えながら、子どもが何を訴え、真に何を求めようとしているのかを探り、そして大人や社会が何を提供しなければならないかを理解しながら、子どもが本当に大切にされる社会を構築しようとするのである。</p>				
授業の内容	<p>1. 子どもの福祉に問われているもの</p> <p>2. 子どもをどう捉えるか</p> <p>3. 子どもは変わっていない</p> <p>4. 殺伐としている子どもたち</p> <p>5. 病んでいる子どもたち</p> <p>6. 逃げる子どもたち</p> <p>7. 学習成果の話し合い(発表)①</p> <p>8. 子どもを育てない社会</p> <p>9. 教えているが育てない社会</p> <p>10. 子どもを押さえつける社会</p> <p>11. 学習成果の話し合い(発表)②</p> <p>12. 子どもの視点で子どもの福祉を問う</p> <p>13. ソーシャルワークの基本</p> <p>14. 子どもを育てる社会</p> <p>15. 学習成果の話し合い(発表)③</p>		<p>16. 子どもが本当に大切にされる社会</p> <p>17. 学習成果の話し合い(発表)④</p> <p>18. 施設における子育て</p> <p>19. 子ども・家庭・環境</p> <p>20. 社会的養護</p> <p>21. 施設の子どもに見る養護問題</p> <p>22. 学習成果の話し合い(発表)⑤</p> <p>23. 施設に求められる発達援助機能</p> <p>24. 新たな人間関係の構築をめざして</p> <p>25. 心のよりどころを求めて</p> <p>26. 家庭関係のモデルを求めて</p> <p>27. 学習成果の話し合い(発表)⑥</p> <p>28. 家庭支援に向けて</p> <p>29. 権利の主体者として</p> <p>30. 学習成果の話し合い(発表)⑦</p>		
評価方法	レポート(70 点)、出席状況(30 点)				
教材・教科書	授業内容に関するレジメを随時配布する。				
留意点	常に子どもの問題に関心を持っていることが大切である。				

社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	専門演習 I			担当教員	松本郁代
対象学年	W3年	単位数・開講学期	4単位・通年	科目コード	W44104
概要	<p>[キーワード: 社会福祉の歴史、社会事業理論]</p> <p>日本における社会福祉のあゆみのうち、社会事業と社会福祉の時期の理論について、文献を読む。その際に、指定した文献に掲載されている引用文献等も検索し、講読する。</p>				
到達目標	日本における社会事業理論・社会福祉理論について知る。				
授業の内容	1.社会福祉理論史について① 2.社会福祉理論史について② 3.社会福祉理論史について③ 4.日本慈善、救済論の系譜① 5.日本慈善、救済論の系譜② 6.産業確立期の社会改良、慈善事業論① 7.産業確立期の社会改良、慈善事業論② 8.産業確立期の社会改良、慈善事業論③ 9.帝国主義形成期の救済事業論① 10.帝国主義形成期の救済事業論② 11.帝国主義形成期の救済事業論 12.大正デモクラシー期の社会事業論① 13.大正デモクラシー期の社会事業論② 14.大正デモクラシー期の社会事業論③ 15.前期のまとめ		16.社会事業理論の成立① 17. 社会事業理論の成立② 18. 社会事業理論の成立③ 19. 社会事業理論の成立④ 20. 戦時下における社会事業理論 21. 厚生事業論① 22.厚生事業論② 23.戦後の社会事業理論① 24. 戦後の社会事業理論② 25.高度成長、減速経済期の社会福祉理論① 26 高度成長、減速経済期の社会福祉理論② 27 高度成長、減速経済期の社会福祉理論③ 28.現在の社会福祉理論① 29. 現在の社会福祉理論② 30.後期のまとめ		
評価方法	出席状況:レポート=3:1の比率で評価する				
教材・教科書	吉田久一(1995)『日本社会福祉理論史』勁草書房				
留意点	社会福祉発達史A・Bを履修していることが望ましい。				

社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	専門演習 I			担当教員	小川 幸裕
対象学年	W3年	単位数・開講学期	4 単位・ 通年	科目コード	W44201
概要	[キーワード:ソーシャルワーク、社会福祉士] 社会福祉に関わるテーマを学生自ら設定し、テーマに関係する文献を収集する。テーマについて理解を深めるとともに論点を整理した上で報告を行う。				
到達目標	自ら設定したテーマについて研究報告する。				
授業の内容	1.オリエンテーション 2.テーマの設定 3.テーマの設定 4.報告及びディスカッション 5. 報告及びディスカッション 6. 報告及びディスカッション 7. 報告及びディスカッション 8. 報告及びディスカッション 9. 振り返り 10. 報告及びディスカッション 11. 報告及びディスカッション 12. 報告及びディスカッション 13. 報告及びディスカッション 14. 報告及びディスカッション 15.振り返り		16.先行研究・方法の検討 17.先行研究・方法の検討 18. 報告及びディスカッション 19. 報告及びディスカッション 20. 報告及びディスカッション 21. 報告及びディスカッション 22. 報告及びディスカッション 23.振り返り 24. 報告及びディスカッション 25. 報告及びディスカッション 26. 報告及びディスカッション 27. 報告及びディスカッション 28. 報告及びディスカッション 29. 報告及びディスカッション 30.まとめ		
評価方法	報告 5 割、討論など参加状況 5 割				
教材・教科書					
留意点					

社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	専門演習 I			担当教員	北村 繁
対象学年	W3年	単位数・開講学期	4単位・ 通年	科目コード	W44202
概要	<p>[キーワード: 地理学・地形学・火山灰編年学 ]</p> <p>地理学・地形学・火山灰編年学のいずれかの分野で、学生自らテーマを設定し、そのテーマのもとで、基礎的な知識を深めながら、調査・分析を進めていくために必要となる手法の修得をめざす。</p>				
到達目標	自ら設定したテーマについての基礎知識、調査法、分析法を学ぶ。				
授業の内容	<p>前期：研究テーマの設定を設定し、既存の文献・資料を集め、これを使って、基礎知識を得るとともに、調査・分析に必要な手法学習する。</p> <p>後期：学習を続けながら、予備的な調査・分析を行い、学習した手法の実践を試みる。</p> <p>&lt;備考1&gt;担当教員の2013年度の研究テーマ</p> <p>中米エルサルバドル・レンパ川下流域の地形発達史</p> <p>中米・エルサルバドル中部地域の火山灰層序</p> <p>火山灰層序に基づく岩木山・八甲田山・十和田火山の火山噴火史</p> <p>オープンソースGISによるGIS教育</p> <p>&lt;備考2&gt;過去にこのゼミで購読した書籍</p> <p>『火山噴火と災害』(宇井忠英・1997・東京大学出版会)、『災害ボランティア読本』(伊永勉・1998、小学館)、『災害救助(改訂増補版)』(竹内吉平・2004・近代消防社)、『災害情報と社会心理』(廣井脩・2004・北樹出版)、『地震の揺れを科学する』(山中宏明ほか・2006・東京大学出版会)、『温泉科学の新展開』(大沢信二編・2006・ナカニシヤ出版)、『津波災害—減災社会を築く—』(河田恵昭・2010・岩波書店)、『液状化現象—巨大地震を読み解くキーワード—』(國生剛治・2009・鹿島出版会)、『野生のナビゲーション』(野中 健一・2004・古今書院)、ほか。</p>				
評価方法	毎回の口頭試問、途中経過の発表、レポートなど				
教材・教科書	テーマ設定後にそれに合わせて選ぶ。				
留意点	ある程度の基礎知識を前提とする(地形図が読める、パソコンの操作ができる、など)ので、履修登録の前に、必ず相談に来ること。				



社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	専門演習 I			担当教員	西 東 克 介
対象学年	W3年	単位数・開講学期	4単位・通年	科目コード	W44203
概要	<p>[キーワード：テーマの決定、目的/手段のヒエラルヒー]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゴールデン・ウィークあけまでに、自らが研究するテーマを決定。</li> <li>・ そのための発表を行い、教員・ゼミ生の意見を聞き、自らがテーマを決定。</li> <li>・ テーマは西東の専門である「政治学」「行政学」「教育行政」以外でも、西東による指導・助言が可能なものならよい。</li> </ul>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生が関心のある問題について、学生自身が調べ、まとめ、発表する。</li> <li>・ 関心のある問題は、原則として同じテーマの範囲で発表し続ける。</li> <li>・ 最後に発表し続けたものを一つにまとめて提出する。</li> </ul>				
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.本専門演習 I の概要説明</li> <li>2.専門演習 I とは何か</li> <li>3.専門演習 I の意義</li> <li>4.図書館の利用の仕方</li> <li>5.インターネットの利用の仕方</li> <li>6.新聞の利用の仕方</li> <li>7.「雑誌」論文と学術論文の違い</li> <li>8.インタビューの方法と扱い方</li> <li>9.アンケートの方法と扱い方</li> <li>10.「新書」の出版ブームについて</li> <li>11.「新書」の多様性と扱い方</li> <li>12.学術書と大学の教科書の違い</li> <li>13.目的/手段のヒエラルヒーと機能と構造</li> <li>14.目的/手段のヒエラルヒーと政策</li> <li>15.目的/手段のヒエラルヒーと論文</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>16.論文の章立てについて</li> <li>17.論文の展開 (はじめに)</li> <li>18.論文の展開 (本論 1)</li> <li>19.論文の展開 (本論 2)</li> <li>20.論文の展開 (本論 3)</li> <li>21.論文の展開 (おわりに)</li> <li>22.引用の方法と注について</li> <li>23.参考文献とは</li> <li>24.「 」と『 』について</li> <li>25.意味を含ませる「 」と傍点</li> <li>26.段落について考える</li> <li>27.句点について考える</li> <li>28.西東ゼミの研究発表会について</li> <li>29.弘大某ゼミ卒論発表会参観について</li> <li>30.長期に渡る文章作成の意義</li> </ol>		
評価方法	出席 (前提)、発表に関わる過程、そして短縮論文 (最後に 1 回のみ提出) を総合する。				
教材・教科書	教科書：産能短期大学日本語教育研究所著『研究発表の方法』、凡人社、2,300 円。				
留意点	本専門演習 I の履修希望者は、本演習が終わる年度までに、少なくとも「政治学」、「行政学」、あるいは「生徒指導論」の履修をしておくこと。できれば単位習得を望む。上記の授業内容は、演習の時間の中で、わずかな時間があったときに教員が学生に説明を心がけるものである。よって、授業の中心は、各自が調べ、研究したものを発表し、これを全員で討論することが中心となる。				

社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	専門演習 I			担当教員	高橋和幸
対象学年	W3年	単位数・開講学期	4単位・通年	科目コード	W44204
概要	[キーワード: 白書 行政機関HP 文献調査 レポート作成 プレゼン] 文献収集やインタビュー・参与観察法・アンケート等の様々な調査手法があることを再確認します。つぎに、興味のあるテーマを設定し、調査するとしたらどんな手法が適しているのか、どのようなデータが必要なのか、といったあたりを皆で話し合っていきます。				
到達目標	総仕上げとして研究レポートを作成し発表することが目標です。				
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ブレイン・ストーミングと KJ 法による価値交流 (学生同士の信頼関係づくり)</li> <li>2. 厚生労働省ほか関係機関のホームページから入手できるデータについて</li> <li>3. いろいろな「白書」から学ぶ</li> <li>4. 各自興味をもったことを持ち寄り、簡単に報告する (意見交換会)</li> <li>5. 各自興味をもった分野について、更に詳しく図書館で専門書を使って調べる</li> <li>6. 量的データに関心をもつ</li> <li>7. 厚労省による各種統計データをみる</li> <li>8. どのように統計処理されていたか確認</li> <li>9. 観察調査、インタビュー調査などで得られるデータと統計データの違いを感じる</li> <li>10. いろいろな調査で得られたデータの分析方法について話し合う</li> <li>11. レポートの書き方について</li> <li>12. 研究計画の立て方について</li> <li>13. 夏休みに調べるテーマの設定</li> <li>14. 上の調査計画を発表し、皆で討論</li> <li>15. ゼミ前半の振り返り</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>16. 情報収集した結果を報告し、討論①</li> <li>17. 情報収集した結果を報告し、討論②</li> <li>18. 情報収集した結果を報告し、討論③</li> <li>19. 情報収集した結果を報告し、討論④</li> <li>20. これまでの小括</li> <li>21. 研究分野が近い学生同士が班になり共同調査に向けて意見交換</li> <li>22. 共同調査での経過報告①</li> <li>23. 共同調査での経過報告②</li> <li>24. 経過報告会での質疑応答を踏まえて、自分の研究計画の練り直し</li> <li>25. データ集め</li> <li>26. データの分析や解釈等について討論</li> <li>27. 研究レポート執筆状況報告①</li> <li>28. 研究レポート執筆状況報告②</li> <li>29. 研究レポートの概要の報告会</li> <li>30. 一年間の学習成果の振り返り</li> </ol>		
評価方法	出席点 20 点、レポート 40 点、発表 40 点				
教材・教科書	特に指定しませんが、その都度資料を配布します。				
留意点	調べてきてくれた仲間の発表をじっくり聞き、楽しく討論していきましょう。				

社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	専門演習 I			担当教員	棟方達也
対象学年	W3年	単位数・開講学期	4単位・通年	科目コード	W44205
概要	<p>[キーワード:四季、アウトドアスポーツ]</p> <p>ここでは、社会福祉に関する専門的な内容は主題としていません。専門に扱うのはアウトドアスポーツです。情報収集や文献研究は勿論ですが、実技(実践)を重視し、アウトドアにおける様々な活動の計画、準備、実践、記録、報告等を通して課題の設定からその解決方法を模索し結論に到達する過程を学びます。</p> <p>◎対象となりうる主な種目:スノースポーツ、カヌー・シーカヤック、スクーバダイビング、山岳活動、サイクリング 等</p>				
到達目標	演習Ⅱの卒業研究に向けて、アウトドアスポーツをテーマとする研究課題を絞り込みます。				
授業の内容	1.年間計画 2.情報収集と基礎知識 3.情報収集と基礎知識 4.実習準備 5.春実習 1 6.春実習 2 7.春実習 3 8.春実習 4 9.情報収集と基礎知識 10.情報収集と基礎知識 11.実習準備 12.夏実習 1 13.夏実習 2 14.夏実習 3 15.夏実習 4		16.情報収集と基礎知識 17.情報収集と基礎知識 18.実習準備 19.秋実習 1 20.秋実習 2 21.秋実習 3 22.秋実習 4 23.情報収集と基礎知識 24.情報収集と基礎知識 25.実習準備 26.冬実習 1 27.冬実習 2 28.冬実習 3 29.冬実習 4 30.研究課題の確認		
評価方法	実習実施状況 50% 実習計画書及び報告書 50%				
教材・教科書					
留意点	<p>内容が特殊なので、登録前に必ず面接し、適正や内容を確認してください。土日や長期休業期間を利用した学外活動が多く交通費や装備にお金がかかります。</p> <p>アウトドアと運動が好きであれば、性別、運動能力は問いません。<b>喫煙者お断り。</b></p> <p>原則として、1～2年次において、指定科目(スポーツ科学実技「シーカヤック、スクーバダイビング、及びスノースポーツ」のうち最低 1 科目を受講していること。特に夏季休業中に社会福祉実習を予定している学生は、2年次までにシーカヤックまたはスクーバダイビングのいずれかを受講していることが望ましい。</p>				

社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	専門演習 I			担当教員	遠藤 ゆり子
対象学年	W3年	単位数・開講学期	4単位・通年	科目コード	W44301
概要	<p>[キーワード： 歴史・日本・戦国時代・織田信長 ]</p> <p>前期は、織田信長（1534～82）の事跡を記した『信長公記（しんちょうこうき）』を読む。毎回、担当者を決めて史料に出てくる用語・人名・地名などを調べてくる。後期は、各自が課題（歴史に関する内容）を決めて報告し、それについて全体で討論する。</p>				
到達目標	<p>*史料の読解力を養う。</p> <p>*歴史学の方法、社会科学研究方法の基礎を学ぶ。</p> <p>*各自が決めた課題について報告し、活発な討論ができるようになる。</p>				
授業の内容	<p>1.オリエンテーション</p> <p>2.織田信長と『信長公記』</p> <p>3.史料の読み方</p> <p>4.『信長公記』を読む①</p> <p>5.『信長公記』を読む②</p> <p>6.『信長公記』を読む③</p> <p>7.『信長公記』を読む④</p> <p>8.『信長公記』を読む⑤</p> <p>9.『信長公記』を読む⑥</p> <p>10.『信長公記』を読む⑦</p> <p>11.『信長公記』を読む⑧</p> <p>12.『信長公記』を読む⑨</p> <p>13.『信長公記』を読む⑩</p> <p>14.『信長公記』を読む⑪</p> <p>15.『信長公記』を読む⑫</p>		<p>16.学生の報告・討論</p> <p>17.学生の報告・討論</p> <p>18.学生の報告・討論</p> <p>19.学生の報告・討論</p> <p>20.学生の報告・討論</p> <p>21.学生の報告・討論</p> <p>22.学生の報告・討論</p> <p>23.学生の報告・討論</p> <p>24.学生の報告・討論</p> <p>25.学生の報告・討論</p> <p>26.学生の報告・討論</p> <p>27.学生の報告・討論</p> <p>28.学生の報告・討論</p> <p>29.学生の報告・討論</p> <p>30.学生の報告・討論</p>		
評価方法	<p>*報告（70点）</p> <p>*レポート（30点）</p>				
教材・教科書	奥野高広・岩沢愿彦校注『信長公記』（角川ソフィア文庫、1969年）				
留意点	*討論など、授業には積極的に参加して下さい。				

社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	専門演習 I			担当教員	柘植秀通
対象学年	W3年	単位数・開講学期	4 単位・ 通年	科目コード	W44302
概要	<p>[キーワード：児童、遊び]</p> <p>児童福祉において、遊びという要素は、年齢・障害のあるなしを問わず重要です。この授業では、そうした遊びについて研究し、実際のケアに役立てるように実体験を通し学び、また理論を通して方法論を学んでいく。できれば、このことを元に4年生では遊びに関する論文を書けるまでにしたい。</p>				
到達目標	福祉施設の子どもたちの遊び指導において、実際に活動できるだけの知識と技能を身につける。				
授業の内容	<p>1.遊びとはなにか1</p> <p>2.遊びとはなにか2</p> <p>3.遊びとはなにか3</p> <p>4.遊び指導について1</p> <p>5.遊び指導について2</p> <p>6.遊び指導について3</p> <p>7.集団遊び1</p> <p>8.集団遊び2</p> <p>9.集団遊び3</p> <p>10.集団遊びの意味と指導1</p> <p>11.集団遊びの意味と指導2</p> <p>12.伝統的遊び1</p> <p>13.伝統的遊び2</p> <p>14.伝統的遊び3</p> <p>15 伝統的遊びの意味と指導</p>		<p>16.工作遊び1</p> <p>17.工作遊び2</p> <p>18.工作遊びの意味と指導</p> <p>19.「遊びの会」の計画・立案1</p> <p>20.「遊びの会」の計画・立案2</p> <p>21.「遊びの会」野計画・立案3</p> <p>22.「遊びの会」の準備・広報1</p> <p>23.「遊びの会」の準備・広報2</p> <p>24.「遊びの会」の準備・広報3</p> <p>25.「遊びの会」の実行</p> <p>26. 反省1</p> <p>27. 反省2</p> <p>28. まとめ1</p> <p>29. まとめ2</p> <p>30. まとめ3</p>		
評価方法	出席50点。ゼミへの参加意欲・実績50点				
教材・教科書	特になし				
留意点	児童と直接に交わって遊ぶ機会を作ります。まず、何よりも真剣に児童と遊び、積極的に考えることが出来るようにすることを求めます。				

社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	専門演習 I			担当教員	藤岡真之		
対象学年	W3年	単位数・開講学期	4単位・通年	科目コード	W44303		
概要	<p>[キーワード: 文献講読、小論文]</p> <p>前期: 文献の講読(下記の教科書を参照)</p> <p>後期: 自らの関心に基づいて設定したテーマについて、小論文を作成する</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読む力をつける</li> <li>・自分が何に関心があるのかということを見出し、それを掘り下げる</li> </ul>						
授業の内容	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 文献の講読、議論</li> <li>3. 文献の講読、議論</li> <li>4. 文献の講読、議論</li> <li>5. 文献の講読、議論</li> <li>6. 文献の講読、議論</li> <li>7. 文献の講読、議論</li> <li>8. 文献の講読、議論</li> <li>9. 文献の講読、議論</li> <li>10. 文献の講読、議論</li> <li>11. 文献の講読、議論</li> <li>12. 文献の講読、議論</li> <li>13. 文献の講読、議論</li> <li>14. 文献の講読、議論</li> <li>15. 文献の講読、議論</li> </ol> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>16. 小論文テーマ、先行研究、方法の検討</li> <li>17. 小論文テーマ、先行研究、方法の検討</li> <li>18. 小論文テーマ、先行研究、方法の検討</li> <li>19. 小論文テーマ、先行研究、方法の検討</li> <li>20. 小論文テーマ、先行研究、方法の検討</li> <li>21. 小論文テーマ、先行研究、方法の検討</li> <li>22. 小論文テーマ、先行研究、方法の検討</li> <li>23. 小論文テーマ、先行研究、方法の検討</li> <li>24. 小論文の執筆・推敲</li> <li>25. 小論文の執筆・推敲</li> <li>26. 小論文の執筆・推敲</li> <li>27. 小論文の執筆・推敲</li> <li>28. 小論文の執筆・推敲</li> <li>29. 小論文の執筆・推敲</li> <li>30. 小論文の執筆・推敲</li> </ol> </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 文献の講読、議論</li> <li>3. 文献の講読、議論</li> <li>4. 文献の講読、議論</li> <li>5. 文献の講読、議論</li> <li>6. 文献の講読、議論</li> <li>7. 文献の講読、議論</li> <li>8. 文献の講読、議論</li> <li>9. 文献の講読、議論</li> <li>10. 文献の講読、議論</li> <li>11. 文献の講読、議論</li> <li>12. 文献の講読、議論</li> <li>13. 文献の講読、議論</li> <li>14. 文献の講読、議論</li> <li>15. 文献の講読、議論</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>16. 小論文テーマ、先行研究、方法の検討</li> <li>17. 小論文テーマ、先行研究、方法の検討</li> <li>18. 小論文テーマ、先行研究、方法の検討</li> <li>19. 小論文テーマ、先行研究、方法の検討</li> <li>20. 小論文テーマ、先行研究、方法の検討</li> <li>21. 小論文テーマ、先行研究、方法の検討</li> <li>22. 小論文テーマ、先行研究、方法の検討</li> <li>23. 小論文テーマ、先行研究、方法の検討</li> <li>24. 小論文の執筆・推敲</li> <li>25. 小論文の執筆・推敲</li> <li>26. 小論文の執筆・推敲</li> <li>27. 小論文の執筆・推敲</li> <li>28. 小論文の執筆・推敲</li> <li>29. 小論文の執筆・推敲</li> <li>30. 小論文の執筆・推敲</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 文献の講読、議論</li> <li>3. 文献の講読、議論</li> <li>4. 文献の講読、議論</li> <li>5. 文献の講読、議論</li> <li>6. 文献の講読、議論</li> <li>7. 文献の講読、議論</li> <li>8. 文献の講読、議論</li> <li>9. 文献の講読、議論</li> <li>10. 文献の講読、議論</li> <li>11. 文献の講読、議論</li> <li>12. 文献の講読、議論</li> <li>13. 文献の講読、議論</li> <li>14. 文献の講読、議論</li> <li>15. 文献の講読、議論</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>16. 小論文テーマ、先行研究、方法の検討</li> <li>17. 小論文テーマ、先行研究、方法の検討</li> <li>18. 小論文テーマ、先行研究、方法の検討</li> <li>19. 小論文テーマ、先行研究、方法の検討</li> <li>20. 小論文テーマ、先行研究、方法の検討</li> <li>21. 小論文テーマ、先行研究、方法の検討</li> <li>22. 小論文テーマ、先行研究、方法の検討</li> <li>23. 小論文テーマ、先行研究、方法の検討</li> <li>24. 小論文の執筆・推敲</li> <li>25. 小論文の執筆・推敲</li> <li>26. 小論文の執筆・推敲</li> <li>27. 小論文の執筆・推敲</li> <li>28. 小論文の執筆・推敲</li> <li>29. 小論文の執筆・推敲</li> <li>30. 小論文の執筆・推敲</li> </ol>						
評価方法	出席、取り組み、報告、小論文を総合的に評価する						
教材・教科書	内藤朝雄『いじめの社会理論』柏書房						
留意点							

社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)			担当教員	大野拓哉
対象学年	W4年	単位数・開講学期	6単位・通年	科目コード	W44401
概要	<p>[キーワード:憲法、人権、権利擁護]</p> <p>専門演習Ⅰを踏まえて、これまでの研究の成果を卒業研究という形に結実させていくことを目指す。なお、卒業研究は、卒業論文という形式には限らない。</p>				
到達目標	<p>卒業研究には、大学4年間の総決算という位置づけが与えられ得るので、可能な限り、何らかの形で、卒業研究の名に恥じない成果を残すことを目指す。</p>				
授業の内容	<p>1. ガイダンス</p> <p>2. ガイダンス</p> <p>3. 研究計画の策定</p> <p>4. 課題の再検討</p> <p>5. 課題の再検討</p> <p>6. 発表と討論</p> <p>7. 発表と討論</p> <p>8. 発表と討論</p> <p>9. 発表と討論</p> <p>10. 発表と討論</p> <p>11. 発表と討論</p> <p>12. 発表と討論</p> <p>13. 発表と討論</p> <p>14. 発表と討論</p> <p>15. 小括(中間発表)</p>		<p>16. 発表と討論</p> <p>17. 発表と討論</p> <p>18. 発表と討論</p> <p>19. 発表と討論</p> <p>20. 発表と討論</p> <p>21. 発表と討論</p> <p>22. 発表と討論</p> <p>23. 発表と討論</p> <p>24. 発表と討論</p> <p>25. 発表と討論</p> <p>26. 発表と討論</p> <p>27. 発表と討論</p> <p>28. 発表と討論</p> <p>29. 発表と討論</p> <p>30. 総括(卒業研究の完成)</p>		
評価方法	<p>各回の発表、討論の出来のほか、最終的には卒業研究を評価の対象とする。</p>				
教材・教科書	<p>特に指定しない。</p>				
留意点	<p>特に排除するものではないが、できれば、私の「専門演習Ⅰ」を履修した者であることが望ましい。</p>				

社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)			担当教員	葛西久志
対象学年	W4年	単位数・開講学期	6単位・通年	科目コード	W44402
概要	<p>[キーワード: 精神保健福祉関連問題]</p> <p>地域における様々な精神保健福祉問題(自殺対策、アデクシオン対策問題、認知症問題等)からテーマを取り上げ、研究レポートを作成する。</p>				
到達目標	卒業論文を完成させることが最終かつ最大目標である。				
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス (課題: スケジュール作成)</li> <li>2. 個人面談 (スケジュール・暫定テーマ)</li> <li>3. 個人面談 (スケジュール・暫定テーマ)</li> <li>4. 卒論指導 (論文の書き方)</li> <li>5. 卒論指導 (文献の探し方)</li> <li>6. 卒論指導 (文献の探し方)</li> <li>7. 卒論指導 (論文素描: 仮説)</li> <li>8. 卒論指導 (論文素描: 仮説)</li> <li>9. 卒論指導 (論文素描: 研究方法)</li> <li>10. 卒論指導 (論文素描: 研究方法)</li> <li>11. 卒論指導 (論文構成: 章立て)</li> <li>12. 卒論指導 (論文構成: 章立て)</li> <li>13. 中間発表会① (タイトル・序論など)</li> <li>14. 中間発表会② (タイトル・序論など)</li> <li>15. 前期まとめ</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>16. タイムスケジュール、構成等の再確認</li> <li>17. 卒論個別指導</li> <li>18. 卒論個別指導</li> <li>19. 卒論個別指導</li> <li>20. 卒論個別指導</li> <li>21. 卒論個別指導</li> <li>22. 中間報告会</li> <li>23. 卒論個別指導</li> <li>24. 卒論個別指導</li> <li>25. 卒論個別指導</li> <li>26. 卒論個別指導</li> <li>27. 卒論個別指導</li> <li>28. 発表会①</li> <li>29. 発表会②</li> <li>30. 総まとめ</li> </ol>		
評価方法	出席状況と卒業論文の作成過程状況や、論文の内容など総合評価する。				
教材・教科書	オリジナル資料配布 (卒業論文の書き方など)、他は適宜個別指示する。				
留意点	希望があれば、国家試験対策 (受験対策方法、精神保健福祉に関する知識の整理) へのアドバイスも行なう。				



社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)			担当教員	齋藤 繁		
対象学年	W4年	単位数・開講学期	6単位・通年	科目コード	W44403		
概要	<p>[キーワード: 人間心理、福祉心理、障害者・高齢者の臨床、心理支援技術]</p> <p>人間福祉、福祉心理に関係した問題を取り上げ、まず文献・資料の検討を重ね、独創的な発想と独自の視座から構想を練るようにする。特に、障害児(者)、高齢者に関係したテーマや臨床心理支援技術に関係のあるテーマの指導を行う。</p>						
到達目標	<p>研究課題の選定、適切な文献資料の収集を急ぎ、早い時期にテーマ領域の決定を図る。そして、研究報告か卒業論文とするかの区別を明確にする。</p> <p>研究報告、卒業論文の書き方と発表の仕方について習熟するようにする。</p>						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各自研究構想について話し合う</li> <li>2. フィールドワーク、調査研究の進め方</li> <li>3. 文献・資料研究の進め方①</li> <li>4. 文献・資料研究の進め方②</li> <li>5. 文献・資料研究の進め方③</li> <li>6. 心理学的方法による研究の進め方</li> <li>7. 個人研究テーマの選定</li> <li>8. 関連文献のファイリング</li> <li>9. 先行研究を参考にする①</li> <li>10. 先行研究を参考にする②</li> <li>11. 研究仮説の設定①</li> <li>12. 研究仮説の設定②</li> <li>13. テーマ領域と研究対象の決定</li> <li>14. 研究構想を発表する</li> <li>15. 研究構想のディベート</li> </ol> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>16. 研究構想のディベート</li> <li>17. 研究調査の開始と継続①</li> <li>18. 研究調査の開始と継続②</li> <li>19. 研究調査の開始と継続③</li> <li>20. 研究調査の開始と継続④</li> <li>21. 研究調査の開始と継続⑤</li> <li>22. 研究結果の整理と分析①</li> <li>23. 研究結果の整理と分析②</li> <li>24. 論文構成の手順の検討と執筆</li> <li>25. 引用・参考文献の点検・評価</li> <li>26. 論文の点検・評価①</li> <li>27. 論文の点検・評価②</li> <li>28. 論文の中間発表を行う</li> <li>29. 論文のテーマと内容との整合性のフィードバック</li> <li>30. 卒業論文発表会</li> </ol> </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各自研究構想について話し合う</li> <li>2. フィールドワーク、調査研究の進め方</li> <li>3. 文献・資料研究の進め方①</li> <li>4. 文献・資料研究の進め方②</li> <li>5. 文献・資料研究の進め方③</li> <li>6. 心理学的方法による研究の進め方</li> <li>7. 個人研究テーマの選定</li> <li>8. 関連文献のファイリング</li> <li>9. 先行研究を参考にする①</li> <li>10. 先行研究を参考にする②</li> <li>11. 研究仮説の設定①</li> <li>12. 研究仮説の設定②</li> <li>13. テーマ領域と研究対象の決定</li> <li>14. 研究構想を発表する</li> <li>15. 研究構想のディベート</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>16. 研究構想のディベート</li> <li>17. 研究調査の開始と継続①</li> <li>18. 研究調査の開始と継続②</li> <li>19. 研究調査の開始と継続③</li> <li>20. 研究調査の開始と継続④</li> <li>21. 研究調査の開始と継続⑤</li> <li>22. 研究結果の整理と分析①</li> <li>23. 研究結果の整理と分析②</li> <li>24. 論文構成の手順の検討と執筆</li> <li>25. 引用・参考文献の点検・評価</li> <li>26. 論文の点検・評価①</li> <li>27. 論文の点検・評価②</li> <li>28. 論文の中間発表を行う</li> <li>29. 論文のテーマと内容との整合性のフィードバック</li> <li>30. 卒業論文発表会</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各自研究構想について話し合う</li> <li>2. フィールドワーク、調査研究の進め方</li> <li>3. 文献・資料研究の進め方①</li> <li>4. 文献・資料研究の進め方②</li> <li>5. 文献・資料研究の進め方③</li> <li>6. 心理学的方法による研究の進め方</li> <li>7. 個人研究テーマの選定</li> <li>8. 関連文献のファイリング</li> <li>9. 先行研究を参考にする①</li> <li>10. 先行研究を参考にする②</li> <li>11. 研究仮説の設定①</li> <li>12. 研究仮説の設定②</li> <li>13. テーマ領域と研究対象の決定</li> <li>14. 研究構想を発表する</li> <li>15. 研究構想のディベート</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>16. 研究構想のディベート</li> <li>17. 研究調査の開始と継続①</li> <li>18. 研究調査の開始と継続②</li> <li>19. 研究調査の開始と継続③</li> <li>20. 研究調査の開始と継続④</li> <li>21. 研究調査の開始と継続⑤</li> <li>22. 研究結果の整理と分析①</li> <li>23. 研究結果の整理と分析②</li> <li>24. 論文構成の手順の検討と執筆</li> <li>25. 引用・参考文献の点検・評価</li> <li>26. 論文の点検・評価①</li> <li>27. 論文の点検・評価②</li> <li>28. 論文の中間発表を行う</li> <li>29. 論文のテーマと内容との整合性のフィードバック</li> <li>30. 卒業論文発表会</li> </ol>						
評価方法	出席状況、レポート審査、口頭試問などにより総合的に評価する。						
教材・教科書	テーマと関連する文献・資料は適宜提示する。						
留意点	独断と偏見を避けるため討議することが大切である。						

社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)			担当教員	野口 伐名
対象学年	W4年	単位数・開講学期	6単位・通年	科目コード	W44404
概要	<p>[キーワード: 家庭福祉を問う]</p> <p>家庭福祉に関する論文「家族と福祉の未来」(山根常男氏)と『ケアする人のケア』への3つのアプローチ(播磨靖夫氏)を手がかりに、今、児童家庭福祉に求められているものは何か、具体的に考察を試みようとするものである。</p>				
到達目標	<p>これまでの子どもや家庭の保護的・扶助的福祉であるウェルフェアとしての福祉から、子どもの育成基盤である家庭を重視して、家庭での養育を社会が支援するウェルビーイングとしての福祉の理解を深めながら、児童家庭福祉の構築について考察を加える。</p>				
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間にとって家庭とはなにか</li> <li>2. 多様化するライフスタイル</li> <li>3. 家族の原点は子育てに</li> <li>4. 個人と社会人との統合</li> <li>5. 学習成果の話し合い(発表)①</li> <li>6. 学習の矛盾的な側面</li> <li>7. 家族の二つの機能</li> <li>8. 個人・家族・社会の関係</li> <li>9. 家族と子どもの人格発達</li> <li>10. 学習成果の話し合い(発表)②</li> <li>11. 家族における愛情と権威の相互関係</li> <li>12. 家族の社会に対する適応と抵抗</li> <li>13. テクノ社会における家族の問題</li> <li>14. 家族の役割</li> <li>15. 学習成果の話し合い(発表)③</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>16. ケアする人のケア</li> <li>17. つながりの結び直し</li> <li>18. ケアする人のケアとは何か</li> <li>19. ケアする人の孤立をどのようにして支えていくか</li> <li>20. 学習成果の話し合い(発表)④</li> <li>21. 地域社会でケアをサポートするNPO</li> <li>22. 自然を取り入れた緩和ケアの効果</li> <li>23. ケアする人のケア3つのアプローチ①</li> <li>24. ケアする人のケア3つのアプローチ②</li> <li>25. ケアする人のケア3つのアプローチ③</li> <li>26. 学習成果の話し合い(発表)⑤</li> <li>27. 児童家庭福祉の問題</li> <li>28. 子育て支援の推進</li> <li>29. 保育における家族援助</li> <li>30. 学習成果の話し合い(発表)⑥</li> </ol>		
評価方法	レポート(70点)、出席状況(30点)				
教材・教科書	授業内容に関するレジメを随時配布する。				
留意点	常に子どもの問題に関心を持っていることが大切である。				

社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)			担当教員	松本郁代
対象学年	W4年	単位数・開講学期	6単位・通年	科目コード	W44405
概要	[キーワード:社会福祉の歴史, 社会事業] 日本における社会福祉の歴史について、テーマを設定し、論文もしくはレポートを執筆する。				
到達目標	卒業論文またはレポートを執筆すること。安易に「論文」・「研究」という言葉を使わないようになること。				
授業の内容	1.論文とレポートの違い 2.何のために、何を書くのか 3.年間計画の立て方 4.実際の進め方 5.テーマ設定の仕方 6.先行研究の探し方 7.先行研究の読み方 8.研究方法の選び方 9.調査的面接の方法について 10.調査的面接の実際① 11.調査的面接の実際② 12.研究の倫理 13.文献検索の方法 14.文献検索の実際①学内 15.文献検索の実際②学外		16.論文のきまり 17.引用の示し方 18.参考文献・引用文献の書き方 19.専門用語の定義の仕方 20.事実と意見の分け方 21.論理的に書くには 22.註と見出しのつけ方 23.論文構成の実際 24.卒論の展開の仕方 25.論文の点検と推敲の仕方 26.卒論の報告・議論① 27.卒論の報告・議論② 28.卒論発表の仕方 29.発表論文の書き方 30.まとめ		
評価方法	出席状況:卒論・レポート=5:5				
教材・教科書	岩田正美・小林良二・中谷陽明・稲葉昭英 編(2006)『社会福祉研究法』有斐閣 白井利明・高橋一郎 著 (2008)『やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房				
留意点	社会福祉発達史A・Bを履修していることが望ましい				

社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)			担当教員	小川 幸裕
対象学年	W4年	単位数・開講学期	6単位・通年	科目コード	W44501
概要	[キーワード:ソーシャルワーク、社会福祉士] 社会福祉に関わるテーマを学生自ら設定し、テーマに関係する文献を収集する。テーマについて理解を深めるとともに論点を整理した上で報告を行う。				
到達目標	自ら設定したテーマについて研究報告する。				
授業の内容	1.オリエンテーション 2.テーマの設定 3.テーマの設定 4.報告及びディスカッション 5.報告及びディスカッション 6.報告及びディスカッション 7.報告及びディスカッション 8.報告及びディスカッション 9.振り返り 10.報告及びディスカッション 11.報告及びディスカッション 12.報告及びディスカッション 13.報告及びディスカッション 14.報告及びディスカッション 15.振り返り		16.先行研究・方法の検討 17.先行研究・方法の検討 18.報告及びディスカッション 19.報告及びディスカッション 20.報告及びディスカッション 21.報告及びディスカッション 22.報告及びディスカッション 23.振り返り 24.報告及びディスカッション 25.報告及びディスカッション 26.報告及びディスカッション 27.報告及びディスカッション 28.報告及びディスカッション 29.報告及びディスカッション 30.まとめ		
評価方法	報告5割、討論など参加状況5割				
教材・教科書					
留意点					

社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)			担当教員	北村 繁
対象学年	W4年	単位数・開講学期	6単位・通年	科目コード	W44502
概要	<p>[キーワード: 地理学・地形学・火山灰編年学]</p> <p>地理学・地形学・火山灰編年学のいずれかの分野で、学生自らテーマを設定し、調査・分析を行う。</p>				
到達目標	<p>自ら設定したテーマについて、調査・分析を行い、論文を作成する。</p>				
授業の内容	<p>前期: ①卒業研究にあたり、具体的に何をどこまで明らかにするのか、テーマを絞り込む。 ②研究計画を立てる。③調査・分析をすすめる ④調査した結果からどんなことが明らかにできるか、再検討する</p> <p>後期: ⑤調査結果をまとめ、分析と考察をすすめる。⑥卒業論文を作成する。</p> <p>※なお、担当教員の2013年度の研究テーマは次の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 中米エルサルバドル・レンパ川下流域の地形発達史</li> <li>② 中米・エルサルバドル中部地域の火山灰層序</li> <li>③ 火山灰層序に基づく岩木山・八甲田山・十和田火山の噴火史</li> <li>④ オープンソースGISによるGIS教育</li> </ul>				
評価方法	<p>毎回の口頭試問、途中経過の発表、卒業論文</p>				
教材・教科書	<p>テーマ設定後にそれに合わせて選ぶ</p>				
留意点	<p>ある程度の専門知識を前提とするので、履修登録の前に、必ず相談に来ること。 また、実際の単位習得あたっては、時間外の作業・調査・学習がかなり必要になる。</p>				

社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)			担当教員	西東克介
対象学年	W4年	単位数・開講学期	6単位・通年	科目コード	W44503
概要	<p>[キーワード：専門演習Ⅰ履修者への助言、研究と実践と専門性とは何か]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業研究の途中経過を発表する。</li> <li>途中経過の発表は卒業研究全体のどの部分にあたり、残りをどのように仕上げていくのかを説明する。</li> </ul>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業研究を仕上げる。</li> <li>卒業研究を仕上げられなかった場合は、発表し続けたものを冊子にまとめる。</li> <li>西東の専門演習Ⅰを履修している3年生への積極的な助言。</li> </ul>				
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.本専門演習Ⅱの概要説明</li> <li>2.専門演習Ⅱとは何か</li> <li>3.専門演習Ⅱの意義</li> <li>4.学術論文とは何か</li> <li>5.実証とは何か</li> <li>6.理論とは何か</li> <li>7.価値とは何か</li> <li>8.哲学とは何か</li> <li>9.思想とは何か</li> <li>10.道徳とは何か</li> <li>11.倫理とは何か</li> <li>12.規範とは何か</li> <li>13.政策とは何か</li> <li>14.自然科学とは何か</li> <li>15.社会科学とは何か</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>16.人文科学とは何か</li> <li>17.実践とは何か</li> <li>18.応用科学とは何か</li> <li>19.専門性(プロフェッション)とは何か</li> <li>20.専門分化とその弊害</li> <li>21.総合性とその弊害</li> <li>22.学問と政策論(政策科学)の違い</li> <li>23.宗教とは何か(宗教と学問の違い)</li> <li>24.ユダヤ教・キリスト教・イスラム教</li> <li>25.仏教・儒教・神道</li> <li>26.宗教・人種・民族について</li> <li>27.ユダヤ人とローマについて</li> <li>28.客家(はっか)とカースト制度について</li> <li>29.アメリカの黒人とインディオについて</li> <li>30.大学と福祉学部で学ぶ意義</li> </ol>		
評価方法	出席(前提)、発表に関わる過程、短縮論文か卒業研究(いずれかを最後に1回のみ提出)を総合する。				
教材・教科書	教科書：産能短期大学日本語教育研究所著『研究発表の方法』、凡人社、2,300円。				
留意点	本専門演習Ⅱの履修希望者は、本演習が終わる年度までに、少なくとも「政治学」、「行政学」、あるいは「生徒指導論」の履修をしておくこと。できれば単位習得を望む。上記の授業内容は、演習の時間の中で、わずかな時間があったときに教員が学生に説明を心がけるものである。よって、授業の中心は、各自が調べ、研究したものを発表し、これを全員で討論することが中心となる。				

社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)			担当教員	高橋和幸
対象学年	W4年	単位数・開講学期	6単位・通年	科目コード	W44504
概要	[キーワード: 先行研究 研究目的 仮説 調査方法の選択 データの分析と解釈] 専門演習Ⅰで調べた内容について更に調べを進めます。たとえば、海外ではどのように対策が取り組まれているか、国内での先進事例探し、あるいは地元での地道な取り組みに密着取材する等が考えられます。卒業論文として一生の思い出になるものを一緒に完成させていきましょう。				
到達目標	研究課題を設定し、信念をもって調べ、納得のいく卒論を完成させることです。				
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. テーマの検討</li> <li>3. テーマの大枠を設定</li> <li>4. 先行研究などの資料収集にあたって、どんな方法で、どんな視点でみるべきか討論</li> <li>5. 先行研究の資料収集に関する情報交換</li> <li>6. 研究分野が近い学生同士が班になり、助け合って図書館にて文献収集を行う①</li> <li>7. 共同での調査②</li> <li>8. 調べた結果についての報告、意見交換</li> <li>9. 調べた結果についての報告、意見交換</li> <li>10. 仮説の設定と調査方法の検討①</li> <li>11. 仮説の設定と調査方法の検討②</li> <li>12. 論文の書き方について復習</li> <li>13. 研究計画書(仮)を作成</li> <li>14. 意見交換を踏まえ研究計画書を完成</li> <li>15. 前半の振り返り</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>16. 集めたデータと、自分の研究計画とをつき合わせて、経過報告書を作成</li> <li>17. 経過報告①</li> <li>18. 経過報告②</li> <li>19. 追跡調査、追加で行うべき調査について討論</li> <li>20. 章立て構成の検討</li> <li>21. 追加で行った調査結果を含め状況報告</li> <li>22. 追加で行った調査結果を含め状況報告</li> <li>23. 論文執筆状況報告、意見交換</li> <li>24. 再確認や再度の追跡調査の必要がないかデータの分析や解釈について討論</li> <li>25. 論文執筆状況報告、意見交換</li> <li>26. パワーポイントによる最終発表の準備</li> <li>27. 最終発表会①(質疑応答含む)</li> <li>28. 最終発表会②(質疑応答含む)</li> <li>29. 発表会での質疑応答を踏まえた論文の加筆修正作業、提出</li> <li>30. 一年間の振り返り(成果の分かち合い)</li> </ol>		
評価方法	出席点 20 点、論文 40 点、報告 20 点				
教材・教科書	各自、専門領域を調査することになるので、ゼミ生共通のテキストはありません。				
留意点	論文の作成状況は、就職活動の影響も受けますし、調べる領域によっては先行研究が少なく文献探索に長期期間を要すること等も影響します。計画的な行動を心掛けましょう。				

社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)			担当教員	棟方達也
対象学年	W4年	単位数・開講学期	6単位・通年	科目コード	W44505
概要	<p>[キーワード: アウトドアスポーツ]</p> <p>卒業研究は、必ずしも論文形式とは限らない、自分が絞り込んだテーマに関して最もふさわしい表現方法を選択すべきである。(企画、体験、創作 等を含む)</p>				
到達目標	卒業研究の結実				
授業の内容	1.ガイダンス 2.年間計画 3.卒業研究指導 4.卒業研究指導 5.卒業研究指導 6.卒業研究指導 7.卒業研究指導 8.卒業研究指導 9.卒業研究指導 10.卒業研究指導 11.卒業研究指導 12.卒業研究指導 13.卒業研究指導 14.卒業研究指導 15.卒業研究指導		16.卒業研究指導 17.卒業研究指導 18.卒業研究指導 19.卒業研究指導 20.卒業研究指導 21.卒業研究指導 22.卒業研究指導 23.卒業研究指導 24.卒業研究指導 25.卒業研究指導 26.卒業研究指導 27.卒業研究指導 28.卒業研究指導 29.卒業研究指導 30.卒業研究発表		
評価方法	卒業研究100%				
教材・教科書					
留意点	原則として、3年次の専門演習Ⅰは棟方ゼミを履修していること。実技の専門性を高めるために可能な限り、専門演習Ⅰの実習にアドバイザーとして参加することが望ましい。				



社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)			担当教員	遠藤 ゆり子
対象学年	W4年	単位数・開講学期	6単位・通年	科目コード	W44601
概要	<p>[キーワード: 歴史・日本・伊達政宗 ]</p> <p>前期は、戦国～江戸時代に生きた伊達政宗の話を書き留めたという、『伊達政宗言行録』を読む。後期は、各自が選んだ課題について報告し、全体で討論を行う。その上で、各自の課題について学んだ成果として、卒業論文または卒業レポートを作成する。</p>				
到達目標	<p>*史料の読解力を養う。</p> <p>*歴史学の方法、社会科学研究方法の基礎を学ぶ。</p> <p>*卒業論文または卒業レポートを提出する。</p>				
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 伊達政宗と『伊達政宗言行録』</li> <li>3. 『伊達政宗言行録』を読む①</li> <li>4. 『伊達政宗言行録』を読む②</li> <li>5. 『伊達政宗言行録』を読む③</li> <li>6. 『伊達政宗言行録』を読む④</li> <li>7. 『伊達政宗言行録』を読む⑤</li> <li>8. 『伊達政宗言行録』を読む⑥</li> <li>9. 『伊達政宗言行録』を読む⑦</li> <li>10. 『伊達政宗言行録』を読む⑧</li> <li>11. 『伊達政宗言行録』を読む⑨</li> <li>12. 『伊達政宗言行録』を読む⑩</li> <li>13. 『伊達政宗言行録』を読む⑪</li> <li>14. 『伊達政宗言行録』を読む⑫</li> <li>15. 『伊達政宗言行録』を読む⑬</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>16. 学生の報告・討論</li> <li>17. 学生の報告・討論</li> <li>18. 学生の報告・討論</li> <li>19. 学生の報告・討論</li> <li>20. 学生の報告・討論</li> <li>21. 学生の報告・討論</li> <li>22. 学生の報告・討論</li> <li>23. 学生の報告・討論</li> <li>24. 学生の報告・討論</li> <li>25. 学生の報告・討論</li> <li>26. 学生の報告・討論</li> <li>27. 学生の報告・討論</li> <li>28. 学生の報告・討論</li> <li>29. 学生の報告・討論</li> <li>30. 学生の報告・討論</li> </ol>		
評価方法	<p>*報告(30点)</p> <p>*卒業論文または卒業レポート(70点)</p>				
教材・教科書	適宜、プリントやコピーを配付し、参考文献を紹介する。				
留意点	受講生の人数によっては、学生の報告日に増減がある。				

社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)			担当教員	柘植秀通
対象学年	W4年	単位数・開講学期	6単位・通年	科目コード	W44602
概要	<p>[キーワード: 生命, 哲学]</p> <p>社会福祉の基本には、人とは何であるか、人間の存在価値とはなにか、幸福とは何か、といった哲学的に深い問題がある。こうした哲学的問題を、それぞれの発表や討論等を通して、学ぶ。</p>				
到達目標	<p>人間の尊厳とはなにか、なぜ人間は尊いといえるのか、といった問題に自分なりの答えを出せるようになること。</p>				
授業の内容	<p>1.福祉と哲学1</p> <p>2.福祉と哲学2</p> <p>3.人間の尊厳1</p> <p>4.人間の尊厳2</p> <p>5.人間の尊厳3</p> <p>6.自由について1</p> <p>7.自由について2</p> <p>8.自己決定について1</p> <p>9.自己決定について2</p> <p>10.キリスト教倫理について1</p> <p>11.キリスト教倫理について2</p> <p>12.生命について1</p> <p>13.生命について2</p> <p>14.生命について3</p> <p>15.生命について4</p>		<p>16.人工妊娠中絶について1</p> <p>17.人工妊娠中絶について2</p> <p>18.安楽死について1</p> <p>19.安楽死について2</p> <p>20.性同一性障害について1</p> <p>21.性同一性障害について2</p> <p>22.サイボーグ技術と人間のあり方1</p> <p>23.サイボーグ技術と人間のあり方2</p> <p>24.難民と戦争1</p> <p>25.難民と戦争2</p> <p>26.世界の貧困問題1</p> <p>27.世界の貧困問題2</p> <p>28.人間の存在価値について1</p> <p>29.人間の存在価値について2</p> <p>30.福祉の意味について</p>		
評価方法	<p>それぞれのテーマで、発表を行いながら、卒業論文にまでつなげていき、最終的には、その論文の内容で判断する。それに加えて、授業内での発表と出席を勘案して評価する。</p>				
教材・教科書	<p>特になし。</p>				
留意点					

社会福祉専門教育科目(専門専攻領域科目)

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)			担当教員	藤岡真之
対象学年	W4年	単位数・開講学期	6単位・通年	科目コード	W44603
概要	[キーワード: 卒業論文] 自らの関心に基づき研究テーマを設定し、卒業論文を執筆する				
到達目標	これまで学んできたことを元に、自分の関心を掘り下げ、粘り強く追求する。論文を書き上げた後に「大学時代、自分はこのテーマについて深く考えた」と納得できるようになること。				
授業の内容	1. ガイダンス 2. 論文の書き方 3. 論文の書き方 4. 論文の書き方 5. 論文テーマ、先行研究、方法の検討 6. 論文テーマ、先行研究、方法の検討 7. 論文テーマ、先行研究、方法の検討 8. 論文テーマ、先行研究、方法の検討 9. 論文テーマ、先行研究、方法の検討 10. 論文テーマ、先行研究、方法の検討 11. 論文テーマ、先行研究、方法の検討 12. 論文テーマ、先行研究、方法の検討 13. 論文テーマ、先行研究、方法の検討 14. 論文テーマ、先行研究、方法の検討 15. 論文テーマ、先行研究、方法の検討		16. 論文の執筆・推敲 17. 論文の執筆・推敲 18. 論文の執筆・推敲 19. 論文の執筆・推敲 20. 論文の執筆・推敲 21. 論文の執筆・推敲 22. 論文の執筆・推敲 23. 中間報告 24. 論文の執筆・推敲 25. 論文の執筆・推敲 26. 論文の執筆・推敲 27. 論文の執筆・推敲 28. 論文の執筆・推敲 29. 論文の執筆・推敲 30. 論文の発表		
評価方法	出席、途中の報告、卒業論文を総合的に評価する。				
教材・教科書					
留意点					

